平成21年第2回基山町議会（定例会）会議録（第4日）						
招集年月日	平成21年6月10日					
招集の場所	基山町議会議場					
開閉会日時	開会	平成21年6月10日	9時33分	議長	酒井恵明	
及び宣告	散会	平成21年6月10日	10時26分	議長	酒井恵明	
応（不応） 招議員及び 出席並びに 欠席議員 出席12名 欠席1名 欠員1名	議席 番号	氏 名	出席等 の 別	議席 番号	氏 名	出席等 の 別
	1番	大 山 勝 代	出	8番	林 博 文	出
	2番	重 松 一 徳	出	9番	大 山 軍 太	出
	3番	後 藤 信 八	出	10番	松 石 信 男	出
	4番	鳥 飼 勝 美	出	11番	原 三 夫	出
	5番	片 山 一 儀	出	12番	平 田 通 男	出
	6番	品 川 義 則	出	13番	池 田 実	出
				14番	酒 井 恵 明	出
会議録署名議員	11番	原 三 夫	12番	平 田 通 男		
職務のため議場に 出席した者の職氏名	（事務局長） 古 賀 敏 夫		（係長） 古 賀 初 美		（書記） 毛 利 博 司	
地方自治法 第121条に より説明の ため出席 した者の 職 氏 名	町 長 教 育 長 総 務 課 長 企画政策課長 税務住民課長 健康福祉課長	小 森 純 一 松 隈 亞旗人 大 石 実 小 野 龍 雄 安 永 靖 文 岩 坂 唯 宜	こども課長 農林環境課長 まちづくり推進課長 会計管理者 教育学習課長	内 山 敏 行 吉 浦 茂 樹 平 野 勉 高 木 英 文 毛 利 俊 治		
議 事 日 程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会 議 の 経 過	別紙のとおり					

会議に付した事件

日程第 1	第32号議案	基山町立図書館設置条例の制定について
日程第 2	第33号議案	基山町ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部改正について
日程第 3	第34号議案	町道の路線の廃止について
日程第 4	第35号議案	町道の路線の認定について
日程第 5	第36号議案	平成21年度基山町一般会計補正予算（第 1 号）
日程第 6	第37号議案	平成21年度基山町国民健康保険特別会計補正予算（第 1 号）
日程第 7	第38号議案	平成21年度基山町下水道特別会計補正予算（第 1 号）
日程第 8	第39号議案	基山町公共下水道工事請負契約について
日程第 9	第40号議案	基山町公共下水道工事請負契約について
日程第10	第41号議案	基山町立基山小学校屋外運動場整備工事請負契約について

～ 午前 9 時 50 分 開議 ～

議長（酒井恵明君）

ただいまの出席議員数は13名で定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。

これより直ちに開議します。

日程第 1 第32号議案

議長（酒井恵明君）

日程第 1 . 第32号議案 基山町立図書館設置条例の制定についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。鳥飼議員。

4 番（鳥飼勝美君）

おはようございます。図書館設置条例について質問いたします。

この条例改正案は、教育委員会の所管事項、教育学習課で起案、起草され、法令審査委員会の審査を経て町長が議案として提出されたものと思いますが、この条例改正案の審査過程における問題点並びに法令があったのかなかったのか、法令審査担当課長にお伺いします。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

基山町図書館設置条例になっておりますので、審査過程でちょっと問題といたしますが、第 1 条の図書館法第10条に基づきというのが設置のことをうたってあるところだと思います。それについて、下の第 3 条の職員までを入れるべきかどうか、それが多分第13条になっていと思いますので、その辺の議論をちょっとしましたけれども、こういうことでしたいということで、今回こういう提案になっております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

鳥飼議員。

4 番（鳥飼勝美君）

ちょっと私、疑問点があるわけでございますけど、この図書館条例、すなわち非常に整理されてスリムになった、いい条例ができておるとは思いますけど、基本的な問題でございますけど、従前は基山町立図書館の設置及び管理条例というふうになっておったわけですね。

今回、基山町立図書館設置条例ということで、管理の部分が削除されております。このことは、この基山町立図書館というのは、地方自治法第244条の公の施設であるわけですね。この公の施設につきましては、同法第244条の2第1項で、公の施設には、設置及び管理に関する条項は条例で定めなければならないという規定があるわけですね。これに関しましては、今回の条例改正では設置はうたっておりますけど、管理に関する条例が削除してあると。ということは、この地方自治法第244条の2との関連性はどういうふうにかえたらよろしいですか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

今回御提案いたしております図書館条例については、基本的には図書館法に基づきましての設置という考えで御提案いたしておりますので、図書館法には設置に関する部分については条例の中でうたうということになっておりますので、他市町の図書館条例につきましても設置の部分だけをうたっている条例がほとんどございまして、管理の部分に関しましては規則の中でうたっておりますので、本町におきましても図書館法に基づく設置部分を条例でうたうようにいたしまして、改正をお願いいたしております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

烏飼議員。

4番（烏飼勝美君）

ということは、地方自治法第244条でいう公の施設の範疇には入らないと。図書館というのは、ちょっと言うなら町立体育館の設置及び管理に関する条例、町民会館の設置及び管理に関する条例、いろんな公の施設がありますよね。そういうのは全部設置及び管理、管理に関する条項が全部入っているんですよ。初めて、この図書館だけ管理に関する条項が欠落しているんですよ。これは図書館といえども、町民会館、体育館、いろんな公の施設については、すべて設置及び管理というふうな条項が入って、図書館だけは管理については施行者である教育委員会なりが町民の代表である議会の審議を経なくて、条例設置をしなくても規則で簡単に決めていいと、図書館だけは。ほかのは町民の代表である議会でも審査をして、管理に関する条項は条例事項ですけど、図書館だけは公の施設でも管理に関する条項は必要

ないというふうなとらえ方と普通の公の施設との整合性がちょっと問題になるんじゃないか
と思いますけど。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

確かに管理に関する部分は前回までの設置及び管理条例の中には規定をいたしておりましたけど、この部分につきましても、この設置条例を御提案するときにも県のほうにも確認いたしておりますけど、管理に関する部分は規則の中でもよいというふうな答えもいただいております。今回、4月から新たに神崎市と玄海町のほうが、今までは図書室だったものを図書館という位置づけで図書館条例を出しておりますけど、その中でも管理に関する部分は規則のほうでうたわれておりますので、本町の条例については、これで間違いはないというふうには考えております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

3点、同じ条例で質問します。

1つは、今回、教育基本法、社会教育法、図書館法が改定されました。今回、図書館条例を変えたことがそれと連動しているかどうか1点の質問。

2点目は、今、鳥飼議員からもありましたけれども、条例で定める事項と規則で定める事項、この区別をどのようにお考えなんですか。管理運営も含んでですね。

3点目は、町長が協働だ、協働だとおっしゃっている。にもかかわらず、今回、新たに条例を見直した。よくするという意思のもとにあるんですが、なぜ図書館協議会を入れなかったのか、これをお伺いしたい。

3点ですね。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

1点目の社会教育法との連動はということは、そこは今回の部分には連動はいたしており

ません。

条例と規則の条例の整備でございますけど、今回の部分については、図書館法の中に定めてあります部分を条例で定めておりますので、そういうことで御理解いただきたいというふうに思います。

図書館協議会につきましては、今回の改正分の中では、その部分は一応考慮はいたしておりません。

以上です。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

問いに答えていただいていない。要するにどういうものを条例に含め、どういうものを規則に含めるのかという判断、考え方を聞いたのに、御理解くださいでは答えになっていないですね。まず、きちっと判断を示してください。

それから、今回、大きな改正があっているんです、社会教育法も図書館法も。それが連動していないというのは、ただ県に聞いて、要するに法律に基づいてしっかり研究して自分の考えを出さなかったら、地方自治体がある意義がなくなってくるんじゃないですか。しかも、この図書館協議会というのは、つくることができることになっています。町長がおっしゃっている協働、図書館協議会のメンバーを集めて図書館をどうするかということを検討することを入れないという発想自体が町長の協働という趣旨に反するんじゃないですか。そのところはいかがですか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

先ほども申し上げましたけど、条例と規則の作り方の部分につきましては、条例の部分については図書館法に基づく条例で定めなければならない部分を規定いたしておりますので、それ以外の部分の管理とか、そういう部分につきましては規則の中で条文整備をいたしております。

また、図書館協議会につきましては、今までの条例の中にもありませんでしたので、今回の中にはうたっておりませんが、今後、そういうことまで含めて協議をしていく必要はあ

ると思います。

以上です。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

連動していないというのも問題なんですけれども、よく勉強されていないと思うんですが、要するに法というのは、あれは条例というのは法なんです。議会になぜ諮るか。住民をコントロールするからなんです。規則、これは町長が勝手につくれるのは自分の事務手続だけを決めるからなんです。自分の部下をコントロールするためにつくるから、基本的にはそうなっているんです。それは政令でも同じなんです、考え方は。そこあたりをもう一回、文教厚生の中ですから、文教厚生常任委員会で、鳥飼議員も一緒ですから、そこでしっかり御検討いただきたい。

それから、図書館協議会は多分念頭になかったんじゃないですか。つくろうとか、つくるまいとかいう気づきがあったんじゃないですかね。あれば、当然入れておけばつくれるわけですよ。そこに図書館協議会というものがあるということすら、図書館法から読み取っていなかったんじゃないか。それを読み取ってれば、町長がおっしゃっている協働は当然やらなきゃいけない事項ですよ。町長のおっしゃっていることと実務担当課がちぐはぐ、一貫性がない。

このことについては、また常任委員会でしっかり議論させていただきますので、3回目ですから、もし今についての返事があればお聞かせ願いたい。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。課長、その前に、先ほどの町長のいつもおっしゃる協働のまちづくり、協働の意に反するのではないかという問いもあっておったから、それについても答弁してください。

教育学習課長（毛利俊治君）

片山議員の図書館協議会の部分につきましては、図書館協議会の部分が図書館法の中とか他市町の中にもあることは存じておりますけど、今回の改正分につきましては、あくまで今までの利用できる者の範囲とか、そういう図書館としてのふさわしくない部分とかもありましたので、その部分の整理のための図書館条例の改正でございますので、あることは知って

おりますけど、基本的にそこまでの配慮はいたしておりませんでした。

また、協働につきましても、図書館については、もちろん協働に対する考え方は大事なものと思っておりますので、今後、図書館の今後のあり方等まで含めたところで、そういう部分まで含めて検討はいたしていきたいというふうに思っております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

質問者もおっしゃっておられるとおり、常任委員会のほうでまた十分なる審査、審議をしてください。

ほかにございませんか。重松議員。

2番（重松一徳君）

少し具体的な中身について質問したいと思いますけれども、改正前については、図書館を利用できる者の範囲ということで第5条でうたって、今回は、改正後はこれは規則のほうでうたわれておりますけれども、利用できる人の範囲については今回入っていませんし、貸し出しできる部分について第7条で規定されております。それで、貸し出しが今回大きく、基山町内だけじゃなくて、鳥栖市、久留米市及び小郡市と。これは3月議会で条例改正した部分の中身が今回規則に入ってきているんだろうと思います。

それで、利用できると貸し出しは基本的に違いますので、利用できる範囲をどのような規定で考えてあるのか。別に規定はしていませんと、御自由にだれでも利用できますというふうなとらえ方でいいのか確認いたします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

図書館の性格からいきまして、利用できる者の範囲というものを定めておったこと自体が余りふさわしくないのではないかという理由での改正でございますので、今後は利用できる方につきましては、だれとは問わないということで、どなたも利用できるものというふうに思っております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

公共の施設ですので、制限するのは大変難しいというのは、これはわかります。ただ、今日までの図書館という使われ方と、これはきょうの朝の新聞にも載っていましたが、クロスロード協議会内でこの図書館を相互利用していくということで、今後については、図書カードについても統一的な図書カードの検討もするというふうなことが新聞にも載っていましたが、今後、そういうとらえ方で基山の図書館についても進めていくということだろうというふうに思いますけれども、何らかの図書館の利用のあり方については、少し規則の中で、第5条で風紀を乱す者とか迷惑をかける者についてはというのがありますが、制限についてはこれぐらいの内容でいいんでしょうか。あともう少し詳しく利用の心得については決めるべきではないのかなというふうに思いますけれども、どうでしょうか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

先ほど利用者の方の心得等で重松議員がおっしゃったことでございますけど、確かに規則の第5条の中で利用の心得は定めておりますので、基本的にはこの部分を守っていただくことになると思います。また、余り制限をしますと、利用者が利用数が減ったりとかもありますので、ぎりぎりのぎりぎりのというのはおかしいですけど、風紀を乱さないとか秩序を乱さないとかいう、その部分での利用の制限だけということで考えております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

3回目ですので、これで終わりますけれども、図書館の利用時間ですね、利用時間については見直しがされておられません。いろんな要望の中で、利用時間の延長もという意見を私自身も聞いたことがあるんですけども、そういうところの、せっかく今回、規則の見直しもする中でされているわけですので、先ほどから図書館協議会等の話がされなかったのかというのも片方はあるわけですけども、今回、これだけ大きく見直しをするべきだったら、やっぱり先ほど申しました協議会の中で論議する中で、今回の施行規則についても見直して、図書館利用についてもこれはするべきだったのではないかなと。そうしないと、また要望が

あれば、またそこで見直しというのが出てきますので、できたら今回、ぜひそういうところを含めて全体的に、いかに図書館をみんなが利用できるようなことで考えてもらいたかったかなと思いますけど、この辺は、そういうことまでは今回については話もしていないというふうな形でしょうか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

確かに図書館の利用時間の延長とかの希望があることは幾つかお話には聞いておりますけど、今回につきましては、職員等の体制とか利用の形態とか、そこまで突っ込んだところは一応話はしましたけど、今回の改正につきましては、基本的な部分は今までどおりで、改正をさせていただいておるような次第でございます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

図書館の開館時間の件でございますが、午後5時までということでありましてけれども、これだけ住民の生活環境が変わってきておりますし、深夜型ということでありまして、深夜までとは言いませんけれども、会社帰りとか、午後5時といいますと、大体の終業時間と。どこでもそうだと思います。それ以上に図書館を利用させていただきたいと思われるならば、やはり午後7時ぐらいまでとか、時間の延長もこれからは必要になってまいりますが、その辺のところはどういうふうにとらえていらっしゃるのでしょうか、お尋ねいたします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

確かに利用時間の部分が午後5時までというふうになっております。先ほど重松議員にお答えしましたけど、今回の部分の改正では、そこまでのところはしておりませんが、今後、この部分についても、先ほど図書館協議会の話も出ましたけど、それまで含めたところで検討していく必要はあるんじゃないかというふうには思っております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

その延長まで含めたところで検討される場合に、NPO法人とか民間の方に委託するとか、そういった方法まで検討課題として取り入れられる考えはございますでしょうか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

図書館の運営関係を委託するとなると、指定管理者制度なりなんなりという形になると思いますけど、現在の町の図書館はそれには今のところふさわしくないのではないかというふうには思っております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

一番最初に、やっぱり町民の利用回数をふやして多くの方に使っていただく、そういう機会をふやす方向で考えていただくためにも、職員で無理であるならば、指定管理者制度とか委託とか、そういう方向で利便性、サービス性のほうをもう少し重視して検討いただきますようお願いをいたします。

以上です。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。平田議員。

12番（平田通男君）

これは所管の案件ですが、そこで十分審議していただきたいと思いますが、一つだけ、今回、管理条例だけを廃止しているわけですね。本来のねらいはどこにあるのかなと私はちょっと思っているんですが、極端な見方からすれば、指定管理制度にこれを次に持ってくるんじゃないかというような感じがしてならないわけですね。

それで、せめて佐賀県、福岡県、どちらも県立図書館がありますから、県立図書館に調べていただいて、電話一本で済むことですから、その2つの県の中で図書館を指定管理制度に

移行しているところがあるかないかだけは調査をしておいていただきたいと思います。お願いしておきます。答えてください。

議長（酒井恵明君）

じゃ、冒頭の本来のねらいはどこにあるかのみの答弁でいいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

今回の改正につきましては、補足説明でもさせていただきましたけど、利用できる者の範囲とかの規定等がありましたので、その分で整理をさせていただいておるところがまず1点でございます。管理の部分を移行させていただきましたのは、県の図書館条例なり鳥栖市の図書館条例なりを参考といたしましてから、管理の部分が規則のほうで規定をされておりましたので、本町におきまして、それと同様な形での整備をさせていただいたところが今度の改正でございます。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

2点目の指定管理者制度を導入している……（「ああ、そこは……」と呼ぶ者あり）いや、それは調査してくれということでございますので。福岡県と佐賀県内ですね。よろしくお願いしておきます。

平田議員、よろしゅうございますか。（「ええ、結構です」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第32号議案に対する質疑を終わります。

日程第2 第33号議案

議長（酒井恵明君）

日程第2 第33号議案 基山町ひとり親家庭等医療費助成に関する条例の一部改正についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。重松議員。

2番（重松一徳君）

私もこれはよくわからなかったんですけども、今回、改正する目的が佐賀県のひとり親

家庭等医療費助成制度の改定に伴うと。佐賀県が今回改定を行うから、基山もそれに伴って改定すると。これは全国的に、当初、全国どこの都道府県でもされていたことだろうというふうに思いますけれども、今回、佐賀県が改定をしますけれども、これは全国的にどれくらい改定されているのでしょうか。佐賀県だけがこれは遅かったのかなと。インターネットなんかで調べれば、そういうふうな、福岡なんかも早くこれは改定されていたんだろうというふうに思いますけれども、この辺の佐賀県の動向はどうだったのでしょうか。

議長（酒井恵明君）

県のみでいいんですか。（「はい。県と基山の関係ですね。 済みません、それと県内で既に改定が進んでいるのかという部分も含めて」と呼ぶ者あり）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

ただいまの御質問ですけれども、全国的にはこの改正に係る寡婦の方に対しての助成が残っているところは、福井県と佐賀県と長崎県です。福岡県は平成20年度から経過措置をとって廃止をするという手続で今進めてあります。

それと佐賀県におきましては、一応佐賀県の方針がそういう形で出ましたので、県内では今のところ、6月に上程されるかどうかは別としまして、10市町が改定をするというところで情報が入っております。そのあとのところは、まだちょっと検討中とか、例えば、9月に上程するとかという手続に入るものというふうに思っています。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

そういう状況の中で、21年度の予算にひとり親家庭の医療費助成ということで基山町は5,350千円組まれています。今、実際の助成を受けてある数と、今回、何名の方が今度の改定に伴って助成が受けられなくなるか、政治的な問題ですけれども、わかれば説明をお願いします。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

今回の改正によりまして廃止される寡婦の方につきましては、9名でございます。金額的

には、前年度実績等を見ますと年間で五十数万円程度の助成をしているということでございます。（発言する者あり）

済みません、申しわけないです。助成の全体数としましては、母子家庭の母の方が135名、それから、その子供さんが205名、そして、父子家庭のお父さんが6名、その子供さんが11名、そして、寡婦の方が9名ということで、366人の方が一応受給者の資格を持ってある方という、これは平成20年度の実績でございます。

議長（酒井恵明君）

重松議員、よろしゅうございますか。

ほかにございませんか。松石議員。

10番（松石信男君）

今回、このように寡婦に対する助成制度が廃止という形になるわけですがけれども、先ほど現在9人ということでありまして、それで、実際これが廃止になった場合、どのような影響が考えられるのか。それとも廃止しても問題ないと、むしろ廃止しなければならなかったという理由等もあろうと思いますが、その辺について説明ください。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

この寡婦の方に対する助成の廃止という理由が、あくまでひとり親家庭の生活の安定を目指すということで助成をしております。その中で、子供さんが独立をすれば、当然、養育費等が軽減されるわけですので、そこら辺での負担の軽減がされるということと、この制度自体がお父さんのほうには今までありませんでした。同じひとり親の中に父子、母子というのがありますけれども、寡婦という扱いにしては、お母さんが一人になったときということに限定されておりますので、お父さん方との不公平感もあるということと、結局、子供さんが大きくなられて独立をされたら、ひとり暮らしになって、その方が助成対象になっておりますけれども、一般のひとり暮らしの方と同じような状態になられる。片方は500円だけでいいというような助成がされて、片方は通常の医療費を払われるというような形になりますので、そのあたりとのバランスがいけないということで以前からずっと審議はされてきておりまして、今回、佐賀県もそれを廃止するという形にさせていただくということで、今まで助成をしていた方については、当然それがなくなるわけですから、そこら辺の苦情なりは出て

くるかもしれませんが、全体として大きな問題はないというふうに考えております。

議長（酒井恵明君）

ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第33号議案に対する質疑を終わります。

日程第3 第34号議案

議長（酒井恵明君）

日程第3 第34号議案 町道の路線の廃止についてを議題とし、本案に対する質疑を行います。片山議員。

5番（片山一儀君）

第34号議案については、町長の提案理由の説明はありましたが、議案書に提案理由の説明がないですね。

これは道路法の第何条に議会の議決を経なければいけないから議案として提出するんだという提案理由がよく書いてあります。でも、これは実際は法律で議決をしなさいと書いてあるのは、これは提案理由にならないですね。廃止をするんだったら、なぜ廃止をするのかというのが、廃止の必要性、これを明確にしないといけないと思うんですね。

そこで、伺います。今、けやき台から真っすぐ丸林・三国線に続いている道路について、なぜ廃止をしなさいいけないのかお聞かせください。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

これは6月5日の本会議において、町長が提案理由の中でも説明をいたしましたと思いますけれども、町道白坂久保田2号線の法線を変更して施工したほうがいいということになりましたので、この法線を変更して、そして道路改良するということになりましたので、道路法の手続上、一度廃止をして、そしてまた新たに認定をするという手続を今回することにしております。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

なぜ変更したがいいのか、その必要性があるのかという説明じゃないじゃないですか。それが大事なんじゃないですか。それをお聞かせください。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

この白坂久保田2号線につきましては、台地開発時に三国・丸林線接続を予定した法線が決まっておりましたけれども、交通安全上とか、あるいはスマートインターの計画もございますので、ETC接続、あるいは民間開発計画なども考えまして、将来性を考えたときに法線を変えたほうがいいということになりました。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

あの道路は、要するに道路法でもって、町道は基本的には次の道路につなぐことになっていきます、原則はですね。それで、あの道路は実際つないであったんですよ。つないであったけど、けやき台の住民の人の意向で通らないようになった。これはきのう説明があったとおりです。これを廃止しなきゃならなくなったのは、その道路が通れなくなったからじゃないんですか。あそこにパーク・アンド・ライド事業で、今まで道路が抜けていた橋を使ってパーク・アンド・ライド事業の入り口にしてしまった。ですから、廃止せざるを得なくなったんじゃないですか。理由は、本音は。今言ったスマートインターチェンジとかなんかいうのは、また別の話でしょう。次の第35号議案ですから、そこでそれは質問いたしますが、廃止になった理由にはならないんじゃないですか。

確かに説明の中で、あそこはカーブが曲がっているとおっしゃいましたね。カーブが曲がっているから危ない。あの比高差をするためには直線では、今度は傾斜度で道路構造基準令かな、基準法かな、それにひっかかるから曲げてつくってあるじゃないですか。あれは団地開発会社がちゃんと道路をつくっていた。それを町道認定して、今回、それをパーク・アンド・ライド事業でつぶしてしまった。これはまちづくり推進課の仕事なのか、企画政策課の仕事かわかりませんが、あそこの駐車場、あそこを上げるために既存の橋を使ってしまったミスじゃないですかね。そのために、こういうふうな廃止せざるを得なくなった、こ

れは税金の無駄遣いと違いますか。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

昨日の一般質問でも答弁いたしましたけれども、この白坂久保田2号線は、城戸1号線の交差点からけやき台団地北側の、以前はバスの展開広場としてありましたところまでございまして、道路法上の道路としての白坂久保田2号線は三国・丸林線には接続はいたしてありませんでした。

議長（酒井恵明君）

課長、パーク・アンド・ライドの駐車場を設置したがゆえに廃止しなければならないようになったんじゃないかという問いがあっているから、その辺をはっきり。じゃなければじゃないで、はっきり。質問者、それはありましたね。（「ありました」と呼ぶ者あり）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

先ほども申しましたように、白坂久保田2号線の区間は、今現在、パーク・アンド・ライド事業の駐車場になっている区間は入っておりません。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

昔の話ですから、今蒸し返す気持ちはありませんが……（「4回目やろう」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

片山議員、もう……

5番（片山一儀君）続

いや、わかっています。だから、議長が許可されたんだと思いますから。

議長（酒井恵明君）

議長のミスで申しわけございません。

5番（片山一儀君）続

ミスですか、意思があったんじゃないですか。

議長（酒井恵明君）

いや、許可します。

5番（片山一儀君）続

あそこは、要するに認定したときから間違っていたんですよ。道路はつなぐことが前提になっている。どうしても袋小路になるとときには回転場所を設けなきゃいけないというのが道路法で決まっているじゃないですか。要するにあれを認定したときに抜けて認定していなかったことが、そもそも間違いじゃなかったんですか。これで最後にします。これは産業農林委員会の所管ですから、私が口出せませんので、ここで質問を最後にさせていただきます。

議長（酒井恵明君）

産業環境常任委員会です。

5番（片山一儀君）続

ああ、産業環境常任委員会。済みません。

議長（酒井恵明君）

ちょっと今のと。企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

道路認定につきましては、当初の開発の段階では、公共バスがあそこで回転をいたしておりました。その関係上、町道の認定はバスの回転広場までを町道の認定といたしておりました。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

今、片山議員の質問には、まちづくり推進課の課長が答えられましたけれども、本来は最初からの質問も含めて、これは企画政策課のほうで答えるべきだったのかなと思っています。

というのは、これは21年度の当初予算の中でも少し質問をして、当初予算の中にこの白坂久保田2号線の新しく道を延長するという中で、当初予算の中で五百何十万円、設計測量の予算が組まれていますね。そのときも私は少し質問したんですけれども、パーク・アンド・ライド事業が去年取り組まれまして、今、実際運用されているわけですけれども、私も勉強不足があって誤解していたんですけれども、まさかあの道を完全にふさぐとは当初は理解していなかったんですね、完全にふさぐとは。だから、一時的にフェンスでふさぐにしても、

いずれはけやき台の要望があれば、5号線が無料化になる、3号線が拡幅が終われば、いずれはあそこは開放するんだらうというふうに思っていたんですね。しかし、見てもらえばわかるように、完全にふさいでいると。おまけに入り口が基山のほうから入れないと。基山のほうからの利便性は何も無いみたいな形になっているんですけれども、それが原因じゃないんですか。

私は当初予算のときも聞いたんですけれども、それが原因で、新たに今回道を延長するみたいになっているんじゃないですか。それがたまたま廃止と認定と今回出てきていますけれども、それが結果的にまちづくり推進課のほうに回って、今、課長が答えましたけれども、本来これについては企画政策課のほうで、この経緯についてはもう一度説明をしていただきたいと思えますけれども、どうでしょうか。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

先ほどまちづくり推進課長のほうもお答えしたと思えますけれども、まず、ここの白坂久保田2号線の接続については、当初はまちづくり交付金事業として接続をしたいということで検討いたしておりました。しかし、当然、信号処理になると思えますけれども、あそこに信号処理をすることで交通体系が保てないということ、それから、事故が多発するんじゃないかという安全性の面も含めて総合的に検討しました。それから、パーキング周辺のパーキングといいますか、高速道路のパーキング周辺の民間開発等の話も浮上してまいりまして、将来性、スマートインターチェンジも含んだところで、どちらを選択したほうが、国費等の投入をどちらか一本に絞らなければならないということが出てきましたので、庁内で検討した結果、将来性も見込んだ、次に新たに道路認定をお願いしています法線のほうが将来を見込んだ形で、国費、それから財源を投入するにはそちらのほうがいいというふうな判断で考え、それで、パーク・アンド・ライドの駐車場につきましては、当初75台を計画いたしておりましたけれども、ぜひ100台の部分も欲しいということで、それでは100台できるような部分の道路用地、道路の法線の向かっている接続部分のところを西鉄のほうに貸しましよという形で事業を進めさせていただきました。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

パーク・アンド・ライド事業の75台から100台にするときに、あそこの町有地をぜひしなければ、きのうも説明ありましたけれども、西鉄側とすれば採算がとれないというのがありましたね。

じゃ、聞きますけれども、パーク・アンド・ライド事業がなくても、当初、最初に言われました事故が多発するかもしれない、民間開発が行われるかもしれない、将来的にはスマートインターの計画もあるということでしたら、パーク・アンド・ライド事業で駐車場で道をふさがなくても新たに道をつくる計画でしたか。この説明をお願いいたします。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

それはそちらのほうに法線を変えたいということで庁内の協議をしまして行いましたけれども、これはあと費用対効果等の問題もあると思いますけれども、現在が高速道路のボックスの下は離合ができないと。あそこを3差路で接続したときに信号処理すれば、相当の時間差をもって交通体系の処理をしなければならないんじゃないかと。そうすることによって、今の高速道路の下のボックスの中に水路がありますけれども、その水路を全部ボックスカルバートと言いますけれども、それでふさいでしまわなければならないと。その高速道路の下の部分については約50メートルありますので、その50メートルと信号処理を高速道路の部分の前後、上りと下りのところで処理すると、前後、拡幅車線がやっぱりあそこの白坂久保田2号線の分が30メートルから50メートル、またボックスカルバートでかぶせなければならない。そうすると、今度はJR側の部分も拡幅することによって50メートルぐらいをつけなければならない。そうすると、全体で150メートルぐらいの河川をボックスカルバートでふさいでしまわなければならないというような費用も出てくるということで、その部分に国費を投入した段階で新たな道をまたつくれば、その分の返還等まで出てくるんじゃないかと。それから、高速道路下のボックス部分については、機械でつって入れることもできないということになれば、圧入方式といいますか、押しながらボックスをつくるか現場打ちになってくるんじゃないかということで、そこに相当の費用が発生してくるというふうなことも検討はいたしております。

ただ、これについては、今後またその辺の費用対効果については検討も出てくると思って

おります。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

3回目ですので、何点が質問しますけれども、今言われました拡幅工事、これは今回、新たに道を廃止して延長しても、交通量は当然ふえますし、先ほどの理由として民間開発等も進めなければならない、スマートインターも視野に入れているということでしたら、当然あそこは拡幅しないとだめなんですね。パーク・アンド・ライド事業で道をふさがなくて、今の既存の白坂久保田2号線を延長したとしても、当然、今の拡幅の問題は出ますけれども、新たな道をつくっても、将来的にはこれはしなければならぬですね。あそこを通らればわかると思いますけれども、あそこに車がたくさん集中すれば、当然、ボックス下の水路についても、ふたをしてからしなければならぬのは出てくるんですね。

だから、私が聞いているのは、パーク・アンド・ライド事業には、これは西鉄が2分の1、国が4分の1、基山町が4分の1金を出して今回しましたけれども、国が4分の1金を出していると、国費を出しているということで、あの道を扱えば、今の既存の道をまたもとに戻してくれとかいうふうになれば、この国費の関係とか出てくるんじゃないですか。だから、逆にいえば、新たにこちらのほうに道をつくったほうが、先ほどまちづくり交付金を活用しとか言われましたけれども、この補助金の関係とか、この辺もこれは大きく関係してきているんじゃないのかなと。だから、もともとパーク・アンド・ライド事業を進める段階において、例えば、こうして道を新たにつくらなければならないということでしたら、それまで含めてから説明してこなかったのが、私は今回の大きな混乱にもなっているのかなというふうに思っています。あのときに、私もまさかああいうふうなつくり方をすると理解していませんでしたし、そしてまた道を廃止してから新たに道をつくるかというふうな発想は全くなかったんですね。だから、今回出てきた中で、どうしてこういう税金の無駄遣いを新たにするのかというふうな疑問が3月の予算のときにも私はあったわけなんですよ。だから、その辺の説明不足というのがあったんじゃないですか。どうでしょうか。

だから、パーク・アンド・ライド事業と今回のあれは全く違いますよというふうに言われますけれども、だれが考えたって、道をふさいで新たに道をつくれれば、関係あるというふうに町民の方は思うんじゃないですか。どうでしょうか。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

説明不足の件については、私のほうも多々あったとは思っております。ただ、先ほど言いましたように、この路線については、どちらの法線をつくったほうがいいのかということで検討いたしました。その内容で真っすぐ延ばしたほうがいいのかという、これは先ほども説明しましたように、あそこに信号処理することによって安全性が保てないと。交通の離合がどうしてもあの中では、高速道路の下では信号処理することによって時差が生じて、なかなかスムーズに交差点処理ができないと。その交差点をずらすことによって、そこで100メートルもないと思いますけど、交差点をずらすことによって高速道路の下は拡幅を必要としますけれども、スムーズな直線同士の複合離合ができると。現段階ではどうしても高速道路の手前でお互いが通行した後には交通の処理はできないようになりますので、当然、河川のボックス等は発生してくると思いますけれども、それでも直線の離合だけしかできないと。あそこを交差点の処理をするということは、現状のままであその交差点に信号機を設置すること自体は、どうしても高速道路のJR側に車両を左折、直進については待機させなければならない。そして、高速道路の今のパーク・アンド・ライド側に交差点を設けて、待機した車とJR側に待機した車、それとけやき台に行く方向性の車との交通処理の体系がなかなかあそこでは難しいということも含んで、そこに公共投資の国費をして、そういうスムーズな体系ができずに新たにスマートインターも含んだところで次の線形のところでいけば、完全に単独の金の投資しかできないということになりますので、国費を有効に使うためには、今度、新たな法線のほうでいきたいというふうに考えておりました。

議長（酒井恵明君）

課長、将来的にはあそこは確保しなければならないという予測というか、それはつけてあるんですか。そういう問いもあったと思いますが。企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

それはスマートインターのときにお答えいたしましたように、バイパスと3号線については、スマートインターを考える段階ではアクセス道路の整備等は当然に出てくると思いますけれども、それは民間の開発等も含んだところから協議をしたいと思っておりますし、また、民間開発のほうも県との十分な協議はまだできておりません。だから、当然スマートインター

等を含んだところを考えれば、前回、一般質問のほうでお答えしたように、アクセス道路の整備という形では当然出てくると思います。

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

三国・丸林線へのつなぎ方の問題で、私も現場を何度も見に行きましたけれども、素人的に考えれば3差路に直結したほうが、交通安全とかコストとか、いろんなこと、将来的なことを考えたらいいということは、私も素人的にはよくわかりますが、ただ、先ほど同僚議員も申し上げておるように、このことはパーク・アンド・ライド事業で従来の道路がふさがれた後、この案がパーク・アンド・ライド事業はたしか去年の9月議会で審議したんじゃないかと思うんですね、12月にはできていますから。それから大方9カ月ぐらいたって、3月議会で路線の設計のあれが出てきたと、半年後に。

したがって、道路の問題ですから、余り早く発表したらいかんとか、何かそういう利権の問題とか、私はよくわかりませんが、ただ、パーク・アンド・ライド事業のときに、そういう直結の仕方も含めて話の中になぜその時点ではできなかつたのか、その辺のことについてちょっとお願いします。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

初めに、先ほども申し上げましたけど、当初はまちづくり交付金事業であそこを接続したほうがいいということで検討いたしてありまして、形的には、そこで制御していこうという当初の計画でありました。しかし、先ほど言ったように、そこを交差点処理することによって問題が発生するのじゃないかということで協議をいたしてありまして、そこにパーク・アンド・ライド事業も含んで話が出てきておりますけれども、線形的には今後も検討しなければならないという含みがありましたので、はっきりその段階ではまだ報告するような形にはなっておりませんでした。

ただ、その辺のパーク・アンド・ライド事業の進行に合わせて私のほうも説明すべきだったとは思っております。

議長（酒井恵明君）

後藤議員、よろしゅうございますか。（「はい」と呼ぶ者あり）

品川議員。

6番（品川義則君）

答弁の中で、民間開発ですね、所管なので余りですけども、審査する場合には小野課長の出席はできませんので、ここでお尋ねをさせていただきます。

民間会社の開発でございますが、これは何年後ぐらいにできるのか。また、スマートインターチェンジは何年後ぐらいにできるのか。

また、あそこの道路の今の利用台数とか、あそこを通した場合の利用台数ですね、それをどれぐらいで見込んでいらっしゃるのか。

それから、あそこの地区で、通す、通さないですね、道路をつなぐ、つながないで、なかなか意見がまとまらないということでございますけれども、あの地区のコンセンサス、合意はとられたのか。

それから、丸林・三国線につなぎまして交差点ができて、通行量がふえるということとされていると思いますけど、そうなった場合の道路の拡幅ですね、丸林・三国線、どの程度のどこまでされるのか。拡幅の距離と幅等が計画があれば教えていただければと思います。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

このスマートインターチェンジの設置につきましては、まだ全国的な協議会に加入した段階でございますが、具体的にスマートインターチェンジをいつからするかというのはまだわかりません。

それと民間開発につきましては、これは先日も町長答弁いたしておりますけれども、開発業者からの説明があっただけで、協力要請はあつてはいますが、いつからそれがされるかというところまではまだいっていません。県とも協議をしておりますけど、町長も答弁されてはいますが、なかなかハードルは高いというような状況でございますが、なかなかそういう開発を進めていく中において、一つ一つ整備していかねばならない項目がいっぱいありますので、まだいつからということは今の段階では言えません。

それと接続関係で、じゃ、三国・丸林線をどうするかということは、これもまた今のところ具体的な、その民間開発等も関連いたしまししょうし、スマートインターチェンジのアクセ

又道路の建設といったものもありますので、現段階ではちょっとまだわかりません。

議長（酒井恵明君）

利用交通量は。

まちづくり推進課長（平野 勉君）続

まだ交通量等についても、把握はしておりません。

議長（酒井恵明君）

地元との合意ができたのか。

まちづくり推進課長（平野 勉君）続

それで、この道路法上の道路ということで認定いただきましたら、その後、地元、あるいは地域関係者等に説明をいたしまして、協力をお願いしたいと思っております。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

すべて未定なんですよ。民間もどうなるかもわからない、スマートインターチェンジも登録してみたがわからない、利用台数も調べていらっしやらない。地域コンセンサスは、認定してから地域に行くということになれば、議会が通りましたから、じゃ、皆さんお願いしますという言い方がされるのか。これは憶測ですけども、これは拡幅もどうしなければわからないと。すべてわからない状態で、この国費を使って設計委託し、多額のお金をもらってするということが今なぜしなければいけないのかがいまいちわからないんですけども、その説明を、なぜ今しなければならぬのかお尋ねします。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

道路を新設改良するときには、手順でございますけど、まず、道路法上の道路とする必要があります。そのために路線の認定が前提行為となりまして、そして区域の決定もすることになります。その後、具体的に地域、関係者への説明会等も行いまして、最終的に予定する区間で道路管理者としては、対象となる土地について、所有権、その他の権原を取得しなければならない。そして、工事をして、供用開始をして初めて、道路となるという手順になっていますので、今回、議案でお願いしておりますのは、まず、道路法上の道路として認定す

るという手続でお願いをしておるわけでございます。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか。林議員。

8番（林 博文君）

この白坂久保田2号線についての改良ですが、これについては、一番の問題は、町長がいつも言われるように協働のまちづくりということで、特に、けやき台の方が今のパーク・アンド・ライド、あそこの先をあけるか、あけんかについては、住民の皆さんがやはり向こうから、三国線のほうから、3号線のほうから、また特にバイパスが無料になる前が相当交通量が多かったわけですが、このけやき台の真ん中を2号線を通って走ると。特に暴走族というようなことと事故があったりというようなことで、あけるなというような形のけやき台の住民の皆さんの意見が半々ぐらい、どっちかというなら、あけないほうが多いというような意見も私も聞いておりましたが、住民との協議がやっぱり前もってされないと、後からいろいろ区長さんとか、そういうような人たちが協力してもらわなくてはなりません、住民との説明もこの議会が通った後ということで今課長は言われましたけれども、その辺については、やっぱり十分ある程度の、また交通量、それとか真ん中を通ると、開発そのものの緑地帯、この辺についてもひっかかってくるんじゃないかと思いますが、その辺については十分調査されておりますか。緑地帯の確保、それと住民との協議、それから、やっぱりここを相当な交通量、例えば、暴走族が3号線から入ってきたりとか、そういうのも考えてあると思いますが、その辺については、どこまで協議されましたでしょうか。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

この住民との協議でございますけれども、けやき台の団地のまず区長さんと早々に話をするように計画をいたしております。

それと緑地でございますけど、区域内、パーク・アンド・ライド事業の駐車場を設置しているところ、あるいは今計画をしておりますところも緑地になっています。だから、この緑地を確保するというのが、緑地を用途変更になると思いますけど、そういうことであると思っております。緑地自体がなくなるということにはならないだろうと思っております。

（「ちょっと私が」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

今の関連で。企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

私、けやき台開発の当初の段階からかかわっておりましたので、まず、けやき台の60ヘクタールの開発につきましては、旭化成としては、道は接続をしたいということで当初は考えてあったし、町のほうも道を接続した計画を、3号線と将来は結んで開発をしたいという計画で初めは進んでおります。しかし、まず、バイパスの5号線がまだ有料であったということで、有料の抜け道で三国線をかなりの交通量が通っていた件、それから、3号線がまだ基山分については4車線化ができていなかったという点を含んで、国交省とも協議に行った段階では、当然、旭化成さんのほうで3号線に接続をなさいと。その条件の中には、JRを越えて3号線に接続をしなければならないという条件がついてきましたけれども、そういう費用の負担は今のけやき台の団地の中にちょっと投資ができないということで、それも含んで三国線に接続した段階では、かなりの抜け道として利用がされるんじゃないかということで、先ほどの町道の認定部分のバスの回転広場までで、あそこに壁をつくって、あの道は将来的にはまだ接続しませんと。しかし、今度入居等がずっと開始されまして、住民の方たちは、あそこをあけると、やっぱり危険性があるんじゃないかということで、あけないほうがいいんじゃないかといういろんな議論があったということは私たちも伺っておりますけれども、ただ、あそこの開発をする当初の考えは、そういう考えのもとに旭化成と町も含んであったということは、私が担当しておったときの計画でありました。

議長（酒井恵明君）

林議員。

8番（林 博文君）

確かに住民との協議の中では、先ほどバイパスの無料化、また3号線の4車線化というような形で、そういうのができ上がった時点でここをあけるというのも条件にある程度は入っておったと思いますが、やっぱり暴走族なり、また無料駐車、またいろんな交通事故、そういうのを心配されて、特に、けやき台の住民の方が反対されたということで聞いておりました。

それで、今後、これが通れば住民との協議を進められると。その時点で、多分住民投票とか、これをしてもらったほうがいいとか、せんほうがいいのか、けやき台の地元の方の説明

会等も開かれると思いますが、場合によっては住民の方が、ここはしてもらおうと危ないからやめてくれというようなことになるかもわからんわけですね。

それと、さっき言いました全体の開発計画の用途変更の中で緑地帯をどこに広げる予定ですか。

ちょっと2つ、この点。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

新たに緑地帯を広げるということは考えておりません。

それと住民投票なりで意見を問うということはしないだろうと思います。先ほど申しましたように、町道三国・丸林線の接続ということは、先ほど企画政策課長が申しましたように決まっていることございまして、いつするかということが、国道3号の改修が完了し、そしてバイパスが無料化したときにとということございまして、もともと決まっていることを行うということになると思っております。（「はい、いいです」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

重複しますけれども、今、住民との合意の問題ですね、私はあそこを もちろん当初の計画の段階から、ここは最終的にはつなぎますよという計画があったとしても、そこをつなぐかつながないかについては、やはり住民の合意が必要ではないかと。合意のもとに進めていくということであったのかと思うんですよね。ところが、今聞いてみますと、どうも反対、賛成、いろいろあるという中で、今回、そのような計画、つまりあそこを別のつなぎ方でつなぐという計画になるわけですが、その辺についてはどのようにお考えなんですか。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

先ほども言いましたように、当初の開発の段階では交通体系的には接続をするということではございましたけれども、長期的にあそこを接続していないというのは、先ほど言った理由のとおりでございます。

ただ、今回、当初の計画のときには、まだ住居はされておりましたので、今度は生活をされている住民の人たちの意見を聞くということは必要と思っております、ただ、基本的には、あそこの団地を活用するのは、当初の考えはこういうことでしたという説明をあわせながら、町としてはぜひつなぎたいという考え方のもとに皆さんの意見を聞く。これは各地区を回っておるときに、町長が各地区を回られて、出前講座の中でも住民の方たちからの意見は、あそこを接続する際には意見を聞いてもらえないかということで、町長のほうも意見を聞きたいということは言うてありますので、それは今後の作業になってくると思います。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

今後の作業ということですが、先ほどの説明では、まず区長に説明したいということですね。区長さんから、その後も住民説明というふうになるのか。そして、住民説明については、1丁目から4丁目まであるんですが、けやき台の方全部を対象にした説明会ということになるのかどうか、その辺の説明をお願いします。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

どのような説明会を今後開いていくかということはまだ決めていませんけど、やっぱりまず初めに、けやき台の団地の区長さんとお話をしまして、そして協議をして決めたいと思っていますけど、ただ、先ほど申しましたように、それは賛成、反対とか、いろいろあるとは思いますが、やっぱり必要性はあると思うんですよ。というのは、けやき台は今現在は2路線からしか出入りができないわけですね。町のほうに時々言ってこられるのは、非常に不便だと。わざわざ福岡方面から来るのに、城戸の踏切を通過してしか入っていけないと。何でせっかくあそこまで道があるなら向こうのほうにつくってくれたら ちょっと具体的に店の名前は言えませんが、あそこの三国のところから入っていったほうが一番便利がいいとか、そういうふうな意見もあるわけですから、そういう意見も多数あるんじゃないかというふうに考えております。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

だから、そういう考え方については私も否定しませんし、私どもから見れば、そうなった方がいいのかなという考え方には立ちます。しかし、そのこの現地に住んである方ですね、この意見というのは非常に私は大切であると。理解がですね。これが理解なしに仮に 仮にと
いうのもなんなんですが、半々ぐらいで、片一方の方が強行じゃないかという形になると、
いろんな今後のまちづくりに、それこそ何回も協働のまちづくりと言われてはいるけれども、
いろいろ影響してくるんじゃないかと。だから、区長さんはもちろんあそこの一つの、そう
いう意味のまちづくりのリーダーでもありますから、当然、最初に説明はするにしても、や
はり住民説明会を各区、1丁目から3丁目、もしくは全体を対象にして住民説明会をやりな
がら、理解と協力を求めて実施していくという立場にぜひ立ってほしいと。住民説明会の開
催をぜひともしていただきたいなど。

それを求めたいと思いますが、そのような考え方はないのか。区長どまりで終わるのか、
それについて、もう一回答弁をお願いします。だれでも結構です。町長でも結構です。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

まずは、先ほどから聞いておられますと、協働、協働ということを非常に言っていて
おるということは、私はこれだけ協働というのが議員の皆さん方にも御理解いただいてきた
のかなというように感謝申し上げます。

それは余計でございますけれども、やはり議員言われますように、住民説明会というのは
しっかりやるべきだというふうに私は思っておりますので、それじゃ、そのときに反対が非
常に多かったというときにどうするかというようなことは全く考えられないわけじゃないと
思いますけれども、それはそれで、またいろいろ安全対策とか、いろんなことも考えまして、
住民の皆さんと話し合っていきたいというふうに思っております。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

1点だけ御質問いたしますが、高速道路にスマートインターチェンジができる計画が上が

ってきております。それともう1点は、長崎街道株式会社によるあそこの周囲の開発ということで、今後、それが行われると大きく地形が変わると思います。今度の計画もそこを見込んで真っすぐつくるという計画、先を読んだ計画でしょうか。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

大体今言われたとおりだと思います。しかし、長崎街道というのは、先ほどまちづくり推進課長も答弁申し上げましたように、まだ県との協議が進んでおりません。これは土地利用の問題、大きいのは市街化区域を拡張することができるかどうかというのが一番の問題で、次に、事業計画としては区画整理事業で行いたいということですので、地元地権者の皆さん方の区画整理に対する理解度の問題、そういったもので事業が進むと思います。

町としては、この白坂久保田2号線を真っすぐして、将来のパークイングの活用でスマートインターを活用することによって、基山町自体の高い評価になってくるものと思います。そこが民間開発が成功するしないは別にして、あそこの土地利用度が非常に白坂久保田2号線を接続することによって大きく変わってくるんじゃないかというふうに見ておりますので、これは将来的に真っすぐ延ばしたほうが良いというような判断をいたしております。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

そういうことであれば、そこの開発が早くできるように町としても一生懸命頑張っていたきたいと思います。

以上です。

議長（酒井恵明君）

基山町の活性化、浮沈を左右する重要な案件でございます。随分質疑も出尽くしたと思いますが、質疑途中でございますが、ここで11時20分まで休憩いたします。

～午前11時7分 休憩～

～午前11時20分 再開～

議長（酒井恵明君）

休憩中の会議を再開します。

ここで議員の皆さんに一言お願い申し上げておきます。

けさから協議いたしておりますように、各所管の委員会に付託をいたしますので、付託を受ける所管委員の方はできるだけ委員会の中で詰めた質疑をしていただいて、議会の円滑な運営に御協力くださいますようお願い申し上げます。（「議長、済みません、説明会を開いてくださいと願う場合、説明会は今回の件ではまちづくり推進課が開かれるわけですか、それとも総務課とか企画政策課、ほかの課が担当されて説明会を開かれるわけですか」と呼ぶ者あり）

ちょっと待ってください。再開いたしましたので。

質疑途中で休憩いたしておりましたので、第34号議案に対する質疑を続行します。品川議員。

6番（品川義則君）

やっぱりこの路線の三国線につなぐというときの説明の中で、必ず地域住民の話、なかなか合意が得られないということが理由として私は上がってきたとっております。ましてや町長が協働、協働と言われております。先ほどから何回も出ておりますけれども、協働と言われる場合の執行部の対応が、先ほどの図書館の件でもそうでございます。協議会を開かない、指定管理制度のことを考えていない、そして、今回の件も、まずは区長さんにお話をし、その後はということで、協働というふうに皆様、執行部の方が本当にまちづくり条例をつくってやっていこうというお考えなのか。いい施策の準備段階で今回の件はできると思っておりますので、ぜひ地域住民への説明会をしていただきますことを強く要望いたします。

以上です。

議長（酒井恵明君）

それは要望でいいですか。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第34号議案に対する質疑を終結します。

日程第4 第35号議案

議長（酒井恵明君）

日程第4 第35号議案 町道の路線の認定についてを議題とし、本案に対する質疑を求め

ます。片山議員。

5番（片山一儀君）

先ほど議員のほうからありましたように、議長からもおっしゃいましたように、非常に大事な案件ですね。認定ということについて、先ほどから意見が出ているんですが、これは今、第8条か第9条の道路法を根拠にされていますが、道路の新設というほうが正しいと思うんですね。そうすると、新設をする場合には「道路事業の進め方」というパンフレットがあるはずで、それを参考にされて、まず、皆さんの代表の議会が認定したんだよ、だから、説明会しても、これは意味がない。ここにちょっと一部だけ抜粋があるんですが、要するに、まず町民の話、住民の話聞くことが大事ですよ。ここでは市民参画と書いていますが、住民説明をして、そのときに構想を立てなければいけない。そこらあたりが抜けているんじゃないですか。

例えば、直線にして、スマートインターチェンジが出ていますが、あの道路を頭に思い浮かべてください。あれが真っすぐできて、信号がついて、スマートインターチェンジができたとします。あれから三国・丸林線には大型車は通れないんですね、現在のところ。なぜか。県道17号線、あるいは九州縦貫道の下はクリアランスが少ない。私が国交省だったら、まずあそこで認めませんね。多分認めないと思います、私でなくても。そうすると、その救いは何かというと、真っすぐ上がって、けやき台の広い道路を抜けていくというのは説明がつくかわからない。そうすると、スマートインターチェンジができたとしたら、けやき台の真ん中を大型やたくさんのものが通ることになります。非常に住民説明は大事なことです。

それから、一部、丸林・三国線が拡幅され、その必要性があるのか。これも検討されていないようですね。今まで17号線が無料化になる前は、城戸から丸林を通過して向こうへ無料というか、バイパス道路がありましたね。非常に交通量が多かったんですが、今はがららになっています。先ほどその丸林線をこれから検討するとおっしゃったが、広げる価値があるのかどうか。これは都市計画にも関係する事項ですね。あるいは国土利用法にも関係する事項ですね。都市計画審議会もこの2年間、一度も開かれていない。

そこあたりの都市のつくり方、町長いかがお考えでしょうか。例えば、あそこに丸林線をつくるとしたら、住民の人はどう考えると思いますか。丸林（ ページで訂正 ）に議員が2人もおられるから、三国線へつなぐ道路をつくったなんてげすの勘ぐりを私がすれば、げすの勘ぐりから、そういうことだって考える方が住民の方にはおられるかわからない。そ

れがきちっと説明できないと、この案件は急ぐことはない。しかも、この道路をつくるためには私有地の買入れもしなきゃいけない。緑を壊す環境破壊ですよ。きのう環境アセスメントを申し上げたけど、環境破壊があるわけですよ。

きのう計算していないとおっしゃったが、斜度からいったら直線道路は多分難しいでしょう。斜めにしないと、これはスキーをやっている方はすぐわかる。直滑降できないところは斜滑降に入っていくわけですから、パラレルに入って防御に入っていくわけですからね。そういう理屈も検討しないで、将来を見ないで、確かに国のお金を使って町を活性化しようという努力は非常に労を多とするし、敬意を表します。しかしながら、先を見ていない。きのう時間軸でお考えくださいと申し上げた。市民の視点で考えてくださいと一般質問で申し上げた。そういうところが欠落しているんじゃないですか。

町長、おひとつ方針を、そこあたりをどういうふうにやろうとしているのか。お金があるから事業をするのか。そうじゃなくて、その必要性がどの程度住民の皆さんに説明できるか。皆さんの代表の議会が認定をしているんです。だから、これが説明だったら、これは黄門様の印籠みたいなもんで、それはよくない。議会でも、なぜその道路が必要なのか、明確に提案理由をしっかりと出して審議をしないと、将来のことに大きな禍根を残す可能性が多分にあると思うんです。そのあたりの全般的な方針を町長にお伺いしたい。よろしくお願いします。

議長（酒井恵明君）

片山議員、ちょっと待ってください。丸林に議員が2人おるという発言をなされましたけど、6区内にというように訂正してください。お願いします。

5番（片山一儀君）

それはどっちでもいいですけど、それは皆さんがね、私はげすの勘ぐりじゃないけど、住民が思うときは、そう思いますから。

議長（酒井恵明君）

いや、それは訂正はできますね。会議録の点で私は言っているんです。修正します。（発言する者あり）

町長。

町長（小森純一君）

基本的なということでございますけれども、やはり町の総合的な計画としましては、あの長崎街道物語の開発と、あの地域はやっぱり開発が必要だというふうに私は思っております。

それはたしか総合計画にも上げておったと思います。

しかしながら、なかなか行政だけであそこができる問題でもございませんし、そういうことで、民間が今度どうかというような話がありましたから、その方向で進めればというふうに思っておりますし、行政もそれについては、やはりいろいろと考えていかなきゃいかんということでございます。

そして、それについては、いろんな問題点があります。それはやっぱり農地法の問題もございましょうし、道路の問題もございます。それから、やるんだったらスマートインターチェンジというようなこともございます。しかし、それらを考えると、非常にいろんな問題点、マイナス要因というのが多いことも事実でございますけれども、やはりスマートインターチェンジ、特にスマートインターチェンジは基山町としてもぜひ欲しいというような思いを持っております。しかし、それにはやっぱりアクセス道路というものも当然必要でございます。それをどうクリアしていくのかというようなことは、やはり開発業者ともいろいろ詰めていかなきゃいかん、地元の方とも詰めていかなきゃいかんということだろうというふうに私は思っております。そういうことで、その辺を同時にやっぱり検討しながら、これから進めて、できることならぜひやりたいというふうに考えております。

アクセスについては、3号線の問題、あるいは17号線の問題もあるわけでございますけれども、基山のけやき台の中を通る、あそこだけがアクセス道路というわけでも、それでは認可はおりないと思いますから、それはやっぱりけやき台の安全性も十分考えてやっていかなきゃいかんというふうに思っております。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

きのう町長が視野狭窄でないかと、こういう話をされました。まさにそういう感じが非常にするわけですね。非常にそのことだけに集中してしまって、国のお金を使ってやるということだけに集中してしまって、全般をどうするかという発想が各課長に欠けるんじゃないかと。そうすると、もっと手順がですね、住民説明もし、都市計画もよく審議をして、基山町をどうするか。例えば、丸林線で、先ほど言ったように暗渠が2つあります。暗渠のクリアランスは大型は通れない。そうすると、それをしない限り、まず難しいですよ。長崎鉄道株式会社、たしか筑紫野温泉を、前のあの地域を開発した業者だと思うんですけども、や

っぱりそこらあたりは株式会社の力をかりるのも大事だけど、基本は我々が基山町の住民がどうしてほしいのか、どうあってほしいのか。きのうスマートインターチェンジをつけたら効果がたくさんあるとおっしゃいました。具体的な効果は一つも上げられませんでした。具体的にどういう効果があって、それを計算した上で、なおかつメリット、デメリットを計算したらこうなんですよと。したがって、けやき台の中を通ることをしてください。

私はこれをずっと基山町はやられっ放しじゃないかと思っているんです。例えば、パーク・アンド・ライド事業も2分の1西鉄がすれば、あのある橋を使えば西鉄の負担金は少なくなるわけですね。そこあたりをうまくやられてしまって、その流域圏100台が必要だとか、いろんな理由があるんでしょうけれども、こう推測するわけです。もう少し広く、しかも、手順を踏んで、これはただ認定なんて道路法だけの問題じゃない。先ほどかわすとなると国土利用法の問題も出てくるですね。都市計画法の問題もあります。そこらあたりを積み上げた上で議会へ提出する。そうすると、提案理由もきちっと出てくるんです。道路法の第8条で議会の認定を受ける必要性があるからなんて理由は、理由にならない。もう少しお考えいただきたい。

これはたくさん意見があると思いますので、私はこれをお願いして、終わります。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

何点か修正させていただきますけれども、まず、長崎のほうの開発の内容につきましては、まだ公表できる段階ではありません。現段階で計画が出てきておりますのは、バイパスとの平面交差、それから3号線のループのタッチ等も出ておりますけれども、本当にその線形でいいのか、本当に平面交差ができるのか。これは有料道路であった道路の性質上の問題等もありますので、その辺の県等、関係機関との協議がまだ調っていない段階で都市計画の審議のほうを開くのもできないと。

それから、スマートインターにつきましては、効果は今後また検討は行っていかなければならないと思いますけれども、高速道路のインターチェンジの設置については社会実験等かなりの効果を上げているというところで、基山にとってはかなり効果が高いということもありますけれども、そこで大型車も入れるスマートインターにすべきか、小型車だけのスマートインターにするかという問題もあります。それから、クリアランスの高速道路の下につ

いては、そこも含んで協議等も行っていった、大体線形、それからそういう方針等が決まった、これでいけるという方向性があれば、議員御指摘の手順も踏んでいかなければならないと思います。ただ、地元の説明については、それは説明するというところで検討いたしていくと思います。（「議長、済みません」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

今出せないこともあるでしょう。この前、防衛事務次官　今、防衛省ですね。防衛事務次官が核の持ち込みについて内約で決めていました。これが暴露されました。国政に反対することだってあるかもしれないと私は思います、プロとして。でも、それをね、ここで議員の皆さんに判断を求めるときに、判断の材料がなくて、この議案を提出すること自体が間違いじゃないですか。判断を求めているんですから、認定をすると。

ですから、ただ道路法だけで必要性だけ考えるから。そうじゃなくて、もっと総合的に考えられて、議員の皆さんが住民の代表として知る権利もあるし、そして、そこで判断を求めるために議会にかけているんでしょう。出せないことがあるんだったら、それは議会にかけべきじゃないんじゃないですか。時期尚早という言葉があります。まだかけるのは時期尚早じゃないですか。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

先ほどの第34号議案でもお話しさせていただいたように、この三国線までのタッチをする線形については、かなりの将来を見込んだ、今はある企業のほうで民間開発的な話が出ておりますけれども、それがまだ正式に発表できる計画の内容ではないと。ある程度打ち合わせで、関係機関と話していく中で煮詰まった線形を出さなければ、これは利権の絡むような土地、個人が持っている土地にも影響をしまするので、話せる段階になれば皆さんに御提示しなければならぬと思っておりますけれども、現段階のこの路線については、将来を見込んだ、スマートインターも含めた、あそこの土地利用も図れるということも含んだところで、この線形のほうがいいという判断をお願いをしているところでございます。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第35号議案に対する質疑を終結します。

日程第5 第36号議案

議長（酒井恵明君）

日程第5．第36号議案 平成21年度基山町一般会計補正予算（第1号）を議題とし、本案に対する質疑を行います。

ちょっと待ってください。議案書の7ページをお開きください。

第1表 歳入歳出予算補正について……（「ちょっと議長」と呼ぶ者あり）

平田議員。

12番（平田通男君）

審議の仕方なんですが、今回提案されている補正予算、いわゆる146,407千円については、その中の135,910千円は今回国から出されています地域活性化・経済危機対策臨時交付金の事業内容になっているわけですね。だから、一項目一項目これをやらないで、あとは10,000千円残りますが、この10,000千円もほとんど人事異動に伴う予算がずっと出ているわけです。だから、資料として出していただいています地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業の説明をまずしっかりしていただいて、そして、それに伴う審議をしていただければ99%終わるんじゃないかと思うんですね。

やり方としては、一項目一項目やらないで、そこで十分なる説明をしていただきたいし、また意見を言わせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

議長（酒井恵明君）

お諮りします。審議の手法について、今、平田議員より御意見がございました。一項目一項目というか、1款ですね、それをやるんじゃなくて、今回計上されている補正予算146,000千円余りですね、これはほとんどが地域活性化の事業であると。だから、その事業の内容を詳細に説明していただきたいという御意見がございしますが、皆さんいかがでございましょうか。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

今言われました内容でも私は構わないと思うんですけども、まず歳入ですね、歳入をきちっと論議した中で、今言われました部分では、交付金の事業は歳出の部分にはなると思うんですけども、それ以前に前段として、かかわる部分もありますけれども、まず歳入だけはきちっと論議をしていただきたいと思います。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

議案審議の進め方の問題だろうと思いますが、本来ならば議運の中で協議して、必要ならば決めるということだろうというふうに思います。しかし、そういうふうに意見を問われましたので。

それで、今、資料も出されております。今度の地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業ということで、19事業計画されておるわけです。これを集中的にやったらどうかという提案でございますけれども、こういうふうな資料も出ておりますし、やはり従来のやり方で歳入、もしくは歳出の場で、款項目のところで詳しくひとつ審議していくということではいいんではないかなというふうに私は考えます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

ただいま意見が分かれております。集約させていただきます。

まず、重松議員より出ました歳入については詳細な審議をしたらどうかということですが、いかが取り計らいましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

じゃ、歳入については詳細な説明を求めます。

歳出に関しては、地域活性化の資料も出ています。それがあから、それに伴って主要なものを重点的に説明していただき、一項目一項目審議をするのはいかがなものかという御意見と、するべきであるという御意見が出ていますが。片山議員。

5番（片山一儀君）

平田議員が言われたように、あと付託をされるわけですね。付託をされて、その正面で

もって詳しくやるわけですから、ここでは大まかに、しかも、この130,000千円ぐらいがほとんど国の交付金事業なんですね。ですから、歳入も決まった事項だと思うんです。ただ、私自身は本当はここで申し上げたいのは、この補正のあり方なり、それから予算の総計予算審議について私はここで質問させていただきたい。これは款項目の問題じゃなくて考えているんですが。

議長（酒井恵明君）

ちょっと待ってください。まず、冒頭に申し上げました平田議員の意見を採用するかどうかということをまずは議決したいと思います。

ほかに御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、それでは、歳入に至っては詳細な説明を求め、歳出については、130,000千円余りの地域活性化事業の中の説明を詳細にさせていただくということで進めていきます。

松石議員。

10番（松石信男君）

そしたら、いいんですね、第1表。違うんですか。

議長（酒井恵明君）

今の件ででしょう、松石議員は。

10番（松石信男君）続

いや、もうありません。

議長（酒井恵明君）

いいですか。

それでは、歳入に入る前に、片山議員から御発言がございました。執行部のほう……

（「第1表の審議ですか」と呼ぶ者あり）

もう一度詳しくお願いします。（「第1表の審議」「いやいや、前のと」と呼ぶ者あり）
違う違う、その前の。

5番（片山一儀君）

非常に御苦労があると思いますが、新年度から2カ月たらずして146,000千円ぐらい補正

が組まれて、これも毎回これから補正が組まれていくんです。当初予算が50億円、当初ということ自体が私は疑問を持っているんです。総計予算主義に反する行為で、見積もりが、要するに見積もりというのはやらなきゃいけない。やられていない。例えば、一例です。今回、歳入の中で小学校の電気を販売する、頭出しということで1千円出しています。こんなのは発電量を見積もって使用量を見積もれば、幾ら販売するかが出てくるわけです。見積もりがされていない、予算が。予算というのは見積もりであって、補助金も　今回特別にあるんですけども、これは補助金からもらおうという見積もりをして、やっぱりそれを獲得する努力をしなければいけない。そうしないと、行政サービスが常に場当たりの、あるからすぐ飛びつくよと、こういうことに、場当たりの、受動的になりかねないんじゃないかという疑念をずっと私は持っています。今まで、おまえがやってきたのは国のことだからという意見も聞きますけれども、手法は同じなんですね。どこであろうと同じなんです。

この事業ですね、これは総合計画もありますが、事業計画、企画政策課長がローリングシステムで見落としているよ、実施計画を3年ごとにつくっているよとおっしゃっているが、具体的にこの項目はこうやるんだよ、これはこういう補助金をとってやるんだよという計画があるのでしょうか。それを1点だけお伺いしたい。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

今の1点だけと言われましたけど、補正予算の関係とか頭出しの関係もおっしゃっていましたので、それについて一応私の見解を言わせていただきます。

今回提案しております一般会計補正予算では、経済対策として、御存じだと思いますけれども、国の補正予算の創設がされました。それが地域活性化・経済危機対策臨時交付金の交付に伴う各事業の追加と4月に実施した人事異動による人件費の追加によるものです。

この地域活性化・経済危機対策臨時交付金についても、御存じのように、確定したのが5月29日ということでございます。そういった関係もでございます。

それと補正予算のことでございますけれども、市町村というのは末端行政といいますか、一番末端行政であるわけでございますので、市町村の行政をしていく上で実情はどうしても不測の事態、経費の必要が生じてきます。今回のあれにすれば、地域活性化・経済危機対策臨時交付金等の国、県の成立がおくれてとか途中で決まって、こういった場合も出てきます

し、また不測の事態、災害等、そういった場合ははっきりしておりますけれども、そういった等がございますので、当然補正は出てくるものと思っております。

それから、頭出しの予算については、片山議員おっしゃっていますけれども、その年度に事業を実施することをほぼ決定まではいきませんが、こういう事業をしたいということで、国の動向とか県の動向、その他原因とならない理由により金額がはっきりしない、見込めない金額についてが大体1千円の頭出し、歳入においても大体そういった原則で1千円の頭出しをしているところがございます。

以上でございます。（「最後の答えがなかったですね。事業計画のことについてはどうですか」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

実施計画に計上している部分を予算化しているのかということも、実施計画で全部入っている部分を予算化しているのかということだと思いますけど……（「違う」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

私が申し上げているのは、こういう項目は町の福祉のためにやらなきゃいけないという計画がありますね。それを、これはその中から事業を予算がついたからやっつけようという、それは見積もりの話だから予算を計上しても構わないんだというのか、もう1つは、こういう特例で交付金等が出てきたから、よし、それに適合する事業を探してやろうとしているのか。要するに主導的に計画的にやろうとしているのか、お金があるから何か探してやろうとしているのかということをお聞きしているんですね。そのために、ずっと長期の計画があるんでしょうか、ないんでしょうか。その補助金が出てきたら非常に御苦労されて、徹夜をして事業を計画されているのかということをお聞いているの。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

今回の補正の部分につきましては、先ほど総務課長のほうから答弁いたしましたように、

まず、地域活性化・経済危機対策臨時交付金という項目で基山町に108,000千円が来るとい
うことで、これは国の施策として額が決定して基山町に来ております。それで、その事例と
して説明会等でもあっております中では、事業としては地球温暖化対策等に取り組みなさい、
それから、少子・高齢化社会への対応、安全・安心の実現という事業に取り組みなさいとい
う目的で来ております。その中で、基山町の実施計画の中に該当する項目的なものは、3つ
の基本計画の中に含まれておると。しかし、今回は緊急に事業として取り組んで、逆にいえ
ばお金がついたから、これに合致する事業として各課から何かあるかということでした
しております。その中には、今項目で上がっていた事業には該当しなければならないと。しかし、
実施計画の中には基本計画の6項目の中に該当をして、先ほど一覧表で差し上げておりま
したこういう事業は該当するけれども、ローリングの中には入っていない部分もあると思いま
すけれども、基本項目の中には合致をしているという事業で取り組ませていただいております。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

済みません、今、どこを審議しているんですかね。

議長（酒井恵明君）

第36号議案です。それで、事項別に入ろうと考えていますが……（「第1表でしょう」と
呼ぶ者あり）

事項別には午後から入ります。第1表にあるんですね、松石議員。先ほど私が申し上げま
したが、なかったようですので、次に進みました。（「いやいや、第1表あります」と呼ぶ
者あり）

第1表にあるんですか。松石議員。

10番（松石信男君）

議長、どこを審議しているか明確にさせていただきたいなと思います。何かはっきりいたし
ません。

議長（酒井恵明君）

はっきり第1表と申し上げましたよ。ページ数まで申し上げました。

10番（松石信男君）続

ああ、そうですか。そしたち、私の聞き間違えかな。それは申しわけありませんが。

それで、第1表は歳入歳出全般にわたって、片山議員と重複する部分もありますけれども、今ちょっと説明ありました。今回の補正予算を編成するに当たっての考え方ですね。先ほどちょっと説明があったと。もう一度はっきりお聞きしたいと思います。

それから、今回、この政府の地域活性化・経済危機対策臨時交付金と、108,000千円を財源として19事業、136,000千円の事業を計上されているわけですが、これを計上するに当たっての意思決定の経過、こういう19事業をなぜ今度補正に上げたのか、その辺について1つは説明していただきたいと。

お聞きするところ、各課に、先ほどちょっと説明があった5月29日にそういうふうに確定したので、急遽、各課に何かする事業はないかといって問うたと。各課からもばっと上がってきたと。それから取捨選択してというふうな感じを私は個人的に受けておりますけれども、この19事業、136,000千円を予算計上した、事業決定した、その意思決定の経過、これについてちょっと説明ください。2点について、もう一回。

議長（酒井恵明君）

質問者にちょっとお尋ねします。その意思決定は10事業、19事業だったでしょう。一事業一事業ということでしょう。全体的にいいんですか。

10番（松石信男君）

済みません、もう一回。

この19事業を決めた経過ですね。各課から相当上がってきておるといふふうに聞きます、いっぱい。ところが、19事業に今回絞られているわけですよ。絞られたというか、予算の関係ももちろんあって、交付金の関係もあって。そういうふうに19事業に最終的に予算計上した、その理由といたしますか、その経過といたしますか、いっぱいほかに事業があるはずなんですよ。だから、今回こういうふうに緊急的に上げたのは、そういうふうなあれがあるんでしょうから、その辺は最終的には町長が、よし、これでいこうと、この事業でいこうじゃないかということで判断されたと思うんですけれども、その辺の経過ですね。

2点、この予算編成をするに当たっての基本的な考え方ともう1つ。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

今の件でございますけれども、先ほど企画政策課長が言ったと思いますけど、まず、この事業に使えるのが地球温暖化対策、少子・高齢化社会への対応、安心・安全の実現、その他将来に向けた地域実情に応じる細かな事業ということになっております。それで、各課に企画政策課のほうから要請をしたのは、多分5月の連休明けだったと思っております。それで、まだその時点では、いつ法案が通るかというのはちょっと予測が付きませんでしたので、会期延長とかいろいろございましたので、ありましたけれども、6月定例会に上程しないと、事業とかする場合、期間等の問題もございますので、なるべく早目にしておかななくてはならないということで、5月の連休明けに各課にこれに該当するような事業を上げてくれということで要望を出して、企画政策課のほうに上がり、その後、5月二十何日かだったと思えますけど、上がったものを精査して、5月二十何日に町長査定ということで決定をして、今回上程をしているところでございます。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

それで、私もさっき平田議員から非常に今回の補正については、普通の補正予算と違って非常に重要視していると。だから、集中的にやったらどうかという提案もあったように、今回の緊急経済対策としての基山町での事業予算、非常に大事だと私は思っています。

だから、たびたび鳥栖市のことを取り上げて申しわけないんですが、鳥栖市は6月補正には上げておられません。それはたしか臨時議会が何か開いて集中的に審議するというものかなと思いますが、ちょっとその辺はわかりませんが、基山町ではそういうことで国のそういう指示もあって、ばたばたやったのかなという感じがします。もちろん先ほど企画政策課長が言われたように、実施計画に上げていると、これを主に考えた。そして、政府の言う温暖化対策とか安全・安心とか、それに沿ったものだというようなことを言われましたけれども、やはりこれは非常に大事な問題だと。

それで、今回の事業を見てもみますと、これは私の見方ですが、そういう実施計画にあるにしても、公共事業の前倒し的な性格とか、それから、予定されていたものが主なものになっているというふうに私は思います。この19事業の中に、たびたび私たち議員は問題にしているんですが、この議会で各議員、いろいろ提案もされ、要望をされています。町民の声を聞いて、こういうことをやったらどうか、こういうことをやったらどうかと、たびたび今

までやられてきています。だから、そういう事業が反映されているのかなというのが1つです。

それからもう1つは、やはり町長、それから執行部の方が常日ごろ、区長さんたちも含めまして、町民の方も含めまして、こういう事業をやってくれという要望はたくさん来ていると思うんですね。ところが、はっきり言って、いや、それは長期計画の中でとか、今は考えておりませんとか、いや、予算上とかいろいろ言われて、残念ながら実施できないと。町長もじくじたるものがあるかもしれんですね、それは。できたらしてやりたいなと思ってあるかもしれない。今回そういうふうなお金 came、いいチャンスなんですよ。だから、そういう町民の人たちの常日ごろの要望と、それから議員が議会で常日ごろ取り上げてきた、そういうのが反映された事業なのかというのが非常に私は危惧するところなんです。何かははっきり言って、例えば、いい悪いは別です。ハイブリッドカーを2台買うと。町民の要望かな。議会でも取り上げたかなと、ハイブリッドカーを買えと。

議長（酒井恵明君）

松石議員……

10番（松石信男君）続

ちょっとそれはそれで終わりますけど、そういうふうなことを思いますので、そういうことが議論されたのかどうかですよ。議員の過去の総意とか町民の方のいろんな要望をした上で今回の19事業が決定されたのかどうか。これは町長が最終的に決定されたわけですから、町長の答弁を下さい。

議長（酒井恵明君）

先ほど平田議員から発言がありました趣旨は、19項目ありますね。これを1項目ずつ、その折に私は発言していただきたかったと思っています。（「だから、これは大まかな部分ですから、大まかな考え方を言っていますから」と呼ぶ者あり）

そうですね、全体的なことをおっしゃるのは理解しますよ。（「だから、それをちょっと町長が答えて」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

今回のこの交付金事業が本当に町民の、そして議員の皆さん方の日ごろの要望を十分考え

たかというようなお尋ねだと思いますけれども、これはもちろん私どももやっぱりいろいろの要望があるということは聞いておりますし、それを全然考えないというわけじゃございません。何しろやっぱり懸案のいろいろがあります。そして、各課にもそれがあるわけでございます。そういうのを上げて、その中で優先順位をつけて、そして、いわゆる使途のその辺にも合致しなきゃいかんというような、いろんなこともございまして決定をさせていただいたということでございます。

そこでまた、協働じゃございませんけれども、みんなで協議をしたかとか、改めて住民の皆さん方にもそういうことで問い直したかというようなことを言われるかもわかりませんが、そこまではやっておりません。日ごろの要望というようなことで、それは考えながら決定したということでございます。（「あとは歳出でやろう」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

そうです。歳出で詳細なことは答弁もしていただきますので。

第1表の質疑はこれで終結します。

これで午後1時まで休憩いたします。

～午後0時3分 休憩～

～午後1時5分 再開～

議長（酒井恵明君）

休憩中の会議を再開いたします。

午前中の続きで第36号議案の歳入について、事項別明細書の3ページをお開きください。

よろしゅうございますか、3ページ。

歳入。13款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

13款2項4目、8目。松石議員。

10番（松石信男君）

濟みません、一応所管ですけれども、1つだけちょっとお聞きします。

13款2項4目と8目でしょう。

議長（酒井恵明君）

4目と8目です。

10番（松石信男君）続

済みません。地域活性化・経済危機対策臨時交付金108,000千円、緊急経済対策という位置づけでしようが来ているわけですが、この性格ですけれども、私は準地方交付税的な性格と、町が自由に使うことができると。交付金というのは割とひもつきがいろいろあるわけですから、私は町が自分たちの頭で考えて自由に使うことができる、やはり準地方交付税的な一般財源だという私は位置づけをすべきというふうに思いますが、いかがですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

何度もお答えしたと思いますけど、ある程度自由には使えますけれども、言いましたように、地球温暖化対策とか少子・高齢化への対応とか安心・安全、そういったものに当然使用すべきだと思っております。

議長（酒井恵明君）

松石議員よろしゅうございますか。

重松議員。

2番（重松一徳君）

3点ぐらい質問したいんですけども、今回、4目と8目、これは両方とも、4目のほうにしてもそうですけれども、今これは新しい取り組みとして来ているわけですから、合計金額119,577千円ですね。

1点目は、この金額はどのようにして決定したのかという問題ですね。いや、これは国が決めたことですよと、全然地方は関係ありませんよと言われればそうかもしれませんが、これは21年度の国の予算、そして補正予算の決定に基づいてされているわけですから、1点目は、どのようにして金額が決まったのかと。

もう1点は、これは全国的にどこの市町にも交付金として交付されているわけですから、市とか町によってランクも違いますけれども、例えば、人口比とか各市町とかの面積とか、それではこれ 金額がトータル、あれがないんですね、人口が二、三倍のところには10億ぐらい交付金があったりとかしている部分もありますので、こういう部分がどのような決定において金額が決まっているのかということと、総額的に全国でこういうお金に何兆円か何億円が使われているのかと。これは国の決定ですので、金額的な問題ですので説明をお

願いいたします。

それからもう1点は、後から支出については中身は討論しますので、支出については後であるんですけども、結局1回だけ、今回1回の交付ですよ、来年はありません。もし歳出ですね、例えば入札減とかで使わなかったと、使わなかった金は返還しなければならないのか、いや、ほかのところで自由に使えるのか、この3点についてちょっと説明をお願いします。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

まず1点目ですけど、この額がどうして決まったかということでございますけれども、これは国のほうから来るものでございまして、一応向こうの配分の方法としては、財政力指数等を考慮してということになっております。

それと、国の全体的な予算でございますけれども、1兆円でございます。

それと、もし余れば当然返さなくちゃいけないと思っております。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

じゃ返さないために新たにですね、当然これ入札とかいろんな部分ですので、中身は言いませんけれども、当然余ってきますね。じゃ、それについてはまた新たに何か項目を立ち上げて、事業を起こして返さないように持っていくんですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

入札減等は当然あると思います。それで一応、ある程度入札減等も予想しまして139,500千円というふうにはじき出してあります。（「はい、いいです」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

ちょっと確認ですけど、交付金の事業明細にある135,910千円に対応する 名称は地域

活性化となっておりますが、それに対する歳入は108,000千円なのか、119,577千円 学校情報通信技術助成金も入れた金額を対応して、こちらの支出の明細になっておるのか、歳入歳出の関係をちょっと。合計ですね。

歳出のほうは地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業として135,000千円、それに対応して108,000千円という、同じ名称では収入があるんですが、支出の中身のほうには学校対策も入っておりますんで、要は歳入のあては119,000千円なのか、108,000千円なのか、ちょっとどう計算してもわからんのでよろしくをお願いします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

地域活性化・経済危機対策交付金の中に学校情報通信関係の分が入っておりますけど、学校情報通信技術環境整備事業補助金につきましては、国庫の補助として歳出の10款のところにあります校用備品のパソコン及びデジタルテレビ関係の事業費のうちに、関係分の対象経費のうち2分の1がまず国庫補助というふうになります。その国庫補助を除いた部分が裏負担としてこの地域活性化・経済危機対策臨時交付金の対象事業というふうになっておりますので、その部分は国庫補助金とは別物というふうに考えていただきたいと思います。

以上です。

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

そうすると、歳出のほうにある校用備品の約38,000千円と歳入のほうの7,600千円と国庫補助の約11,000千円ですか、これの差が108,000千円から出るということなんですか。そういうことですか。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、次進みます。

14款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

同じく、14款2項1目、6目。品川議員。

6番（品川義則君）

6目の魅力ある学校づくりですけれども、これは歳出はどちらのほうに入っているでしょうか、そこを教えていただければと思います。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

魅力ある学校づくり推進事業費補助金につきましては、歳出の 失礼いたしました。事項別明細31ページ、10款3項2目、教育振興費の中の9節、旅費のうちの30千円、それと11節、需用費の部分がこの対象事業というふうになっております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

計算の合わんやんね。153千円になるよ。品川議員、よろしゅうございますか。

林議員。

8番（林 博文君）

この魅力ある学校づくりの推進事業費補助金というのは、ことが初めてですか。

それと、小学校から中学1年生の新学期のときの対策費というような説明を受けましたが、今までこういうようなのは中学1年生になって、例えば、環境がころっと変わるから問題はなかったのか、基山町ですね。そういうのもちょっと含めて、この事業がどういうのか、よろしくをお願いします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

今回、御提案させていただいております魅力ある学校づくり推進事業費補助金につきましては、平成21年度から新規に県がつくった補助金制度でございます。本町においては基山中学校における中1ギャップ、先ほど議員もおっしゃいましたけど、すなわち小学校から中学校へ行ったときの不登校を防ぐための施策を講じる事業としての補助金制度でございます。

て、今年度からの新規事業でございます。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

次進みます。

14款3項5目、6目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

16款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

17款1項2目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

19款5項3目。品川議員。

6番（品川義則君）

3目の基山小学校太陽光発電販売代金ですけれども、これは見込みとしてはどれぐらいの金額を想定されていますか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

基山小学校太陽光発電の販売金につきましては、今年度といいますか、4月の段階で200円余り販売代金が出ますので、今回、一応千円という形で計上をさせていただいております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、歳入の審議はこれで終了いたします。

次、歳出に入りますが、初めての試みで……（「議長」と呼ぶ者あり）入る前に。（「はい。歳出全般について」と呼ぶ者あり）何かこの手法について。（「はい」と呼ぶ者あり）鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

歳出に関連しましてですけど、午前中から議員からいろいろ地域活性化関係の補正予算なりについて質問があって、なかなかかみ合わない部分もあったと思っております。その原因は、一番大事などは、基本的に平成21年度の当初予算を作成するときには、基山町の総合計画の実施計画、財政計画を指針として平成21年度予算を策定するとなっておりますよね。今、3月当初予算は可決しました。

6月の補正予算でありますけど、この指針となるべき基山町の実施計画、財政計画が何ら私たちにも町民にも示されていないところに、この事業は恣意的に町長がやっているんじゃないとか、いろんな関連が出てきているんじゃないかと思うんですよ。だから当然、私は当初予算の審議のときに総合計画の実施計画、財政計画等を示して審議をすれば、こんないろんな問題も出てこないんじゃないかと私は思って、前からいつも財政計画の提出をお願いしましたけれども、6月議会が終わったときに大体もらうようでもんね。当初予算の指針となるべき実施計画が、いまだ議会なり町民に基山町はどうするというのが示されていないのが私は異常に感じますけど、その点と、いつ実施計画、財政計画を示されるか、お聞きします。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

これは前もお尋ねになって御答弁申し上げていると思っておりますけれども、19年度の実施計画でいけば、19、20、21という形のローリングの3年間の実施計画を含んだ事業を計上させていただいております。今ある実施計画を提出しているのは、20年度を提出させていただいていると思っております。その中には、21年度の事業も含んだ計画と22年度まで含んだ計画を入れております。そういう観点から、21年度の実施計画を含んだ部分で当初予算等にも反映はさせていっております。

それから、提出につきましては、現在作業を行っております、あさってのときに担当し

ております財政のほうと企画、町長も含んだところで、今作成している内容等をもう一回審議したいと。ただ、今回こういった緊急の歳入部分が含まれてきておる、それから昨年来の経済状況等が歳入の見込みというのは非常に予想がしにくいという状況の中で今作成しておりますので、その辺の検討事項も加味したところの提出になると思います。

議長（酒井恵明君）

鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

ということは、この地域活性化・経済危機対策本部等も含めた実施計画なり財政計画が提出されるということなのか。

それと、先ほど言いました平成21年度当初予算に反映されたというのは、平成20年度のローリングでした21年度分を考慮に入れて当初予算を作成されたということで、新しく21年度に対しての来年度見込みを20年度末か当初予算で策定するとき、それを考慮して21年度の見込みは立てていない、20年度に立てた分で21年度分を実施計画として予算計上といいますか、それを作成したということで、20年度分に作成した実施計画に基づいて21年度の当初予算を策定されたのであって、21年度の実施計画を見込んで21年度の当初予算を作成されたんじゃないということ、20年度に作成された実施計画に基づいて21年度予算を作成されたということですか。その2点だけお願いします。

議長（酒井恵明君）

企画政策課長。

企画政策課長（小野龍雄君）

基本的には、各課から予算の要望等が当初予算のときに12月ぐらいから上がってくるわけですが、その中でも担当課のほうからは新たな事業等も上げられてきております。しかし、大きな事業につきましては、財政の将来等も見越して総合計画の実施計画の中にそれは上げてあったんですかということの第一の査定の基準にはいたしておりません。しかし、緊急性の問題とか将来性の問題も加味したところで上がってくる部分は、新たな事業として上がってきている部分もあることはあると思っております。

それから、今回のこの経済危機対策の部分については、本来ならばこういう事業が、108,000千円という事業がつくという予想は上がっておりませんので、新たな事業として先ほど午前中も片山議員のほうから質問がありましたように、総合計画の中の基本計画に割り

振って実施計画の項目も分けておりますので、その中の6項目の基本計画の基山町が目指しておる事業の中にはその項目は該当すると。該当するというので、こういった事業には取り組める実施の範疇にあるということを含めて、今回、21年度の実施計画のローリングの中に、21年度の事業としてこれは取り組んでいくという形で計上を今進めておるところです。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

ちょっと私の質問で、今までの質問とちょっと重複するかもわかりませんが、今回の経済危機交付金ですね、108,000千円ですけど、

議長（酒井恵明君）

原議員、マイクの上に……（「いや、何もありませんけど」と呼ぶ者あり）ないですか。

（「マイクが悪いんじゃないですかね、これは」と呼ぶ者あり）失礼しました。

11番（原 三夫君）続

それで、この108,000千円の方ですが、これについて19件、今出ておりますけど、はっきりした回答が今までにまだされていないようでございますので、ちょっと幾つかお聞きしたいと思っております。

まず初めに、第1点目に

議長（酒井恵明君）

原議員、ちょっと待ってください。そこに入る前に、私から申し上げて執行部より説明をいただくような段取りはいたしております。（「それはわかります。しかし、それに入っていないと思うんですよ。それで、ちょっと聞いてください。よかですか。簡単に申し上げますので」と呼ぶ者あり）

11番（原 三夫君）続

今回の経済危機臨時交付金の分ですね、これにされたのは各課からずっと要求をしていただいて、その中から選別してこの事業に 選別してというか、国の政策に合致した事業であるかないかとか、そういうのは当然入っておりますけど、何件きちっと出てきたのか。何件。今19件ですけど、40件出てきたのかわかりませんが、何件出てきたのか。そして、その中で19しかないの、そこで国の基準に合わなかったものとかいろいろありますけど、そういう外した分はどのくらい、どういう事業があったのが1つですね。

それから、そういう基準とかいろんなものを含めて、最初21年度の当初予算を組まれたときに、このときにも全課から要求された中で当然5億とか7億とか外してあると思うんです、予算関係上。当初予算に計上できなかった事業があると思うんです。そういうものがこの中に何件入っているのか、その件が1つ。

それからもう1つ、この19の中で135,000千円ここに予定が上がっておりますけど、この中で当初予算に実際計上しておいた分、この分を充当しているのがあるのかどうか、その点も後で、ずっと今から19を説明するときでいいですから、これは当初予算に幾ら上げておいた分を幾ら充当しましたとか、そういうものがあればですね、ちょっとわかりませんので、当初予算をこれに振りかえたとか、充当を振りかえたとか、そういうものがあれば教えていただきたいと。

というのは、結局、最初は当初予算を組んで予算上、計上できなかった分、それがやっぱり積み残しになっているわけですね。ずっとそれが積み残しになって、また今度も積み残しになったのが幾つあるとか、今度はまた補正、こういうものがあるかもわからないわけですね。こういうものが、今後経済危機対策として。そのときに、じゃ、どれを今度はそれにつけるかという問題もあるんですよ。その辺の基準をどうやって決められたのか、その辺をちょっとわかるだけでいいですけど、教えていただきたいと思います。

議長（酒井恵明君）

原議員、今おっしゃった件は、先ほど私申し上げました、執行部のほうにお願いしようと思っておりましたが、各項目の折に、ここに来たときにそこまで説明していただくということで御了解できますか。（「はい」と呼ぶ者あり）そうしなければ、時間的にもたくさん時間を要する、もちろんしっかりと審議はしていただかなければなりません、そのような手法でやらしていただきたいと思います。（「議長」と呼ぶ者あり）原議員。

11番（原 三夫君）

しかし、この項目順にいいですけど、係からこの19件のほかに何十件出たのか、その辺だけはちょっと頭に言っていただいていたほうがいいと思います。

議長（酒井恵明君）

はい。わかろう、総務課長。

総務課長（大石 実君）

わかる範囲でございませうでしょうか。ちょっと今現在、各課から上がってきたのは全部

で42件上がってきております。そのうちの今回提示されている部分でございます。

それで、当初予算で外された事業は何件あるかと。（「19の中に」と呼ぶ者あり）

当初予算で計上しており、充当した分というのは、ちょっと後で調べさせてもらってよろしいでしょうか。ちょっとここでは私、回答は申しわけございませんけど。（「そのチェックをしていないということたいね」と呼ぶ者あり）

そいけん、そこが判断し切らんけん、済みませんけど。（「いいです、了解」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

じゃ、今の点も含めて各課長はもしかしたら把握してあるかもわかりませんので、把握してあればその時点で発表していただくようお願いしましょう。

それでは、皆さん、資料でお渡ししておと思いますので、地域活性化の経済対策臨時交付金事業の一覧表、19項目、これお持ちでしょう。これに沿っていきたいと思います。そして、これが終わり次第、議案書に出ております一般会計の事項別明細に入らせていただきます、これは特別なものだけのことにして。

それと、お願いしたいのは、極力、所管外はやむを得ませんが、所管内の質疑は委員会の中で細部にわたって質疑していただくようお願いしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

じゃ早速、この事業の一覧表に沿って、まず総務課長より説明をお願いします。総務課長。

総務課長（大石 実君）

まず、庁用備品の手数料関係のハイブリッドカー購入ということで4,496千円をお願いしています。これはハイブリッドカーを2台購入ということで考えております。現在、庁用車が全部で25台ございますけれども、かなり古くなっていると。年数的に言いますと、14年が1台、13年が1台、12年が4台、11年が2台、10年が1台と、あとそれぞれありますけれども、かなり古くなっているのです。今回、地球温暖化対策も兼ねて公用車のほうからこういった啓蒙をするということでしております。

それから、玉虫・けやき台調整池浚渫工事ですけれども、汚泥等、また草等はしておりま

すので、玉虫とけやき台の調整池の浚渫を今回5,565千円の計上をお願いしております。

それから、庁舎等地上デジタル放送対応事業でございますけれども、テレビの台数としては12台、場所としましては庁舎、体育館、町民会館、保健センター、憩いの家、図書館、保育園でございます。

それから、修繕料として、社会福祉協議会の事務所のエアコンの修理として735千円をお願いしております。

それから、消火栓の設置負担金でございますけれども、今回26,400千円をお願いしております。これは全部で42基を取りかえるものでございます。法定耐用年数が30年でございますので、それを経過した消火栓についての取りかえを計画しております。現在、町全体では消火栓の数は232基ということになっております。

以上で私の説明を終わります。

議長（酒井恵明君）

今5事業について説明がございましたが、何か質疑ございますか。片山議員。

5番（片山一儀君）

社協の事務所のエアコンなんですけど、社協の施設の対策はどうなっているか。要するに、社協のエアコンは社協の補助金を出しているわけですね、町から1億近い。この中でやる事業なのか、なぜこの中で町がやらなきゃいけないのか。1つは、社協は町の財産を借りているわけですね。そここのところの契約の問題もあると思うんですけど、そこあたりどうなっていますか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

今社協が使っておるところの建物等は町の所有ということ、それと社会福祉協議会は利益のあった分に関しては町にたしか還付、町のほうに利益の分というんですか、それは上がってくるということで解釈しておりますけど。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

備品まで町がやるのかどうか、契約はどうなっているのか。これは社協の会長さんが町長

になっているんですね。そこらあたりが非常に不明瞭なところがあるんじゃないかと、こう危惧しておるんですけどね。契約がきちとなつて備品までやるのかどうか、この予算に上げるのかどうかですね。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

私もその契約書がどうかということまでは存じませんが、私が知っている部分は、備品も含めたところで社協がお借りしているというようなことと解釈しております。そして、そこに町から補助を出して、それで余剰金はまた返還をするというような形になっていると思います。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

社協の監査も、多分監査の対象になっていると思うんですけど、余ったら返す、必要があったら出すよとなると、これは非常にお金の使い方がラフでありルーズであるんじゃないかと、こう気がするんですね。社協との関係が明確にきちとなっていないんじゃないのか。上がってきたときから私不思議に思っているんですが、よくそこを注意していただいて、これから明確にしていってほしいと思うんですね。

以上です。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

はい、わかりました。しかし、社協は社協として非常に厳しく予算執行というか、そういうことはやってはおります。

それから、いわゆるシルバー人材センター、ああいうのはまた別会計というようなことでもございますので、その辺は社協としては真剣に取り扱っているということでございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

今の件でございますが、これは今までもいろいろ問題があったように思っております、解決していないところが。それで、今回もまたこういう格好で、今、同僚議員が言われましたように、社協の事務所のエアコンの修理を一般会計から735千円出すと。これ私、町長が社会福祉協議会の会長をやっているがゆえにごちゃまぜになっておりはせんかなと、社協というのはれっきとした公益法人でしょう。

私は家主である基山町が、あそこは今まだ所有権ありますから、基山町の財産ですから、あれは貸しておるわけでしょう。無償で使用をしている、契約をしているんですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

無償でございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

普通は家賃をもらって、賃貸料なんかもらっておったら、中身によっては、修繕関係では借り主が出すとかいろいろあるわけですよ。しかし、本当に民法上きちっとした、そういう契約があるのかどうかです、的確なやつが。そういうのがないのにこういうことをしよったらどういうふうになるのか、どうですかね、これは。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

申しわけございませんけれども、先ほども申しますように、契約書ということは実際に私も目を通した覚えはございません。ただ、本当に当初から無償で貸すというようなこと、そしてその当時もすべて、建物もそれから備品も貸しておったということでございますので、今回その修理ということで社協の今度、実は2,000千円程度余剰金ございましたからそれでやるべきなのか、やっていいのかどうかということでございますけれども、その辺はむしろはっきりさせようということで、その分はお返しして、そしてクーラーの修理はしていただくというようなことでしております。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

今までは町長も契約内容も見たことないと。それはそこまで目が行き届かないでしょうから、予算化する担当課の責任があると思っております。やはりこういうのは相殺、うちは補助金も出しているんですから。さっき言われたように、余ったら返す、足らんやったらもらうとかじゃなくして、やはり修理を家主がするかわりには、基山町が修繕費を出すためには、やはりきちっともらうものはもらって、修繕するものは責任に応じて、ちゃんと責任をとって管理者である基山町がちゃんと修理をします。その分、明確にきちっとやっていかないといけないと思いますよ。まず、その辺をぜひ今後実行していただきたいと思っておりますので、よろしく願いしておきます。

議長（酒井恵明君）

回答は要りませんね、答弁は。（「いや、ちょっとそんなら」と呼ぶ者あり）何か……（「さっき言われたけど、もう一回、きちっと明確にそういうとをぴしっとやられる、契約書もちゃんとして。担当課長わかりますかね、この件は、契約書は。契約書はあるんですか」と呼ぶ者あり）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

それはちょっと私のほうで調べさせていただきたいと思いますが、よろございますか。（「はい、わかりました」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。重松議員。

2番（重松一徳君）

今回、ハイブリッドカー購入とかいろいろ出てきているわけですがけれども、これは補正予算でしたか、ハイブリッドカーを1台購入するとき、今後ともハイブリッドカーの購入は考えておるのかというふうな質問の中で、いいえ、なるべく軽自動車を買いたいと、エコカーに買いかえたいというふうな答弁がありましたよね。

今回、ハイブリッドカーを2台買うというのもありますし、これは後からデジタルテレビとか地上デジタルとか、いろんなものがあると。これは国から108,000千円、そして教育関係含めてから約1億一千何百万、金がある中で、例えば、ハイブリッドカーを2台買いんさ

いと、何々を何台買いなさいと、これひもつきですね。これこういうふうな限定がされてから来た部分で買うんですか。じゃ、もしそうじゃなかったらエコカーを買うべきじゃないんですか、軽自動車を。どうでしょうか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

確かに、今後なるだけ軽自動車を買っていくというのは私言ったと思います。さっき軽自動車がエコカーとおっしゃいましたけれども、このハイブリッドカーというのはエコカーだと思っておりますけれども、リッター30キロとかですかね、そういうなるだけガソリンを使わないということでございますので、地球温暖化対策の事業の一環と私は思っております。

議長（酒井恵明君）

総務課長、もう1点、ハイブリッドカーを買いなさいという国からの分。総務課長。

総務課長（大石 実君）

申しわけございません。そういったあれは、ハイブリッドカーを絶対買いなさいとか、そういったものはございません。

議長（酒井恵明君）

重松議員。

2番（重松一徳君）

ハイブリッドカーがエコカーであるとは私もわかるんですよ。ただ当面、回答の中で今後ハイブリッドカーを買うんですかというふうな質問に、いや、軽自動車を買いたいと、軽自動車もエコカーですからという答弁だったんですよ。だから、なぜ今回は軽自動車を買わずにですね、これは普通自動車でしょう、ハイブリッドカーは。を買うんですかという質問なんですよ。

それと、いや、ひもつきじゃないんですよと、別にこれを買いなさいと言っていないよというふうに言われるかもしれませんが、国会の論議の中でこのハイブリッドカー、言われるようにCO₂削減含めてからという中で、物すごくこのハイブリッドカーを宣伝したじゃないですか。そういう意向を酌んでから基山町が買われるんじゃないですか、逆に。じゃなかったら、私は軽自動車を買うべきなんだと、そっちが金が安いからというふう思うんですよ。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

それは本当、重松議員のおっしゃるとおり、ハイブリッドカーは政府も非常に進めております。そういう観点で当然ハイブリッドカーを購入しておるものでございます。私のちょっと答弁がまずかったと思いますけど。

議長（酒井恵明君）

重松議員、いいですね。（「いいです」と呼ぶ者あり）

原議員。（「次に行ってよか」と呼ぶ者あり）いや、総務関係の5事業について。冒頭に申し上げました所管は、なるべく委員会のほうで詰めてください。平田議員。

12番（平田通男君）

表題にありますように、地域活性化・経済危機対策臨時交付金なんですが、各市町村にいろんな金額が地域活性化として来ていると思うんですね。今、総務課で今回提案されている中で、少なくとも基山町の地域活性化にこれがどれか入っていますか。

各町村ごとに地域活性化事業補助金として来ているわけでしょう、交付金は。その場合にまず基山町として考えられるのは、基山町の地域をどう活性化していくかということが頭の中になくはないんじゃないですか。

この総務課の事業の中に、基山町の地域活性化のために何が入っていますか。そういうことは全く考えなくて、これは組んだんですか。地域活性化だから九州全部とか、あるいは福岡、佐賀あたりまで地域と見るとか、いろんな考え方があるでしょうけど、それぞれ市町村に地域活性化補助金 coming しているわけでしょう。佐賀県全部に来たわけじゃないでしょう。基山町に108,000千円来たわけでしょう。そうすれば対象はやはり、まず中心になるのは基山町の地域活性化でしょう。今回ここに使われているお金の中で、総務課関係の中で基山町の地域活性化に具体的にどれだけ貢献していますか、これ。そういう考え方が全くないならいいです。教えてください。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

どれだけ貢献しているかということでございますけど、私は貢献しているのは庁用備品の

ハイブリッドカー、それから玉虫・けやき台調整池浚渫工事、それから庁舎等のデジタル、この3つについては 下のもちよっとわかりませんが、下も多分、エアコン関係も発注の仕方によって基山町に貢献できるものと私は思っております。

議長（酒井恵明君）

最初申し上げましたように、できたら各課長にお願いしたいのは、地域活性化・経済危機対策、この事業がですよ、それに一番基山町に合致しているというか、そのためにこれを採用しましたとか、全体的には19項目が、それで採用してあるとは基本的に考えますよ。しかし、今質問が出たように、特にそれを重んじて、その事業を採用したということもあらうと思いますから、説明の段階でそこまで説明してください。（「総務課の分だけ今答え……」と呼ぶ者あり）そうです、総務課の分だけで。大石課長は総務課の分だけでいいんです。（「いいですか」と呼ぶ者あり）平田議員。

12番（平田通男君）

確かに地域活性化は、温暖化とかいろいろありますよね。そしたら、その次にある経済危機対策に関しては、基山町の経済危機対策に何か貢献するものがありますか。浚渫はわかる、恐らくよそには持っていかんだろうから。ハイブリッドは基山町から買うことないですね。（発言する者あり）基山町から買うんですか。（発言する者あり）ああ、買うんですか。じゃいい。じゃ、デジタル関係も全部基山町で入札をさせる。そういうことであればいいです。（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

次行きます。林議員。

8番（林 博文君）

一番下の消火栓設置負担金ですが、135,910千円の中で一番大きい26,400千円ですが、28ページの34,674千円かかるうちの26,400千円を使うということですが、これは232基のうちの42基をという取りかえ分の改修工事ということですが、こういうのはやっぱり経済危機の対策に当たりますかね。

それとあと耐用年数が、修理が必要であるし、取りかえする必要があるからということで単純にこれを上げられたものか。あと232基のうちの42基、金額的に一番多いわけですが、今回の135,910千円の中で、そういうのを合わせると消火栓設置負担金、これが経済危機に何かつながりますかねと思って。ちょっと説明……。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

この件に関しては経済危機といいますが、項目で安心・安全化に資することになりますけれども、消火栓の取りかえはですね。そういう項目で計上しております。

議長（酒井恵明君）

林議員。

8番（林 博文君）

そういうことになりますと、42基がたまたま金額が26,400千円、今回交付金が来たからということですが、今後まだ232基の中でも変えなくてはいけない 相当あるわけですか。ちょっとその辺……。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

今回変えなくて 年次計画を立てて、今後は耐用年数が過ぎた分は変えていかななくてはいけないと思っております。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

地デジ放送対応ですけれども、この事業の内容ですね。テレビを地デジ対応の型に変えるのか、それともチューナーを買って、それで今ある現存のテレビを地デジ対応に変えるのか。

それと、確認ですけれども、さきの地域の経済危機対策でこの事業は行われるのか、その確認です。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

チューナーじゃなくて、買いかえるという方向でっております。

それと、地域活性化にできればと私は思っております。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますね。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、次のこども課関係の2つの事業についてお願いします。

できたら、なるべく質疑を受けんでもいいように詳細な説明をお願いいたします。こども課長。

こども課長（内山敏行君）

それでは、こども課の分を説明させていただきます。

最初に、放課後児童教室備品整備4,560千円お願いしておりますけれども、これにつきましては今回、基山小学校内にひまわり教室の新設をするようお願いしています。この中の備品整備ということで、子供たちの道具入れ、靴箱、それから座卓等、それから指導員の先生のいす、それとカウンターの設置などの備品を行いたいということでお願いをしているところでございます。

それから、保育園給食室・トイレ改修事業14,473千円につきましては、現在の保育園の給食室は相当古い建物ということもあと思いますけれども、職員のトイレから調理場に直接出入りできるような配置になっております。県の指導等がずっとこういう保育園に入るわけですけれども、そのときに衛生面から指摘がっております。これを改修するためにトイレを別のところに外しまして、トイレと調理場の間に休憩室なりを設けて、そこで衛生面の消毒なり手洗い等をして調理室に入るという設備にしたいということで工事費をお願いしているところでございます。

それと、園児用のトイレの間仕切りが、下のほうがどうしても洗浄により腐食が進んでおりましたので、これもあわせて改修をお願いしたいというふうに思っております。

この内訳としましては、設計業務委託料が569千円、工事管理業務委託料が275千円、それと工事費が13,629千円ということでお願いしております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

今、こども課長による説明をいただきましたが、質疑ございませんか。原議員。

11番（原 三夫君）

所管事務の分野でございませんのでちょっと、ぜひここで1つだけお聞きしたいと思いますが。

今回、いろんなところで小学校、中学校、教育関係のパソコンなんかずっと、すごい金額で上がっていると思うんですね。この中に、今言われた備品の中に、これは当然、今必要なパソコンとか、いろんな事務をする上での必需品となっているコピーとか、そういうものがなぜ私はこの中に入っていなかったのかと不思議に思っているんですけど、これ今後どういうふうに もうこれで来ているんですからね、一緒に何とか考える方法はあるんですか、そろえられるんですか。そこんにき、ちょっと考え方をね。

これは一般質問でも、重松議員のほうからも絶対これは必要だと、そういう話も出ておりましたですね。どういうふうに対応されるんですかね。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

今言われました指導員さんが使えるパソコンにつきましては、指導員さんもいろいろおられますので、全員さんがそういうパソコンがどうしても必要だということではないようです。確かに使われて、それで教室だよりとかいうのを直接自分で原稿をつくられる指導員の方もおられます。

どうでしょうかという相談もしたことがございます。教室に1台置いたらどうでしょうかということも相談しましたが、いや、もう教室の中に置いてまでするような暇もないし、子供たちもいろいろ扱ったりして壊れたりするといけないので、今のところは自宅で自分が持っている分でさせてもらうという指導員さんもおられますし、いや、私たちは手書きでやってこども課に原稿をやりますので、それを打って印刷してくださいと言われる指導員の方もおられます。

そこら辺を一般質問のときにも答弁しましたように、今後新しくなりますし、これはもちろんコスモス教室も含めてですけれども、どうしてもそういうパソコンが1台要るんだということであれば、当然あわせて考えたいというふうに思っています。この予算の中で、もしかしたら見積もり減というのも出てくるかもしれませんが、それでちょうどそういうのが買えるような状態であれば、この中で対応させていただきますし、もしだめな場合で、そして

指導員の方がどうしてもパソコンが要るんだということであれば、次回にまた補正等をお願いするというような形になろうというふうに思っております。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

そういうふうな当の現場の方たちが不要ないというふうな意見も出しましたが、私はそういうことだから、じゃそれでいきますというふうにはいかんだろうと。特に今、基山役場でも1人1台という、パソコンも全部職員1人1台の時代になってIT化の推進をやっておるときに、片方もちゃんとれっきとした基山町行政の機関の中で仕事をしているのに、やりとりはどうやってやるんですか。そういういろんなやりとりの問題とかあるじゃないですか、お互いに。

じゃ、極端に言うなら、相手は何いっちょ持たないと。じゃ、一々歩いて行って連絡事とかやるんですか。そういうのも含めながら、やはりその辺はきちっとしていかないと、ITの問題でも格差が出てくれば仕事しにくいと私は思うんですよ。そういう考えを私は持っております。ぜひひとつ、今から新しい募集もされるでしょうし、そういう問題でこれは必需品ですから、きちっとその辺はやはり考えていただいたほうが私はいいと思っておりますので、ぜひ考えていただきたいと思っております。以上。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

今のひまわり教室の備品整備のことでお尋ねをいたします。

今回、基山小学校に併設される部分ですが、学童保育の机とか、げた箱とか、カウンターとか道具入れとか、いすとかに充てたいということでございます。それはそれとしてですが、実は今度の報告第3号に上がっています繰越明許費の中に、3月の補正で可決いたしました53,343千円の事業があります。この中には、こういうカウンターとか、いすとか、道具入れとか、げた箱は入ってなかったんですか。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

この建設費にですね、3月で補正をさせていただいた分には入っておりません。特にカウンターというのは、最初はそういう想定をしておりましたけれども、つくりつけとか既製品、机とかいろいろ方法はあると思います。基本設計の段階で、これは備品でもいいだろうというような話がありまして、それをまず外したということと、あと49,000千円という建設費にどうしても枠がありますので、できるだけ備品で対応できるものは備品で対応したいという、後で補正なりお願いしたいという考えがもともとありまして、そこら辺を全部外しておたということで、建設費でできるだけ、例えば少しでも広くするとか、トイレを1階も2階も設けようとか、そういうのが頭にありましたので、そちらのほうとにかく振り向けようということで備品関係をちょっと全部外した経緯がございます。後だって補正をお願いしたいという考えがありましたところにこの交付金事業が出ましたので、今回補正をお願いしたいという経緯でございます。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

今説明ありましたように、これは今度の緊急経済対策でしなくても当然せにゃいけない部分ですよ、せんわけにいかんわけですから。箱だけつくって、中はいすも机もないと、子供さんのげた入れもないというわけにはいかなかったんで……。これがないとすれば、例えば9月補正に出すという計画だったんですか。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

そのとおりでございます。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

こういうことでいいのかなという感じがちょっとします。当然こういう事業、備品については、緊急経済交付金が来なくてもしなければならぬ事業なんですよ。それが来たから、妥当かどうかは知らんけど使わにゃ損と、これを。ということで、ちょっと表現が適当じゃないかもしれんけれども、こういうふうな使い方はどうかなというような感じがしますが、

そういうふうな形になっていないんですか、使わにゃ損と。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

考え方の違いかもしれませんが、やはり9月補正でこういったものをしなければいけないなら、国のこういった補助金があれば、それは当然、先ぐい前倒しでするのが当然だと思っております。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますね。

ほかにございませんか。後藤議員。

3番（後藤信八君）

今の件ですけど、49,000千円の工事の中に靴箱とか、道具入れとか、カウンターとか、そういうのがもともと入っていないということがちょっと理解 箱をつくるときに玄関から、入り口から入って、げた箱等があって、そういうのは建設の中に常識的には入るんじゃないかということと、そういうのを全部抜いてということであれば、49,000千円のもともとの、きのう一般質問で約298平米とありましたんで、坪単価に直すと540千円もかかるという そんな内装も大したことないでしょうし、家1軒建てるのとは全然意味が違いますんで、そういう意味でいくと、ちょっとその辺がどうしても理解できないんですが、その辺どうでしょう。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

この建設費については、地域活性化の前段で補正をしていただいた49,000千円についても非常に緊急で上げさせていただいた経緯もございます。一応小学校の建設がされるときに概算で出された金額、一番当初学童保育が入ってございましたので、そのときの金額をちょっと緊急に上げさせていただいた経緯がございます。

実際これで建てられるのかという話を、基本設計の段階とかでいろいろ業者さんが入って、まちづくり推進課でも話をして、やはり非常に制約といいますか、面積的にはかなり厳しいものがあります。当然1.65という、1人当たり幾らというようなガイドラインの基準は満た

しておりますけれども、まだ十分でないという部分もございまして、最初は当然げた箱とかの分はつくりつけ、それと道具入れもつくりつけ、各部屋の壁側に棚をつくるんですけれども、そういったのもしてありました。ところが、ずっと詰めて話をしていくうちに、どうしてもやっぱり面積のほうが欲しいと。

それと、トイレとかも1階にあればいいだろうとかいう話もあったんですが、やはり教室を分けるのであれば、1階、2階にちゃんと男女分けてしたいというような指導員さん方の御意見等もあって、だんだんそちらのほうに、ちょっと予算的に窮屈になると。しかし、それをどんどん、49,000千円を大きくするわけにもいきません、繰り越し事業でしたので。その中で抑え込もうとしましたので、備品で対応できる分は何とか後で補正でお願いできないかということで、げた箱とか、そういうつくりつけの棚とかは備品で対応できますので、そちらのほうにお願いするというので、そちらを外した中で今基本設計をしているというところの経緯でこういう形にさせていただいておるところでございます。

今回の経済危機対策臨時交付金については、たまたま内容的にも、そういう放課後児童の備品というようなことまではっきり名前が出てされているところもありましたので、こちらの交付金を利用させていただくということになったわけでございます。（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

そうしますと、机とか、いすとか、そういう附属は別にして、一般的な観点で言うと、4,500千円のうちの何百万かは本来建物の中に入るぐらいの　そうすると、実際は坪単価600千円ぐらいかかるぐらいの子供教室と。一般の住宅より高いですね。たしかセキスイさんとか、パナホームとかが建てるぐらいの坪単価ですね、これ。ですから、それでいくと、こういう軽量鉄骨、多分軽量鉄骨ですね、建物で常識的にそれぐらいかかるのかどうかですね。それはあくまでもこれから入札するから、もっと下げていくとかいうとがあるのであれば別ですけど、常識的にちょっと判断できないんで、その辺のレベルについてですね。

議長（酒井恵明君）

関連で、ひまわり教室の建設費等を考慮して今質問がございました。（発言する者あり）
後藤議員、よか。

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

今の段階では、基本設計をしてもらおう業者のほうで積算をしていただいて、一応49,000千円以内では抑えておりますけれども。その単価が高過ぎるというのが私もちっとわかりませんけれども……（傍聴席で発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

傍聴者の方、恐れ入りますが、発言はしないでください。（傍聴席で発言する者あり）

議長は、発言を控えてくださいと注意しましたよ。

後藤議員、要するに坪単価が高いんじゃないかどうかということのお尋ねやったでしょう。（「はい」と呼ぶ者あり）こども課長。

こども課長（内山敏行君）

49,000千円で290平米ということで、平米では168千円ですよね。それでも高いという見方ですね。（発言する者あり）557千円ということですかね。

議長（酒井恵明君）

平米単価の157千円とおっしゃった。（「168千円、単純に割ったら」と呼ぶ者あり）割り返して、はっきり申し上げてください。（発言する者あり）議員の方も私語はやめてください。課長、もう一度正確に答弁してください。こども課長。

こども課長（内山敏行君）

坪単価に直すと557千円という数字になります。ちょっとこれは一般的に高いというふうに思われるということですが、一応基本設計段階でそういう数字が出ております。今後実施設計に入りますので、そのあたりの当然見直しとかいうところは出てくるというふうには思っております。（「最後」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

去年もパソコンとかいろいろなことでも予算から6掛けぐらいの入札結果になったとかいうようなことも聞いていますし、いずれにしろ両方合わせて55,000千円ぐらいの費用を投入すると。学童保育のことだから立派なものをつくったらええというわけじゃ私はないと思うんですね。昨日も重松議員の一般質問でもありましたように、運営の問題とか受益者負担の問題とか、サービスを拡大すればいいという話だけではないと思うんで、そういう面も含めて

やっぱり納得性のある、今の坪五十何万という数字は、一般のかなりいい住宅の坪単価と全く一緒です。そういう面から言うと、実際の実行段階でちょっとシビアな取り組みをぜひお願いしておきます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。町長から何か。

町長（小森純一君）

確かに今お聞きしておりますと、坪単価550千円というのは高いなという感じがいたしますので、その辺はもう少し詰めて、多分基礎とかなんとか、そういうことがどうなのかなと、そういうちょっと私も気がして、詳しくはわかりませんが、そういうことも含めてまた調査して、できるだけそんな華美にならないようにと。最初はプレハブでもというようなことだったんですけども、それじゃやっぱりいかんということで、ある程度のところということなんでございますけれども、その辺はもう少し詰めさせていただきます。

議長（酒井恵明君）

今の件については、追加議案で出ますので……（「違います」と呼ぶ者あり）勘違いしていました。失礼しました。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、ここで2時25分まで休憩いたします。

～午後2時6分 休憩～

～午後2時25分 再開～

議長（酒井恵明君）

休憩中の会議を再開します。

次に、健康福祉課の関係が2事業あります。

これについて説明をお願いいたします。健康福祉課長。

健康福祉課長（岩坂唯宜君）

それでは、私のほうから健康福祉課の事業について説明をさせていただきます。

まず、新型インフルエンザ対策でございます。

この秋に向けての対策でございますが、本来、地域活性化交付金がなくてもお願いをするということで準備をいたしておりましたが、この対象になるということになりましたので、地域活性化の臨時交付金の事業でさせていただくということでお願いいたしております。

まず、内容につきましては、防護服400着、それからエタノール500ミリを450本、それからサージカルマスクを5,000枚、計828千円をお願いをいたしております。

それから、続きまして保健センターの床改修工事でございます。

今の現状で保健センターの床につきましては、コンクリートの床面にユニットカーペット、これは5ミリ程度でございますが、を敷いた仕様となっております。いろいろ使います事業におきましてですね、特に乳児健診、それからお年寄りの健康運動というのにも今現在使っておりますが、こういう方の利用のときには、どうしても下がかたくてクッション性に欠けるということで、衝撃を和らげる素材をコンクリートの上に配置させていただきたいということで、今回この事業の交付金を使わせていただいているところでございます。

内容につきましては、内容と申しますか、面積につきましては、1階、2階の研修室を予定しておりまして431.3平米でございます。まず1階につきましては、まず正面から入っていただきまして左側の機能室、それから正面の保健相談室、2カ所、この部分を張りかえたいというふうに考えております。それから、2階につきましては、2階の研修室1、2の部分をお願いしたいということで、事業費といたしまして5,865千円の額をお願いいたしております。

内容につきましては以上でございます。

議長（酒井恵明君）

質疑ございますか。重松議員。

2番（重松一徳君）

新型インフルエンザ対策の事業で今言われました部分の購入が828千円ということで、感染防護服と消毒液とサージカルマスク、それぞれの単価について教えていただけますか。

というのは、サージカルマスクが今回5,000枚ですけれども、これについてはもう少し予備をしておくべきことでもありますので、1枚当たりの単価を教えてくださいようお願いします。

議長（酒井恵明君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（岩坂唯宜君）

それでは、まず防護服でございますが、1着千円でございます。それから、エタノールにつきましては、これが420円。それから、サージカルマスクにつきましては、9.4円で一応お願いをいたしております。

議長（酒井恵明君）

重松議員、よろしゅうございますか。

原議員。

11番（原 三夫君）

保健センターの改修工事について一、二点質問いたしたいと思いますが、これは建ってまだそんなにないかたと、10年たっているかたっていないかでしょう。それを今回5,865千円の改修をされますが、意味はよくわかります。わかりましたけど、これは修理をしなくてはいけないような破損があったから、この際、そういう考えで変えると、こういうことなのか。

議長（酒井恵明君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（岩坂唯宜君）

平成10年に保健センター、庁舎たっておりますので、11年目になっております。別に破損ではございませんで、今現在、床はですね、先ほどちょっと申し上げましたが、コンクリートの床にユニットカーペットをかぶせていると、5ミリ程度ですが。それで、子供さんとか、お年寄りが利用される場合に使うには少々クッション性が悪くて、転倒された場合とか強い衝撃を受けられる可能性があるということで、実際、子供さんが転ばれて少しこぶをつくってあるという事例もございます。そういうのを考えまして、その間にクッション性のあるものを、床とカーペットの間にクッション性のある素材を今回入れさせていただきたいということでございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

いろいろ文句を言いたくありませんが、それは保健センターという施設の状況からして、利用者というものはおのずと決まっておるし、子供さんとか高齢者とか住民の健康福祉のために使うという施設ですから、そういうことは最初から私はわかっておると思ったんですね。

だから、今さら昔のことを言うわけではございませんけど、やはり今後はそういうことを真剣に、きちっとしたそういうものを考えていただいて、やはり当初の建築段階からそういうことも、私は今後の教訓としてきちっと生かしていただきたいと、無駄使いがないように。

今回、ちょうどこういうふうな経済危機対策活性化資金があったから思いつかれたことでしょう。じゃ、もしなかったらこれはずっとそのままいかれるということだったんですか。

議長（酒井恵明君）

健康福祉課長。

健康福祉課長（岩坂唯宜君）

確かに、おっしゃるとおりでございます。これは保健センターですので、健診だけで健診ももちろん使いますけれども、今は特にお年寄りの介護にならないための事前の予防策というのもございまして、そういう多方面に使うということがありますので、当初からやっぱりそういう状況であらねばならなかったというふうに私も思っております。

今回、そういうことで最初からできたのであろうということでございます。確かにそうでございますが、今回これを契機にさせていただきたいと思いますが、必ずしもこれがあつたから今回させていただくというのではなくて、計画としては、一応こういうふうにクッション性を持たせていただきたいという計画はございました。ただ、やはりどうしても優先順位とかがありまして、なかなかできなかった関係、今回はこの交付金を使わせていただいて改修をお願いしたいということでございます。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、次進みます。

農林環境課長関係の、防犯灯LED化の工事に対するの説明をお願いいたします。農林環境課長。

農林環境課長（吉浦茂樹君）

それでは、私のほうから防犯街灯LED化工事3,000千円でございますが、今回15基をお願いしております。これは通常発光ダイオードと言っていますけれども、そういうランプに切りかえるということで、水銀ランプの100ワット用防犯灯から比較しますと、約70%の

CO₂排出量の削減ということになっております。

それから、同じく水銀ランプの40ワットでございますと、約78%のCO₂の排出量の削減ということで今回お願いしておるわけですが、これにつきましては地域活性化、それと地球温暖化防止にもつながるということをお願いしております。これは基山駅前ですね、これを中心に今回やりたいということでございます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

お尋ねをいたします。

今回そういうことで、消費電力の少ない発光ダイオードの電灯でしょうが、防犯灯についてですけれども、今各区から防犯灯の設置要望が上がってきていると思うんですが、今現在、何件ぐらいありますか。設置するには緊急性とか必要性やっただすかね、そういうので今後つけていくということで、今までの答弁だったとは思いますが、今現在、何カ所ぐらい。わかる範囲内で結構ですが、防犯灯をつけてほしいという要望が上がってきている、箇所数。

議長（酒井恵明君）

農林環境課長。

農林環境課長（吉浦茂樹君）

申しわけございません。要望箇所についてちょっと手元に持っておりませんので、申しわけございませんけど、お答えできません。（「要望箇所数は何件かあるわけですか」と呼ぶ者あり）要望箇所数はございます。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

最終的に町長のほうで決定されたと思うんですが、今回はその場所に防犯灯を設置すると、町民の安全・安心のために。例えば、どこどこの区からこういうのが上がってきている。それに緊急性、必要性、それは今までから見るなら確かにそれはどうかなという部分もあるかもしれないけれども、しかし、つけたほうがいいということになると思うんですけれども、今回これを使ってそっちの防犯灯のほうをつけるというふうには最初からならなかったんで

すか。

町長が最終的に判断されたと思うんですが、目的に反するという事なんですか。つまり、地球温暖化防止のためにCO₂削減のための政策であって、地域住民の防犯のためではございません。しかし、さっき言った安全・安心を守るためにという目的もあるわけでしょう。そしたら私は、そういうふうになってきているわけですから、やっぱり1つでも2つでも住民の人たちの要望をこの際実現するという立場に立って、例えば、今仮に30カ所ぐらいまだしてほしいというのがあるなら、そこをつけるというふうなことが必要だったのではないかと、そういうふうには私は考えるんですね。その辺は検討されなかったのか、その辺どうですか。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

要望箇所が何カ所あるかということは私も存じておりません。ただ、やはり上がってきておるといふことだろうと思います。その辺のところは、やはり必要性なり優先性なりというふうなことで、担当のほうでもある程度検討はしていると思います。

それと、LED等の兼ね合い、じゃこっちをやめて新しいやつをつけたほうがいいじゃないかという議論もあるかも知れませんが、それはそれとして各検討をやっておるといふことですので、これはひとつ、駅前あたりのCO₂削減というふうなことで今回取り組んでみたということでございます。これが本当にそういうことで実際やってみて、よければまたほかのところにもそういう形でつけていくべきだろうとは思いますが、今回の場合はそれとこれと比較したということではございません。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

比較もしなかったということで、最初から町民の方から上がってきている要望については検討しないと、防犯についてですね。防犯灯の今度のLED化に、いわゆる防犯灯を何とかしようということに当たって新しくつけることはしないと。あくまでCO₂削減が目的だといふ判断でやったということなんですね。

いや、ちょっと私は、そういう町民の方から要望が上がってきているなら、この際、町長は集中的に防犯灯をつけられて、非常に町民の方から感謝されています。しかし、まだまだ

あっちこっち聞きますし、要望も上がってきているとするならば、当然それも検討して、いや、このほうが消費電力が少ないし温暖化防止のためになるんだということはわかりますけれども、やはりそがんとも検討してすべきだったのかなと私は思うんですよ。検討もしないと、ちょっとどうかなというふうに。それは見解とか金の使い方の考え方の相違ではあると思うんですけど、ちょっといかがかなと思うんですが、ちょっともう一回。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

別に検討を全くしていないという話じゃございません。ただ、今度の場合はこれとの対比はどうかということではございませんということです。これは当初予算でございますけれども、一応168千円、防犯灯設置工事ということで上げてはおります。だから、これを何基かつけると、この基数はわかりませんが、何基かつけるというような。だから、必要なところはやっぱりそういうふうで、幾らかずつでもふやしていこうというようなことでございます。

議長（酒井恵明君）

ほかにございますか。原議員。

11番（原 三夫君）

この防犯灯ですけど、これもこの事業に該当しておったんですが、私はこういう経済危機の中に基山町の商店の方、個人経営、非常にやっぱり厳しい。売り上げが下がり、利益がなく、本当に厳しい中に立たされておると。

今回の危機対策臨時交付金には該当するのがあるんですね。特に駅前の商店街というのは、基山町が防犯灯を設置せんでも、個人企業が自分の軒先に全部水銀灯とか、宣伝を兼ねたそれを立てているわけですね。そこには防犯灯はついてないでしょう、基山町の町有財産の。ついていてもまた横につけていますかね、そこんにきの状況を教えていただきたいと思いません。

議長（酒井恵明君）

基山駅前の状況ですか。（発言する者あり）原議員、端的に質疑してください。

11番（原 三夫君）続

特に駅前のものが出てきたので駅前、ほかにもありますよ。ここは商売の方がちょうど

出してあるから、ああここは防犯灯要らないのとか、よけて立ててあるじゃないですか。だから、そういうことで駅前個人企業が宣伝を兼ねての水銀灯をしてあるから、基山町は防犯灯を立てるべきところが立てなくて済んでいるんじゃないかと、そういう話です。

議長（酒井恵明君）

農林環境課長。

農林環境課長（吉浦茂樹君）

議員おっしゃるとおり、商店街で設置してあるところについては、おっしゃるとおり町では設置しておりません。

以上です。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

それで、基山町はそこはつけなくて個人の企業主が、宣伝もあります水銀灯をずっと立ててある。それで明るくなって、全部がそこを安全に歩ける。そういう町並みになっているわけですね。

今回のこの危機対策の臨時交付金には、非常にこういう厳しい経済状況だから、そういう個人商店の方たちが今までのCO₂削減のエコの問題でも、それを切りかえてこの事業にのせていいと、そういう事業になっているんですか、ここの中の対象事業に。そういうのが私は経済危機対策臨時交付金と。これは自分の町の仕事の予算の、金額にすればいろいろなりますけど。しかし、直接これは個人負担がかなりあるという話なんですよ。個人企業の方は、これは年間通して電気代がかなり高いと。中には、もう消しよりますという話もあるんですよ。

だから、そういうものをなぜ役場は早く商工会と話して、そういう事例が来ておったでしょうもん、ちゃんと。国から、こういう事業もありますよという事例とかずっと来ておったはずですよ。こういうのにも使えますという案内がカラーコピーで来ておったんじゃないですか。一連の対象事業がいっぱい来ておるじゃないですか。こういうこと、こういうことはいいですよ、こういうことはいいですよとか。

例えば、農産物の直売所もいいですよとか、全部来ているんですよ。だから、なぜそういうのを経済危機で、個人が大変な時代に電気代を年間いっぱい払うわけですよ。だから、そ

ういうものを省エネのやつに切りかえた分はこれで対応できると、補助金で。そういうふうになっているから、なぜそういうことをしなかったんですかという私の質問です。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

議員おっしゃっている商工会がつけています、商店がつけています水銀灯ですか、丸っこいやつ。あれは随分とあちこちにあります。あれはもう随分前、商工会青年部OBが、補助金が出るということであれに取り組んだという経緯がございます。それで今までずっと来ておるわけでございますけれども、やはり今経済状況が厳しいということで負担になっているところもありますし、それ以前にもう既にやめられておるところもあるというような、そういう話も商工会からは聞いておりますので、それも何とかしなきゃいかんと、いずれはどうかしなきゃいかんですねということは商工会とも私も話しております。しかし、今度の場合はあくまでもLEDをテスト的にやってみようというようなことでの取り組みでございますもんですから、先ほどの防犯灯と同じような形で、ちょっとそちらのほうにはこれを振り向けなかったということでございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

それで、やはりもう少し住民の生活、そういうものにせっかく国が対策を打っていることについて周りが見えんではどうしようもないわけですね。今後の施策の中にあっても、よくよく勉強していただいて、何を今住民のためにすべきかという 庁舎のことばかり、いろんな消火栓の問題とかそういうことじゃなくして、本当に直接、今危機感のあるそういう住民の方、商売人の方、農業の方とかいっぱいあるわけですよ。そういうものをもう少しきちっと常日ごろからやはり重視すべきであると、そういうのが生かされていないと、私はそういうふうに思っております。

以上でございます。今後よろしくお願いします。

議長（酒井恵明君）

農林環境課長、先ほど原議員から質問があってました あっ、失礼しました、松石議員やったかな。各区からの設置要望ですね、何力所かという、いつごろまでに。後で休憩の

とき整理して、早い段階でお願いします。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

じゃ、次行きます。

まちづくり推進課長の所管で5事業あるようです。一括して詳細な説明をお願いいたします。まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

まず、交通安全施設整備事業でございますけれども、これは交通安全施設工事でございます。町内の町道の区画線などが全般的にかなり消えているという状況がございますので、主にこの区画線等のライン引きと、それとガードパイプ、あるいはカーブミラーの設置をしたいと思いますと思っております。

次に、都市公園環境整備事業でございますけど、これは都市公園内にあります高木、クスノキとかケヤキ、あるいはクヌギなどがかなり繁茂しておりまして、隣地のほうに枝が行って迷惑をかけているという状況もありますし、また、非常に薄暗くなって子供たちが遊ぶのに余りよろしくないということで防犯上もありますので、この高木の剪定と伐採をしたいと思いますと思っております。

次に、総合公園調整池のしゅんせつ事業でございますけど、これは役場庁舎の西側にあります調整池のしゅんせつを行いたいと思っております。

それから、黒谷都市下水道しゅんせつ事業でございますけど、これはグリーンパークの調整池でございます。日本タングステンの南側にあります調整池のしゅんせつと草刈りをしたいと思いますと思っております。

次に、下水道特別会計繰出金ということで下水道委託料でございますが、これは下水道の設計委託料ということで下水道特別会計で計上をいたしておりますけど、下水道整備方針検討業務でございます。これは安全・安心という項目に当てはめてしようと考えています。

本町の公共下水道事業につきましては皆様もよく御存じのとおり、福岡県の流域下水道事業の宝満川上流流域下水道で推進をしておるわけでございます。しかし、宝満川上流流域下水道の処理施設はまだ整備がおくれておりまして、現在はフレックスプランで処理をいたしておりますけれども、本町の下水道整備計画に近々支障が出てくるのではないかとというよう

な状況でございます。それで、福岡県で流域下水道事業の見直しを本年行うようにしておりますので、それにあわせて今後本町の公共下水道事業をどうするのかといったことも検討したいということで、今回委託料を計上させていただいております。

例えば、基山幹線を建設して宝満川上流処理施設へ送るような計画になっていきますけれども、例えば、基山幹線建設の事業費がどのくらいかかるのかとか、あるいは宝満川流域下水道、あるいは筑後川の中流右岸流域下水道への接続が事務的に、あるいは技術的にできるのかといったことも検討したいと思っていますし、あるいは隣の鳥栖市の公共下水道に接続とかが可能なのかとか、そのほか、例えば町外に出せない場合には、今公共下水道では2処理施設持っています。それと汚水処理施設として、きやま台と本桜の処理施設を持っていますけど、この4施設をいつまで使えるのかといったこともきちんと考えておかなければならないと。そして、例えば、統合して基山町内に大きな処理場を建設するとかいうことができるのかというような、そういったことも含めた下水道整備方針を検討したいということで、今回計上させていただいております。

議長（酒井恵明君）

課長、総合公園の調整池のしゅんせつは説明なされた。（「説明したよ」と呼ぶ者あり）
はい、わかりました。

以上で、まちづくり推進課課長の説明が終わりました。何がお尋ねになることがありましたら。片山議員。

5番（片山一儀君）

先ほどからずっと同僚議員が言われていることは、住民の意見が入っていないじゃないか、我々がここにいるんなことを要望したやつが出ていないじゃないか、こういうことが主だろうと思うんです。それから、原議員がおっしゃったように、優先順位を決めるときの基準がしっかりしていないじゃないか。緊急性、安全性のできていないじゃないかということなんです。

ここで町長にお尋ねをいたします。交通安全について、7区の方と11区の方があそこに信号機をつけてくれと。高齢者が渡れないよと。コスモ薬局からコメリからマックスバリュからモリ薬局、高齢化が進んだ、それが出てこない。これは総務課長にも聞いているはず。緊急性がありますね、事故もあっているんです。なぜこれが入ってこないんですか。皆さんから上がってきて、要するに今聞いていると、我々もやってきたことなんですけれども、自

分らで事業があるかないかをチェックして、あとなければ、これ予算があるよと、おまえら今出せと。

今、基山町のやり方は、人間をつくるときに、あっ、こっちのかかとをつけ忘れたから、これは補正予算で組めばいいやとかいう話なんです。人間をつくるときには、右手も左手も両足も要るよというところまで及んでいない。計算間違いをすぐ補正で組もうと、こういう体質があるんです。住民が言ってきていることをチェックして、データベース化して、なぜその中に入れていかないんですか。議会でやられたことを、要求したことを あれは署名運動までやっているんですよ、あの信号は。なぜそれがここに入ってこないんですか。

信号機は県の公安委員会でつくることになっていますけれども、我々がつくって悪いことは何にもないんです。これは金を出せばいい。それは金の額が大きいから、一千何百万かかりますから、それだけかかっても人命がかかる。あそこを、あれだけ飛ばしている道をけさも私ちょっとあそこに立ってきたんですけど、すごいスピードで通っているんです。そういう緊急性がある、安全面でも必要である。なぜ入らないんですか。これを組み替えていただきたいと、私はこの予算を。緊急性という問題から、安全性という問題から。

それでしたら課の職員が出してきただけで、極端に言うとなんか事ないと思いますけれども、思いつきでやることだったあるんです。我々もやってきました。それをなぜ、今ずっと要望しているやつが審査の対象にならなかったのか、これは緊急性はどうなっているんだ、安全効果はどうだ、こういう新基準がきちとなると上げてくるわけじゃないじゃないですか。そこあたり組み替えていただきたい、いかがでしょうか。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

高島の出口のところの信号でございますけれども、確かに必要性は上がってきておりますし、私も感じております。しかし、あそこだけじゃなくて、あちこちに信号が必要だという要望が出ておりますので、それは警察のほうなり公安委員会のほうなりに上げておるということでございます。勝手に危ないところに独自で立てればいいじゃないかというようなことかもしれませんけれども、今のところあれは公安委員会の管轄だというようなことで、それを待っております。町独自で本当に立てていいのかどうかということ、それも私も存じておりませんが、一応警察には再三お願いはしておるということでございます。

議長（酒井恵明君）

冒頭に私は申し上げたつもりでございますが、今、片山議員がおっしゃったように、住民からの要望等をここは吸い上げましたとか云々があるはずなんですよ、この19事業のうちに。これを私はそれぞれに説明していただきたかったんですよ。それがないもんだから、今片山議員の質問があったと思います。その辺、十分理解していただいて、詳細に説明願いたいと思います。

片山議員。

5番（片山一儀君）

やる気があればできないことはないんです。できないという法律は何もありません。公安委員会に自分で交渉すりゃいい、県の公安委員会にですね。交渉すればいい、金を出せばいいんです。ただ、今回出てきていますから、今のところ信号が必要です。じゃ、その信号の出ているやつの優先順位をつけられましたか。今回検討されていないと思います、私は。今まで聞いていると、それは検討されていない。

ここに確かに区画線だとかストップラインだとか引くことも大事でしょう。基山町というか、地方自治体の行政の一番大事なのは住民の生命、財産を守ることにあるんです。そういう視点に欠けているんじゃないですか。一番大事なこと、こういう特別交付金が急遽出てきたんですから、これ幸いにその緊急性を考えてやっていただかないと、さきにもありましたけど公園のしゅんせつ事業も大事かもわかりません。でも、今の生命、財産を守ることがそれぞれ首長の大きな役割ですね、行政の役割です。それが福祉の基本ですから、そういう視点に欠けておる。そこあたりを補佐する、一番これは総務課長だと思いますけれども、そういう観点がない。

だから、この安全の中でバックネットも撤去してくれ、危ないといったやつも入っていないじゃないですか。住民の意見が一つも入っていない。それを今、同僚議員が言っているわけでしょう。我々が言ったことも、住民が言ってきたこともくみ上げないで、事業の中でそれから各課の担当者が思いつきだとは申しませんが、こういうのがあから、これに該当するから要望を上げようと、こういう手法でやられているはずなんです、各課から出しなさいと。それでそれを審査して、国から示した要望に入っているやつをチェックして、あつ、これ出そうね、あれ出そうねと。

そのときには、きのう私一般質問でも言ったように、住民の視点、何もなし。公正、公平

というものもない。どうしてですか、これ。そこの頭が働いとらんじゃないですか。要するに人間をつくる時に片手を忘れて、あっ、忘れれば後で補正で組めばいいよと、こういう観念がずっと歴代続いているんじゃないですか、役場の中に。これは改めていただきたい事項ですね。

先ほど後藤議員からもありましたけど、建物を建てれば中まで当然考えて見積もらなきゃいけないですよ。その区分が建設と備品と分けるかもわからない。目は分かれるかもわからない。分かれるかもわからないけど見積もらなきゃいけないということ、当然。後は補正で出せばいいや、何月の補正で組めばいいや、こういうことになっているんです。

私なんか会計、予算を見たら年度でまず物を考えます。それで、先ほど課長からあったように、緊急があったら補正を組むんです、そういうことになっていますから。ところが、緊急があって思いついたら、間違っているやつを補正でやっているところがたくさんあるじゃないですか。それまで一般質問を事例上げましたよ。

例えば、議員会館だって同じです。新米の人が入ってきたみたいなことしているから急遽3,000千円の補正を組まなくちゃいけない。計算間違いですよ。これも組み替えていただきたいんです、命にかかわっている事項ですから。あそこケヤキがたくさんなって、どんどん電線を押上げていますね。あれ電話線だと思えますけれども、あれあたりも非常に危ないですよ。現場を見られていると思うんですけども、実際にもっと我々の意見、今までお願いしている事項を一個だにしないというのは怠慢だと私は思いますが、いかがですか。

議長（酒井恵明君）

その前に片山議員、予算の組み替えという表現、それは質疑で要求されますか。（「はい、これはお願いしたいと思っています。これで道路の線かえるよりは、そこに信号機を余計つくってもらうほうがはるかに安全だし、緊急度が高いと私は思っているんですよ。生命、財産を守るという観点から」と呼ぶ者あり）

じゃ、今、片山議員より2点の質疑があったと思いますので、2点について答弁をお願いします。町長。

町長（小森純一君）

住民の要望、これは議員さん方からの要望、提案、それは数限りなくといたしますか、たくさんございます。したがって、それを全然取り入れていないというか、考えていないということではございません。

それはやっぱり、ここの中にも例えば保健センターの床、これはおまえらが勝手にやっておるんだらうということかもわかりませんが、これはやっぱり住民の要望といいますか、それが保健福祉から上がってここに上げておるということだろうと思いますし、保育園の給食室・トイレの改修、これなんかもやはり子供たちのためにやらなきゃいかんというようなことで要望もあって、こうして上げておるということでございます。

すべてがそうじゃないと言われるかもわかりませんが、しかし、やはりしなきゃいかんこと、それから、しゅんせつなんかも衛生面からしてもやらなきゃいかんというような、そういうふうないろんな、これは勝手かもわかりませんが、そういうことも考えながらやっておるという状況でございます。

したがいまして、そこには全く住民の目線がないというお言葉は果たしていかがかなというふうに私はちょっと今聞いて思ったわけでございます。私もそれは住民の一人一人の意見をできるだけ聞いてというようなことは日ごろから申し上げてきておりますので、それは大切なことだと思いますけれども、それを本当に集約してどう持っていくかというようなこと、この辺はやっぱり、また難しい面じゃないかなというふうに感じております。

議長（酒井恵明君）

片山議員、簡潔な質問をお願いしますね。

5番（片山一儀君）

風吹けば、おけ屋がもうかる論理だと思っんですね。企画課長が説明されたように、こういう手法でやりますと、その中に住民から上がってきた、議員から要望されたデータベース化にせよ、検討しておりますという説明がなかった。今町長おっしゃったけど、実際あればですね。そういう説明があってしかるべきなんですよ。

3年の事業計画を見ました。それから、上がってきている、議員さん方から出てきた要望も織り込んで、なおかつ各課に上げてきたと。こういう説明があるべきなんです。それが無いということは、なかった。町長が幾らあつたらうと、それは住民の要望はあつたかもしれませんが、それは風吹けば、おけ屋の論理だし。それで、これをやっていなければ、知りて行わざれば知らざるに同じですね。それからもう1つ、あしきこと改めるにしかずです。これをぜひ、出したやつだから通すということじゃなくて、謙虚に、それは大事だね、決してやらなきゃいけないね、こういう発想で、ぜひここだけは組み替えて、修正で、私は緊急動議でもいいと思ったんですけど、これまで黙って待っておつたんです、来るまで。私の所

管でもないし、そこあたりをぜひ御配慮をお願いして終わります。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。平田議員。

12番（平田通男君）

今の片山議員の御意見と私もほとんど同じような考えを持っているわけですが、この下水道事業の中の活性化予算の中で繰出金までして委託料を組んだと、そして説明の中では住民の安全になるという説明がありましたね。

本来、この下水道事業については、今まで5年間にわたって議会の中でも何回も言っているわけですよ。いろんな不公平があるし、それから一番大きな問題が、基山町の予算の中の何十%かの下水道事業に入れているわけでしょう。そして、それがその中でしかも接続率が50%もいかない。

今、新しく本管をつくってそれぞれの家庭から枝管を入れていますが、50%もいかないでもそれでいいという考え方でずっと来ている。そのことに対して、今の50%というのは間違いなと思いますよ。既成のけやき台とか12区とか、それはもともとあったわけですから、新しくできたところの住宅の接続率というのは物すごい低いです。

そしたら、下水道事業をそこから歳入を上げるとすれば、当然、接続をしてもらわないと上がってこんわけでしょう、歳入は。このままいくと、下水道事業をするたびに物すごい赤字がずっと続いている。そして、歳入を上げるためには、接続をしやすいようにしなさいということは何回も言っているじゃないですか。

各家庭では高齢者家庭、あるいは年金だけで生活している家庭もどんどんふえてきている。それに1回接続をすると平均して1,000千円ぐらいの金がかかる。その1,000千円の金がない人もたくさんいる。そのために下水道としても銀行からお金を借りれるように、あるいはもっと言えば、こういう金額の中から補助金でも出して、そしてそれを推進していくような、そういうアイデアを出してくることが本来の趣旨じゃないですか。下水道設計を今から見直して何するんですか。そういう発想がなぜできないのかと言っているんですよ。

例えば、地域活性化のために今一時的にお金がない、銀行に行ったらわかりますが、70歳以上だったら金貸しませんよ。1,000千円の金も貸さない。そういう家庭がたくさんあるんです、基山の中にはね。周りには、文明的な下水道に接続したいと願ってもできない人がたくさんいる。よその町では、だから補助金まで出してこれを接続させようとしている。

そういう努力をしないで、ここで緊急対策事業の中から 緊急対策といえば、例えば、基山の中の100軒ぐらいの人が下水道を取りつきたいと、町がそれだけの後押しをしてくれればしたいという人はおるわけですよ。1軒1,000千円かかったら1億でしょう、1億を基山のそういう下水道関係の事業につぎ込んでいったら、基山の業者もある程度活性化になるでしょう。発想としてなぜそういうことが出てこないのかと。

先ほど片山議員が言われたように、ただ各課から上がっているやつの中から予算を108,000千円に向けて、あえて言いますよ、108,000千円に向けて各課から上がってきたのを選び出して上げただけ。もっとうがった考え方をすれば、13,000千円だから、入札減でひょっとしたら20,000千円ぐらい落ちるかもしれんから、そしたら国に返さにかいかんから、事業計画としては13,000千円で組もうと、そして実質18,000千円以内で何とか抑えようと、それが見え見えでしょう、これは。

だから下水道課長、なぜここで設計委託料のこの金を使うんですか。そういう発想しか出てこないんですかね。説明してほしいと思います。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

先ほども説明をいたしましたけれども、今後の本町公共下水道をどのように進めていくかということについて今回検討したいということで委託料を計上させていただいております。

先ほども申しましたように、基山町の公共下水道事業は福岡県の流域下水道事業でやっているわけですが、先ほども申しましたように、福岡県は流域下水道3流域ですね、宝満川上流流域下水道、それから宝満川流域下水道、そして筑後川中流右岸流域下水道、この3流域を統合も含めた見直しをしようというようなことがされています。そういったこと等もあわせて、本町の今後の下水道事業をどうしていくのかということを検討したいということで今回お願いしているわけです。

先ほども申しましたように、今現在、フレックスプランでやっていますけど、これがいつまでできるかわからないという状況もございますので、早い時期に一つの方針を決めてやっていきたいということで今回お願いしているわけでございます。

それと、接続率につきましては、それは平田議員おっしゃいましたように、以前からもともありましたけやき台とか基山ニュータウンとか、ああいうところはほとんどほぼ100%

です。今現在、その施設も使って事業を進めておるわけでございますけれども、おかげさまでかなり今接続の工事が申請が上がっております。特に国道の東側については既に100軒以上、ことしになって申請が上がっている状況でございます、かなり接続は今進んでいるだろうと思っております。

議長（酒井恵明君）

平田議員。

12番（平田通男君）

同じことを何回も言いたくないけど、この問題については6年前から言っているわけですよ。前の議会の経済建設委員会の時代から下水道の問題はいっぱいあると。だから、この問題について改めて見直さなさいとか、あるいは接続率を上げるためにはどうしたらいいとか、じゃ、それを今からするわけですか。だから、発想の転換をなささいと言っているわけです。遅いよ、そんなの。

接続率一つにしてもそうでしょう。接続をする場合は、例えば、けやき台、何百軒あるいは何千軒ある、それが接続したことになるわけでしょう、率としては当然。率を出す場合。しかし、新しくしたところの接続率は出ていないじゃないですか。それが50%以下になっていると言っているわけですよ。だから、まず、これはもう答え要らん。答えは要りません。だから、発想の転換をする場合に、そういうことをやっぱり、住民本位のことを考えて私はやってもらいたい。説明は要りません。

議長（酒井恵明君）

答弁は要らないんですね。（「要りません」と呼ぶ者あり）原議員。

11番（原 三夫君）

ちょっと私もうかつでしたけど、今の下水道特別会計繰出金で括弧して下水道委託料と書いてありますけど、これは具体的にどういうことですかね、下水道委託料って。ちょっともう一回言ってください。具体的に例えばこうこうこういうこと、こうすると。いや、ぴんときないんですよ。

議長（酒井恵明君）

はい、説明していただきます。まちづくり推進課長、詳しくわかりやすいように。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

これは一応この交付金事業にのせるということで、下水道特別会計の繰出金という事業費

を上げているわけです。これは一般会計から下水道特別会計に繰り出しまして、そして下水道特別会計の中で、先ほど申しましたような今後の基山町の下水道事業をどうしていくのかということを検討する業務を委託したいということでございます。これは基山町の全体的な方針でございますから、それで一般会計のほうから繰り出していただくということでございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

あと下水道、地下を掘って、道路の下を掘って、公共下水道事業は大体終わりだと、高島団地で平成23年か24年にはすべて終わると。だから、今回、その後の下水道計画をここで見直すために一応いろんな計画を立てる、そういうことに使いますという意味ですか。そういうことですかね。第2の公共下水道の考え方ですね、これは移行する。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

大卒そういうことになります。だから、今現在は基山町全域が公共下水道の事業計画域の中に入っているわけですね。いつも原議員がおっしゃってありますように、それから外れているのが54戸だということをおっしゃっていますけど、全域が入っていますけど、実質かなり難しいだろうということで、そういう下水道の計画全体もやはり今回見直すための資料としたいというふうに考えております。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

そうすると、これはごまかしなしに、7,300千円でそういう新たなる第2の公共下水道にかわる基山町的设计委託をやると、そういう設計委託料が7,000千円ぐらい一応予算が必要だということで、早速もうそういう設計委託に取りかかると、こういうふうに認識していいんですかね。ただお金だけを動かすというマネーゲームですか、これは。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

ちょっとまた私の説明が悪かったようでございますけど、今の基山町の下水道事業の見直しも近々しなければならぬわけですから、そういう見直しの資料としても必要なものを今回設計委託をお願いしたいということです。

だから、先ほども申しましたように、例えば、今基山町は福岡県の流域下水道に入っていますけれども、その福岡県の筑紫野市に予定されています処理場まで持っていく基山幹線の建設は一応計画としてはあるわけですね。しかし、これを建設するのに大体どのくらいかかるかということをも全然まだ、それは最初のときにはあったわけですけど、今からすると本当に可能なのか、あるいは事業費がどのくらいになるのか、そういったことも。

だから、先ほど申しましたように、基山町の汚水処理をどうしていくかというのが幾つかあるわけですね。だから、もともとの計画であります宝満川の上流流域の処理場に持っていくという方法が基本なんですよ。しかし、それが仮に無理だというなら、例えば、福岡県が今3流域下水道事業を見直そうとかしていますから、今、少し送って処理してもらっています小郡市にある宝満川流域下水道の処理施設に持っていくことが事務的にも技術的にもできるのかどうかとか、あるいは筑後川中流右岸の流域下水道もほぼ完成しましたので、そちらにもいろんな状況整備は必要でしょうけど、そこに接続することもできるのだろうかとか、あるいは先ほど申しましたように、鳥栖市の公共下水道は弥生が丘、それから永吉まで来ているんですね。だから、そこまで仮に持っていくとしたらどのくらいかかるのだろうかとか、そういったことも基本積算等をして、そして本当に基山町の公共下水道としてどれが一番いいのかということも検討したいということで今回予算を計上させていただいております。

それと、今基山町全域が公共下水道事業の区域に入っていますけど、例えば、これを区域から外したほうがいいということもあるかもしれません。そしたら、その地区をどう整備していくかということになると、またほかの事業もあると思いますから、そういうことも今後考えていけるのではないかというふうに思っております。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

よくわかりました。それで、最後に1つだけお聞きします。

ということは、これはことし1年で、21年度で、この予定の7,300千円で委託をして事業

を行うと。もし事業が残って未解決になったときには、この7,300千円の残りは繰越明許費とか継続費とかで繰り越すと、こういうふうになるんですか。事業が全部終わるんですか、ことし21年度だけで。返すんですか。

議長（酒井恵明君）

その件に関しては、こっち。　　よか、まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

済みません。この地域活性化・経済危機対策臨時交付金というのは単年度事業でございますので、ちょっと繰り越しとかということとはできないだろうと思います。

議長（酒井恵明君）

全部の事業はそうであるというふうに理解していいですね。その辺を事前に説明してほしかったんですよ、本当は。

大山勝代議員。

1番（大山勝代君）

今、繰り越しはできない、単年度事業というのは、前にもちょっと聞いていたようだったので、私が考えていたところとはやっぱり違うのかなというのもありましたけれども、ちょっともう1回説明してください。

今、論議を聞いていて、この臨時交付金にそれができると、繰出金として使えるというのが私としては理解できなかったんですよ。先ほど一番初めにおっしゃった4項目の中に、4つ目に将来的にということで、ああ、そことつながる、重なるのかなと思って納得させようとしていましたけれども。

そしたら、私たちがいつも言っている、全国的に国保の　　論議がちょっと飛躍するかもしれないけれども、負担がとっても重いと、住民の方がね。だから、引き下げてほしいという希望がとっても強くあるんですが、基山もそうですが、そういう繰出金を出せるんだったら国保にも出せるよねというふうな考えも及びました。それは少し論議が違うかもしれません。まちづくりのほうで5事業出されていて、単年度ということなので、循環バスについてはやっぱり無理なのかなと思っていますが……。

例えば、2台するために15,000千円ぐらい必要と。今、10,000千円近く出しよるわけでしょう、その辺の金が出せる、そういうことでの検討はなされたのか、なされたとして優先順位があったのかというのをちょっとお聞きして、そして私も片山議員と同じように組み替え

をしてほしいなど。ここで幾つかおっしゃいました、緊急で必要だというのはやっぱりありますよね。だけれども、ここはやっぱり普及ということにはならないというのが幾つかあると思いますので、そこを質問します。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

循環バスの運行事業をこの交付金事業に当てはめるということは考えておりません。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

組み替えはできないと思っております。（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

大山議員、いいですか。

ほかに 片山議員、3回おっしゃっていますので。（発言する者あり）いや、それは座ろうが立とうがですね。じゃ、よろしゅうございます。議長のほうから言いましょう。

組み替えできないという総務課長の言葉が、私も今はっきり認識したんですよね、耳に。だから、先ほどは片山議員の質問のときは、はっきり言ってない交通安全施設整備事業の中の5,000千円の組み替えをという質疑があったんですよね。そのときは明快な答弁はあっていません。明快な答弁があっていないから組み替えできるのかなというように、私だけでしょうが認識していましたが、今はっきり組み替えできないということですので、その辺をもう一度。総務課長。

総務課長（大石 実君）

済みません、答弁があれでしたけれども、組み替えは考えておりません。済みませんでした。

議長（酒井恵明君）

考えていないのか、できないのかをはっきりしましょうか。

総務課長（大石 実君）続

考えていないです。（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

大山議員、よろしゅうございますか。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、随分時間も経過いたしておりますが、朝申し上げましたとおり、追加議案の上程もございますので、ここのまちづくり推進課の5事業についてはこれで質疑を終結します。

3時40分まで休憩します。

～午後3時28分 休憩～

～午後3時40分 再開～

議長（酒井恵明君）

休憩中の会議を再開し、まず冒頭に、先ほどの農林環境課長の防犯街灯LED化の工事の事業に対して、松石議員により各区からの設置要望が何件あるかという質問があっただけだったので、それについて農林環境課長の答弁を求めます。農林環境課長。

農林環境課長（吉浦茂樹君）

失礼しました。各区なり、安全なまちづくり推進参加申請というか、要望が出ているのは、24件の41カ所でございます。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

質問者の松石議員、よろしゅうございますね。

それでは、少しピッチを上げます。

経済対策臨時交付金の事業の中の教育学習課長の範疇の4事業についての詳細な説明を求めます。教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

教育学習課関係の事業について御説明をいたします。

まず、校用備品の職員用端末整備事業、並びに次の学校地デジ対応事業でございますけど、この事業につきましては、文部科学省の補助事業としての計上をさせていただいております。学校におきます児童・生徒の情報活用能力の育成、並びに教員のITC活用能力の育成等のために教育の情報化が促進され、もって教育の質の向上が図られることを目的といたしまし

て、今回、ITC環境の整備に必要な経費を補助事業ということで計上させていただいております。

まず、職員用端末整備事業でございますが、これは校務用パソコンとして各小・中学校にノート型のパソコン、並びにUSBの認識のシステム、グループウェアのソフト、教材支援用のソフト等を配備するようにはいたしております。基山小学校につきましては32台、若基小学校が26台、基山中学校が30台でございます。

次に、学校地デジ対応事業でございますが、これにつきましては各学校の普通教室並びに特別支援教室にデジタルテレビ等を配備するようにはいたしております。基山小学校が21台、若基小学校が14台、基山中学校が19台でございます。

次に、校用備品の基山中電話取りかえ溶接工事でございますが、これは基山中学校におきまして現在、電話の使用等がもう20年以上たっておりますので、その整備のために新たに電話機等を配備するようにはいたしております。多機能の電話機、それとか停電時のバックアップ機能の本体等を整備するようにはいたしております。

次に、若基小学校特別教室等冷暖房整備工事でございますが、これは若基小学校のものの給食調理室の跡を放課後児童教室のコスモス教室の多目的教室として利用するために、今回、冷暖房の設置をお願いするものでございます。

教育学習課関係につきましては以上でございます。

議長（酒井恵明君）

今、教育学習課長より説明がございました。何か質疑がありましたら、簡潔な質疑をお願いいたします。後藤議員。

3番（後藤信八君）

校用備品のまず職員用端末整備事業ということで校務用パソコンを導入すると。今お聞きしましたら88台ということで、ざっと230千円ぐらいのパソコンという形になりますが、これはまた入札云々ということで下がると見込んでいるかもしれませんが、今お聞きしたいのは、1つは、今も校用パソコンを先生方職員の皆さん何台か相当あると思うんですが、それを全部含めて全部買いかえる形の状態になっているのかが1つと、それから単価の設定が前回もありましたけれども、非常にノートパソコンという形でいけば高い設定になっているんじゃないかと思うんですけれども、その辺の単価の問題についてちょっと詳しく内容の説明をお願いしたいということが1点と、デジタル対応のテレビ、今お聞きしますと54台、教

室に配備ということでお聞きしたんですが、これも340千円ぐらいの設定になっています。恐らく上に設定するとか、そういう工事が伴うレベルでこういう形になっているのかなと思います。それにしても今、42型ぐらいでも100千円とか150千円のデジタルテレビがごろごろある中で、三十数万という単価について大きさと、それからその持っている機能を含めてちょっと概案説明がありましたらよろしくをお願いします。

議長（酒井恵明君）

教育長。

教育長（松隈亞旗人君）

私から後段のほうのお答えをいたします

私どもが一番心配しておりましたのは、地デジになったときに一体学校のテレビはどうなるんだろうかというのを大変心配しましたが、今回このような制度が臨時交付金ですか、しかも裏補正もできて、自治体には負担を軽減できるというふうに聞いております。

文科省から職員が出向してきて、県のほうでこれの説明会も行われております。それによりますと、今度どうせ地デジで買いかえるときには現在のテレビに附属品をつけてやるというふうな格好ではなくて、大きなテレビにかえると。50インチ以上なんですね。これ何かといいいますと、これ電子黒板というわけでございます。50インチ以上になると電子黒板ということになるんだそうです。詳しいことは知りませんが、大きいのができると。この機能は非常によろしくて、今までつり方のテレビを利用していたのは、大体理科の番組、社会の番組、道徳の番組で、これNHKがちゃんと組んでいる番組を視聴したわけでございますが、今度の電子黒板になりますと教師が自由にそれを操作して授業ができると。例えば、パソコンと連動したり、それからプロジェクターをつないだり、それから遠隔操作ができたりとか、そういうふうな大変な機能ができるものであって、既に県下の各地で業者の主催でこれを使った授業の公開なんかがあります。近い将来は全部これに変えていくという文科省の方針だそうで、そういうことで若干高いことについてたんじゃないかと。もちろんテレビの本体だけじゃなくてその付属品、ソフトも含まれていると考えます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

パソコン関係でございますけど、パソコンにつきましての学校関係ですけど、今ほとんどは個人のパソコンを使ってありますので、これを校務用パソコンとしてうちのほうで導入いたしまして、100%校用のパソコンとしたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

たしか若基小ですかね、前々回のぐあいのあれで12,000千円ぐらいの予算でパソコンを購入するというあれがありましたね。それは校務用ではなかったんですかね。それが1つと、テレビの件は恐らくパソコンと連動してモニターがわりにも使うとかいろんなことがあってということではありますが、そういう使う頻度ですね。どんなもんなんですか。毎日使うような頻度になるのか、週に一、二度やりますという形になるのか。私もそういう業界の出身で、使い勝手が飛躍的に上がるということはよくわかりますけど、置く価値と、学校としてそれを徹底して教育に使えるという使いこなしですね。その辺のことについて見解をお願いします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

先ほど若基小学校のパソコンのことを問われましたけど、あれにつきましては児童用のパソコンでございます、今回購入を予定しておりますのは教員用のパソコンでございますので、児童・生徒用のパソコンは各学校に40台ずつもう既に配備をいたしております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

教育長。

教育長（松隈亞旗人君）

電子黒板の件についてでございますが、文科省のほうは21年度内にほとんどの学校にこれを整備したいというふうに言っております。したがって、多分県下でも本年度末までにはほとんどの学校に導入されるんじゃないかと考えております。

頻度はどうかということでございますが、恐らくこれが入りましたらこれが中心になるん

じゃないかと考えております。そのためにいろんな研究会が今からあるんじゃないかと。この電子黒板を操作するための研究、それからどんなソフトを使うとか、どんな効果があるとか、そういう研究会が頻繁にあることだと思います。

ちょっと言っておきますことは、現在、文科省は教員1人に1台ということをして21年度内のこの制度によってやりたいということも聞いております。それから、児童・生徒は3.6人に1台と。しかし、本町は今回ほとんど100%近くになるんじゃないかと、非常にありがたいなと思っているところでございます。

以上です。

議長（酒井恵明君）

松石議員の前に、申しわけございません。後藤議員の質疑で校用パソコン88台は買いかえなのか、それから単価を求めてありましたが、答弁漏れになっていると思います。お願いします。教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

パソコンについては基本的には新たに買うということをごさいますけど、一応ノート型パソコンが予算的な見積もりでは1台167千円で、先ほど言いましたUSBの認証システムとかグループウェアのソフトとか教材支援のソフト等が1台当たりで直しますと62,091円で、1台当たり大体229,091円ということで計算をいたしております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

お待たせしました。松石議員。

10番（松石信男君）

今、教員用パソコンの購入の件ですが、88台ということですが、これはノート型パソコンと。デスク型にしなかったのはなぜですか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

ノート型パソコンを選択いたしましたのは、持ち運びもできるし、テレビにもつなげると、そういう利便性を考えましてノート型パソコンにいたしております。

議長（酒井恵明君）

松石議員。

10番（松石信男君）

これは以前に問題になっておったですよ。つまり、今、教職員の方はパソコンがないので自分のを使っていると。それを家に持ち帰っていると。USBも含めましてですね。そして、それをなくしたということで個人情報が出てきているということで大きな社会問題というか、それまで大きくはなっていないでしょうけど、指摘されて、何で私用を使わせるのかと、そんなに学校から持ち出すのかということでなっておったわけです。ノート型になるとどうしても持ち出す可能性がある。そして、USBは当然小さいから持ち出せますけれども、だからその辺はどうなっているんですか。

議長（酒井恵明君）

教育長。

教育長（松隈亞旗人君）

その点につきましては強く県のほうからも指示がっておりますし、私たち教育委員会からも各校に指示をしておりますが、情報管理のために、必ずパソコンを持ち出すときにはノートをつくっているんですが、そのノートに書いて校長の許可を得て持ち出すと、そういうことになっておまして、できる限り持ち出さないと、こういう指導はしております。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

先ほど教育長もお答えしましたけど、どうしても持ち出すときがあるかもしれませんので、今回につきましてはUSBキーの認証システムというものをに入れて、持ち出してもしそれが何らかの、もしもの場合ですけど、とられたとしても開けないようなシステムを入れておりますので、危険性はだいぶ低くなっているんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

この事業は地域活性化事業ということで、パソコンが90台近く、それとテレビが全体の66台ぐらいありますが、このテレビ、パソコンを基山の電気業者から買っていただきたいと思

いますが、いかがでございましょうか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

地域活性化・経済危機対策臨時交付金の事業でございますので、見積もりにつきましても一応町内の業者からの見積もりをとっておりますので、そういう方向も合わせたところで考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

地域業者からとるということでございますけれども、基山には電気屋さんが何軒ぐらいありますかね。（発言する者あり）1軒からとるんじゃなくて、やっぱりそこんにきを分散してとっていただくことができますかね。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

もちろん見積もりといたしますか、購入段階については数商店から見積もりはとって、最低業者と契約をしたいというふうに思っております。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。池田議員。

13番（池田 実君）

最後の若基小学校の特別教室等冷暖房設置工事でございますけれども、コスモス教室らしいですが、これ5,620千円というのと、こういった冷暖房の設備がつくんでしょうか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

冷暖房機につきましては、空調設備ということで一応空調を3台設置するようになっています。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

池田議員。

13番（池田 実君）

設備を3台ということですがけれども、もう少し詳しくどういったものなのかおわかりになれば。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

コスモス教室の特別教室ということですがけれども、給食室の改修に合わせるということですので、約200平米ぐらい給食室がございます。一応埋め込み式のものを3台取りつけないと、あとちょっと費用が高くなっているというところは、それを運転します電気設備の改修まで必要だと。今の見積もり段階では、既設のキューピクルの改修及び配電、そういったものまで必要になるということが高くなっているというところがございます。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか。ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、この臨時交付金の事業について皆さん方、1項目ずつ審議していただきました。時間の関係もございしますが、時間は余り言えませんので、先ほど皆さんに申し上げましたとおり、残業の腹積もりでおってくださいということを申していますので、じっくり行きますが、一般会計の歳出の議案書にいただいていますね。全体について何かここだけは尋ねておかにゃいかんというような思いがございましたら、議員のほうより何ページの何項目目というような指示をしてくださって質疑をしてください。ございますか。品川議員。

6番（品川義則君）

先ほど歳入のほうで中1の対応、あれでお聞きしましたら、消耗品でなっていたと思うんですが、この事業の内容を教えていただければと思います。

議長（酒井恵明君）

ちょっと今のは。

6番（品川義則君）

済みません。10款3項2目11節、需用費、消耗品費で中1ギャップの対応と言われた。

（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

歳出の（「31ページ」と呼ぶ者あり）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

消耗品費123千円の内訳でございますが、魅力ある学校づくりのための手引書並びに参考書等の資料代というふうになっております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

品川議員。

6番（品川義則君）

じゃ、その参考書なり手引を使って先生がされるということですか、それとも教育指導員さんですか、そういった方がされるのか、そして、そういったことをしなければ、対象生徒がいるのかお願いいたします。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

この魅力ある学校づくりは、先ほど言いましたとおり、中1ギャップを解消するための施策でございまして、不登校等の防止をするための施策でございます。現在のところ中1生に関しては不登校等はありませんけど、昨年等の実績を見てみますと、年度末ぐらいになると1人、2人というふうに出てくるようなことが起こっているような状況でございますので、年度当初よりそういうことに関しまして先生が勉強しながら、また先ほどちょっと言い忘れましたが、Q Uテストといいまして、友だち関係のそういう把握をするような調査等も行いまして、そういう中1ギャップを解消していく施策をとるようにいたしております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。片山議員。

5番（片山一儀君）

12ページ、2款1項1目の12節、通信運搬費、ここで220千円上がっていますが、これ見積もりが申請されたんですかね。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

議員さんから等の指摘がございましたので、90円を75円、80円を65円で計算しております。（発言する者あり）1通90円を75円、それと80円を65円で220千円としております。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

つまない質問で恐縮なんですけど、19ページ、3款2項2目13節、保育園給食室・トイレ改修、この監理はこんな監理ですか。皿監ですか。竹管ですか。

議長（酒井恵明君）

監理業務委託料の字ですね。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

工事の監督ということの業務ですので、この監理は、監でよろしいかと思えます。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか、片山議員。（「はい」と呼ぶ者あり）

鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

12ページ、どこでも一緒ですけど、臨時議会で期末勤勉手当が凍結されましたけど、今度の補正予算については期末手当分はどういうふうな取り扱いになっていますか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

その分は扱っておりません。凍結ということですので、今回扱っておりません。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか。

ほかに。平田議員。

12番（平田通男君）

ちょっと所管のところでは申しわけないんですが、3款2項1目の19ページですね。そこに工事委託費が組んでありませんけれども、さっき審議されました中で学童保育所のヒマワリ教室が建設が行われるわけですが、これは冷暖房費は新しい建設費の中に含まれておりますか、確認です。

議長（酒井恵明君）

こども課長。

こども課長（内山敏行君）

今回のこの21年度の補正の中には入っておりませんで、20年度の繰り越し事業の中に、先ほど御説明しました49,000千円の工事費があります。その中には空調設備は入っております。

（「了解」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第36号議案に対する質疑を終わります。

日程第6 第37号議案

議長（酒井恵明君）

日程第6 第37号議案 平成21年度基山町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を議題とし、本案に対する質疑を求めます。

13ページをお開きください。第1表、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

それでは、事項別明細の2ページ、歳出、1款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

11款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

12款1項1目．予備費、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第37号議案に対する質疑を終わります。

日程第7 第38号議案

議長（酒井恵明君）

日程第7．第38号議案 平成21年度基山町下水道特別会計補正予算（第1号）を議題とし、
本案に対する質疑を求めます。

第1表をお開きください。歳入歳出予算補正、歳入、歳出についてございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、3ページをお開きください。事項別明細書に入ります。

歳入、6款2項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

歳出の2款1項1目。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第38号議案に対する質疑を終わります。

日程第8～10 第39号議案～第41号議案

議長（酒井恵明君）

日程第8．第39号議案 基山町公共下水道工事請負契約についてより日程第10．第41号議
案 基山町立基山小学校屋外運動場整備工事請負契約についてを一括議題といたします。

この際、朗読を省略し、これより提案理由の説明を求めます。町長。

町長（小森純一君）（登壇）

今議会の当初に追加議案のお願いを申し上げておりましたが、ただいまよりその追加議案

の提案理由の説明をさせていただきます。

第39号議案 基山町公共下水道工事請負契約についてでございます。

工事名、下工21補第1号宝満川上流処理区第2 - 2号汚水幹線築造工事でございます。

6月4日、条件付一般競争による入札を行いました。

参加業者は、青木あすなろ建設株式会社九州支店、今泉建設株式会社、株式会社大島組、株式会社坂口組基山支店、鉄建建設株式会社九州支店、東亜建設工業株式会社佐賀営業所、東急建設株式会社九州支店、鳥飼建設株式会社、株式会社中野建設、松尾建設株式会社佐賀支店、株式会社松本組の11業者により入札を行いました。

その結果、株式会社中野建設代表取締役・中野武志が95,585千円で落札いたしております。

請負代金100,364,250円は、消費税を含めた代金でございます。

工期につきましては、平成21年6月16日から平成22年2月26日までとなっております。

第40号議案 基山町公共下水道工事請負契約についてでございます。

工事名、下工21補第2号高島処理区第5 - 1号汚水幹線築造工事でございます。

6月4日、条件付一般競争による入札を行いました。

参加業者は、今泉建設株式会社、株式会社大島組、株式会社栗山建設、株式会社坂口組基山支店、鳥飼建設株式会社の5業者により入札を行いました。

その結果、株式会社坂口組基山支店代表取締役・坂口孝行が74,000千円で落札いたしております。

請負代金77,700千円は、消費税を含めた代金でございます。

工期につきましては、平成21年6月16日から平成22年2月26日までとなっております。

第41号議案 基山町立基山小学校屋外運動場整備工事請負契約についてでございます。

工事名は、基山町立基山小学校屋外運動場整備工事でございます。

6月4日、指名競争による入札を行いました。

参加業者は、今泉建設株式会社、株式会社大島組、株式会社栗山建設、株式会社坂口組基山支店、鳥飼建設株式会社、安永建設株式会社の6業者により入札をいたしました。

その結果、鳥飼建設株式会社代表取締役・鳥飼善治が140,500千円で落札いたしております。

請負代金147,525千円は、消費税を含めた代金でございます。

工期につきましては、平成21年6月16日から平成22年2月26日までとなっております。

どうぞ御審議賜りますようお願いをいたします。

議長（酒井恵明君）

以上で提案理由の説明が終わりましたので、これより暫時休憩いたします。

～ 午後 4 時 17 分 休憩 ～

～ 午後 4 時 30 分 再開 ～

議長（酒井恵明君）

休憩中の議会を再開いたします。

町長（小森純一君）

工期につきましては、平成21年6月16日から平成21年12月15日まででございます。先ほどは22年2月26日と申し上げましたけれども、21年12月15日までに訂正をお願いいたします。

議長（酒井恵明君）

ありがとうございました。

よろしゅうございますか。21年6月16日から平成21年12月15日までに訂正してください。

じゃ、次に進みます。よろしゅうございますね。

第39号議案 基山町公共下水道工事請負契約についてに対する質疑を行います。原議員。

11番（原 三夫君）

今回初めての入札のように、入札契約内容についての契約の方法が余り見られなかった契約の方法になっているようでございます。今回は条件付一般競争入札となっておりますが、今まではほとんどが指名競争入札が今回は条件付一般競争入札となりましたけど、その違いと、なぜそういうふうな方法をとられたのか、契約方法を今回なぜとられたのか、その2点について。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

39号議案でございますけれども、1つは推進工ですということですね。それと推進工をする上でその高架のところJRの下を通るということで、その中でJR等と協議をした結果、条件といたしますか、として社団法人日本鉄道施設協会認定の工事監理者を配置できる場所がいいのではないかとこの協議の結果になっておりますので、そういったことを条件としてつけております。そういうことで指名競争ではなく条件付一般競争入札ということで

しております。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

以前の工事の推進工法でやったところがありますね。あそこの牛会の信号のところの、あれからずっと交番の前からあの信号までですね。あそこの推進工法で100メートルぐらいをやったんですけど、そのときにはJVを組んで条件付一般競争じゃなかったんですよね。どういふふうに違うんですかね。そのときと今回と。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

以前はJVといいますが、それを組んで親がいて子がいると。大手ゼネコンといいますが、そういったところと地元が勉強するという意味でJVを組んでしております。そういう関係も1つありましたけれども、もう1つは、一たんJVでお願い、たしか去年か、20年か21年にJVで組んでお願いしたら組む相手がいないと。親がいらないということで、こちらのほうにJVの申し入れがありませんでした。それで、ただ、推進工法でする上においてもその場合、推進工法ですると当然地場の方には委託というのですか、下請を出さなくては行けないと。下請を出す場合、特定建設業の許可というのが1つあります。というのが、自分のところでできれば問題ないんですけども、下請が30,000千円を超える場合は特定建設業の許可を持った人でなくては行けませんので、そういったところのあれでできるかどうかじゃないですけども、指名競争入札で去年たしか1回出したと思っております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

原議員。

11番（原 三夫君）

何か私はこれ専門分野じゃないからわかりませんから聞きよりますけど、今の話からすると、そしたら、今までは地場産業の建設業の地域の技術面の応援とか育成ということでJVを組んでやってしてきたですね。今の話によるといろいろ幾らか理由があったんですけど、そうするとこの中で今大分10社ぐらいあったんですかね。11社ぐらい、その中にというと、

基山では鳥飼建設ですか、基山の地場が入っているのは。もう1つ、坂口組基山支店と鳥飼建設が入っているわけですね。このことは入る資格は今の話からするとどうもないような気がするんですけど、丸投げか何か知らんけど、今の話によるとこれ入れる条件に満たしているのかなとちょっと今感じたんですよ。どがんですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

済みません。私のちょっと説明がまずかったかもしれませんが、資格要件といたしまして、まず1番目としては基山町契約規則の第6条、一般競争入札ですけれども、競争入札資格申請の提出、届け出をしていること。それと、佐賀県の建設工業等の入札参加資格の審査等に関する規則の第2条第2項によりまして土木一式工事の特A、またはA、もしくはBの決定を受けていること、それから、さっき言いました建設業法に係る特定建設業の許可を持っていること、それと5番目としては、さっき言いました社団法人日本鉄道施設協会認定の工事監理者を配置できることということで、あと2項ほど条件がありますけれども、それに坂口組基山支店、鳥飼建設株式会社も合致しております。

議長（酒井恵明君）

原議員、3回になりましたね。（「よかです。わかりました。1つでも合致しておけばいいということですね」「全部合致しております」と呼ぶ者あり）

ほかに。平田議員。

12番（平田通男君）

この件に関する落札率ですね。何%で落札をしたのかということが1つ。

それから、今回、中野建設が落札をしています、そのことに対する町長としての評価をどう考えられるのかお答えいただきたいと思います。

議長（酒井恵明君）

会社に対する。

12番（平田通男君）

落札率は。その答えに対して、例えば、何十%になったから、ああ、よかったなと思われるのか。あるいは地元、どちらとも地元が入ってないわけですね、これ全く。だから、地元業者が抜いてよそに全部行ってしまって、それでどう評価されるのか、それは町長の考

え方をお聞きしたいと思います。まず、落札率から。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

これは落札されたところだけでいいですか。それとも全部。落札したところだけでいいですね。中野建設株式会社が落札率は71.01%です。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

中野建設が落札したということ、この会社は佐賀市でございまして、私、心情といたしましては、地元の業者が落札できればよかったかなという気はいたしておりますけれども、とにかく入札ということでございますので、この会社でひとつお願いをすると。それにつきましては、ぜひいろいろ下請等ございましたら地元を使うようにというような思いはしております。

議長（酒井恵明君）

平田議員。

12番（平田通男君）

私が聞いたところによりますと、第2位は2位以降のいわゆる入札の額は全部95%以上だと。一番最後の今度とられました71%の中野建設との物すごい差があるわけですね。（発言する者あり）

そしたら、今のは撤回します。今回71.01%で落札をされたということに対する評価、どういうふうに町としては評価されますか。

議長（酒井恵明君）

町長。

町長（小森純一君）

評価ということでございますけれども、やっぱり私としましては地元がよかったなというような気がしておるというのはまず第1でございます。それから、考えていたよりもかなり低価格ですので、これから本当に工事に当たってしっかりとやっぱり監理、監督を私どももしていきたいということでございます。

議長（酒井恵明君）

平田議員。

12番（平田通男君）

そうしますと、今の県の入札等を見ますと、ほとんど最低価格を定めて入札をやっているわけですね。なぜ最低価格をしなかったのか、お答えいただきたいと思います。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

今、基山町では最低価格のまだ基準等を決めておりません。ただ、今現在、最低価格をしたらいいのかどうかというのを総務課のほうで検討をしております。というのは、工事関係もうちの全部の大体落札の平均が94%前後と、ほかのもの、例えば、設計とかほかのものを入れて大体90%前後、だから、最低制限を設けてどうなるのかなと。ただ、今おっしゃるように、調査研究を今しているところでございます。（「わかりました」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますね。ほかにございませんか。池田議員。

13番（池田 実君）

同じような質問でございますけれども、中野建設と、それから最高額のところでは30,000千円ぐらい違うわけですよ。今町長は、そういう低価格でされたところに対して工事の監督をちゃんとせんといかんというふうなことをおっしゃいましたけれども、そういったことができるような人なり、それからレベルが庁内にはあるんでしょうか。監督ができるような。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

まちづくり推進課で下水道工事を担当している者がおりますけれども、これは主に下水道協会の研修等も受けてそれなりの知識を持っておる者が何人もおりますので、実際現場の監督はその業者の従業員がするわけですけど、その現場監督をまた指揮するのは町の職員としては一応そういう知識を持ち合わせております。

議長（酒井恵明君）

池田議員。

13番（池田 実君）

民間企業ですから利益が出なかったらこれは採算が合わないというか、生きていけんわけですよね。だから、そういう中で70%も一応基準枠以下でカットした額で受注されておって本当に的確な工事ができるのかということと、それから、いろんな材料にしたっていろんなグレードがあるわけでしょうから、その辺のことまでちゃんとした監理、監督ができるなら構わんと思いますけれども、ただたたき合いになってどこかの県であるようにおかしなことになるように、私は非常に今回のこの最低制限価格を設けない制度については危惧をしていますし、特に今回はJRの下をくぐっていくという特殊な工事でございますし、万一があれば全部町にその発注責任があるわけですから、そういうことを含めて非常に大事な決断であったんじゃないかなと思うんですけれども、今検討していますじゃもう遅いわけですよね。そのあたりのことがどうだったんでしょうかということをおっしゃって危惧しています。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

今、池田議員は危惧されているということを申されましたけれども、私どもは今回は特にJRの鹿児島線の下を行っているということで非常に難しい工事ではないかというふうに考えていまして、JRともかなりこの工事の内容については詰めてきた経緯がございます。そして、通常JRの施設周辺、一定の距離はあるんですけれども、そういうところの工事をするときは通常はJRのマル特業者に発注しなさいというのが言われているわけですけど、今回は下水道の汚水管の布設工事でございますので、マル特業者でなくてもいいと。しかし、先ほど池田議員もおっしゃいましたように、とにかく基山町に責任は何かあったときはとっていただきますよというそういうことを言われていますので、非常にやっぱり注意してやっていかなければいけないということは思っております。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか。

片山議員。

5番（片山一儀君）

最後までよかったですね、2点、議案書は大体1週間前に配付をされるんですかね、一生懸命研究をしてやるわけですね。それが追加議案という手法でもってここで今急に出され

てというのは、なぜそういうふうに追加議案でしなきゃいけないかという質問が1点。

それから、価格設定は今七十数%でよかったとか悪かったとかいろいろあるんですが、パーセントというか、予定価格の問題が、設定が本当に正しかったのかどうか。これは入札のときにはAランク、Bランク、これ予算規模というか、その会社の規模によって信頼性を求めるわけですね。3年間なら3年間の実績を、それからその資本金規模でもって決めるわけです。それから、最低価格は安全性を確保するために最低基準を決めるんですよ。だから、そこらあたりがただ単に安かった、七十数%だったというのは本来100%の設定が誤っていたんじゃないかという考え方だってあるわけですね。例えば、これが予定価格がもっと下がっておれば入札率は高くなるわけですね。そこらあたりが考え方というのが2つ。1つは、なぜ追加議案で遅く直前に出されるのか。もっと前に出されない理由を教えてくださいのと、要するに価格決定ですので、今町長がどうだこうだとおっしゃったけれども、要するに1つは価格決定、落札率というのは予定価格が高ければ幾らでも低くなるわけです。予定価格が本当に正しかったかどうかという審議だってしなきゃいけない。ところが、そこらあたりができないんですよ。例えば、私の後輩が今、出雲で下水道会社の役員やっている。それあたりに問い合わせだってできないんですよ。北九州に下水道会社の同級生のだんなが社長やっているところがあるんです。そういう人にとって照会ができない。調べることができないんです。したがって、追加議案という手法が私にはよくわからないですよ。なぜもっと早く出せないのか。調べるのだけでも。それをお答えいただきたい。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

追加議案のことですけれども、設計がいつ上がってきたかちょっとよくは覚えておりませんが、経過につきましては5月11日に入札参加資格審査委員会を開いております。それで入札の方法の決定を決めて、そこで条件付一般競争入札というのを決めております。それで、5月13日に公告の内容等を決定しまして、5月15日から6月3日までを公告期間ということしております。それで、入札が6月4日でしたので、この時期に申しわけございませんけど、追加ということさせていただいているところでございます。

議長（酒井恵明君）

片山議員。

5番（片山一儀君）

私はずっと厳しいいろんな質問をしている大きなねらいは、目標管理がしっかりされてない。いつまでに議会があることは決まっているんですから、それまでに合わせてそこに出すとすれば、それに合わせて逆に入札をどうするかとかいう話が出てこなきゃいけないのに、常にでき上がり。業務予定をつくるわけですよ。最終点があって、それから逆算して業務を決めるんですけれども、皆さん勝手に自分らのサイズだけやっていって、あと追加議案でやりゃいいじゃないかと、こういう手法で、安易な物の考え方をされているんじゃないでしょうか。目標はちゃんと出さないと。例えば、納入期限があったら、この前ちょっと言ったけど、納入期限を切ったらその会社は終わりなんですよ。だから、納入期限があれば、それに逆算していつから製造しなきゃいけない、いつ原料を入れなきゃいけないという工程を全部組んでいくわけです。それが安易な手法を余り代用され過ぎるんじゃないかと。今、入札、たしか入札の公募の期間は1週間でしたかね。それを逆にやっていけば追加議案なんか出さなくたって十分間に合うわけでしょう。そういう議案のやり方を私は問題にしております。事後よく検討して目標管理の合う、目標設定の合った仕事をしていただくように。きのうから言っているように、でき上がる分、でき上がる分で来ている、多くのことが。6月に出される予定の基本条例だって忙しかったからということで次に延ばしていく。私は本当は延びた方がいいと思っているんですけれども、どんどんどんどん延びていく。要するにここで出そうといって努力をする努力目標が今ないんですよ。そういうことでお願いをして、終わります。

議長（酒井恵明君）

要望ですね。

質疑途中でございますが、本日の会議時間につきましては、議事の都合により会議規則第8条第2項の規定により、あらかじめ延長いたします。

重松議員。

2番（重松一徳君）

所管の関係ではありませんので、1点だけ質問をいたします。

今回の工事、今、県はすべて予定価格を公表されておりますけれども、過去、予定価格を出さない入札の方式というのもずっとあっておるわけですね。そういう中で、自分で見積も

りやって、そして、予定価格、落札価格を出してと。入札が予定価格に届かないということで不調になるというも基山であったかどうかはわかりませんが、私もこういう経験をずってしてきました。最低価格を組んでないということもこの工事では大変問題がこういう場合は出てくるわけですね。それで、安ければいいというもんでもないし、満額に近いからいいという問題ではないんです。これはお互いやっぱり業者が自分で見積もって、自分はこの金額で落札をして、そしてやっていけるんだというところで入札、落札をするわけです。それで、落札価格に対して余りにも低いという場合は、これは基山町として落札価格の見積もりの提出を求めることができるというふうに私は思っているんですけども、過去にそういうことをされたことはないだろうと思いますけれども、例えば、極端に低いと、福岡市とか県も70%以下だったのを落札の見積もりを求めるんですね。どういうふうな形で見積もりをされましたかと、それをですね。今回の場合は特に71%とぎりぎりのラインという面では落札の見積もりを提出を求めることはできないんですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

まず1点ですけども、一応工事内訳書というのは提出させています。それに基づいて入札が行われていますので、適正に工事は行われるものと思っております。それと、今回たまたまかどうか知りませんが、70%台が5社あるんですね。だから、当然できるものと思っております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

重松議員、よろしゅうございますか。（「あとは委員会です」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第39号議案に対する質疑を終わります。

次に、第40号議案 基山町公共下水道工事請負契約についてに対する質疑を行います。大山議員。

9番（大山軍太君）

請負のことでお尋ねいたしますが、今、地域活性化ということで国が補助金まで出して一生懸命なっております中で、この業者は本社が鳥栖にあるわけございまして、基山には支店しかありません。そこが入札で今度77,000千円でとったということで、基山に何の地域活性化にならないと思います。それともう1点は、基山の業者が鳥栖のいろんな請負に入札に入られるということをお聞きしておりますが、支店があれば権利はあると思いますけれども、例えば、基山が鳥栖に支店をつくって鳥栖の入札に入られると思われませんか、お伺いいたします。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

多分鳥栖のほうには入られるものと思っております。それはちょっとわかりませんが。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

みんな業者の方にお聞きしますと、鳥栖はもうがっちり組んで絶対入れんと。みやき町、上峰も入れんとというようなことをお聞きしておりますが、ただ支店があるから入れると。それは、前も公共事業が多いときはそれでいいと思いますよ。今本当に下水道がなくなったら今、公共事業は何がありますか、と思いますが、いかがでございましょうか。

議長（酒井恵明君）

基山の業者は、鳥栖市の事業に応札できるかどうかという問いだと私は解釈していますが。総務課長。

総務課長（大石 実君）

多分私、鳥栖から逆に鳥栖の業者が入れるようにしてくれというような要請というですかね、それがあっているんですよ。鳥栖市は基山の業者を入れているということをお聞きしている、その辺私も詳しく調べないとちょっとわかりませんが、要請等があったので、ただ、向こうの指名委員会が指名するというですかね、それかどうかというのはちょっと私もわかりません。

議長（酒井恵明君）

大山議員。

9番（大山軍太君）

以前は入られておったということで、現在はなかなか入れんというような話をお聞きしております。

議長（酒井恵明君）

今の件については、なかなか他の市の自治体のことですから、難しいかもわかりませんが、できる限り調査をして、入れないかどうかというのは、もし入れなかったら、課長の説明では、鳥栖市より、基山の仕事には応札させてくれと、鳥栖市内の業者を応札させてくれという依頼があっていると私は聞いたように思っていますが、その逆のことであればしていただきたいと思いますね。今、大山議員の質疑をしっかりと受けとめていただいて対応を。

総務課長。

総務課長（大石 実君）

済みませんけど、確認をさせてください。

私もここで正式に、突然聞かれたもんですから、あれですので、確認をさせていただいて、またお知らせするというところでございますでしょうか。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。片山議員。

5番（片山一儀君）

これ具体的に、価格じゃないですけど、どこからどこまでになっているんでしょうかね、この工事。まちづくり課長、40号議案の。（発言する者あり）追加に入っている。済みません、わかりました。はい、ありがとうございました。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますね。片山議員、いいんでしょう。

ほかにございませんか。平田議員。

12番（平田通男君）

この2つの案件が合計したら約180,000千円ですね。この180,000千円の公共事業については、基山町の事業所は全く関係しないわけですね。現在、さっき大山議員が言われたように公共事業は極端に少ない中で、最初から大体間違いなく基山の業者がとれんような形になっておるわけでしょう。現実的にはね。それで、やっぱり事業を出す以上はその辺のことを頭に入れて、そして対応をするべきじゃないですか。それにひっかかる理由は何ですか。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

指名基準というのがありまして、25,000千円以上はA級のということで、県等のA級、B級のものが25,000千円以上の指名する場合はそういう基準がございますので、それに合致するのがこの5社でございます。それと、指名が4社以上ということになっておりますので、当然そういったところはやはり基山支店とかある分につきましては基山支店を入れなくちゃいけないと私は思っております。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

平田議員。

12番（平田通男君）

そうすれば、さっき調べるというようなちょっと話がありましたが、現実的に基山町の事業所が鳥栖の入札には参加できないという現実があって、そして今度は逆に今回とっています坂口組は基山に支店があるから、基山の応札をしたと。基山支店があるから応札されたわけでしょう。（発言する者あり）

議長（酒井恵明君）

答弁は後で、どうぞ続けてください。

12番（平田通男君）続

そうすると、基山の業者と比較した場合、片方は大きな市場があって、そちらに参加をしておってそちらにとれる可能性もある。片方の基山の業者はとれる可能性はそれだけ少ないわけですよ、現実的には。もっと割って言うなら、基山がもうからんでもいいという業者も出てくるわけでしょう。

議長（酒井恵明君）

基山ででしょう。

12番（平田通男君）続

基山で。鳥栖なら鳥栖で、あっちこっちに応札する権利を持っていてやっていると。そして基山でもそれができると。片方の基山の業者は鳥栖ではできないと、私はできないと聞いているわけですよ。それを一緒に入札させた場合にそりゃ基山の業者はとてまかなわにやせ

んですよ、そういう意味からいくと。だから、その辺はよく調べてほしいと思うですね。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

先ほども言いましたように、指名、25,000千円以上はAクラスということでございます。それと、指名は4社以上ということになっております。それで、これに合致するのは、A級で合致するのはこの場合、基山では1社しかございません。それで1社に入札するということ（「1社というのは、坂口組を除いて1社」と呼ぶ者あり）そうです。ここで言う鳥飼建設株式会社でございます。それと、さっきこれも条件付でございますけれども、A級には安永建設というのがございます。しかし、特定建設業の許可をもらってありません。だから、そういうことで、基山で該当するのは1社になりますので、その辺お願いします。

先ほど基山支店ということで、いろいろ本社が鳥栖にあるからというふうにおっしゃっていましたが、坂口組基山支店でございますので、それを私どもからすると基山は2社ということになります。この中ではですね。

議長（酒井恵明君）

平田議員。

12番（平田通男君）

そしたら、いわゆる事業税はどっちに行くんですか。法人税は。本店にあるところに全部持っていかれるんじゃないか。

議長（酒井恵明君）

税務住民課長。

税務住民課長（安永靖文君）

坂口組基山支店の分については、法人税はその人数割等で基山に入っております。（「人数割て」と呼ぶ者あり）従業員割です。（「何対何で」と呼ぶ者あり）それは急にはちょっと。

法人税は基本的に従業員割ですね。全部の従業員が何名で基山に何名、例えば、鳥栖に何名、東京の本社とすれば本社何名、ですから、普通よく言われるのが東京に集まっているような大きな会社ですね、ほとんどが大きなビルの中に入って事務職がほとんど入っておられます。工場は地方にあります。極端に言えば工場は派遣とかでなかなか本従業員は少ないと。

ですから、地方は法人税は少なく入っています。本社のほうは社員ですから、事務所だけで法人税はどばっと入るといようなそういうようなシステム、税法上のシステムですから、これはどうしようもないということになっております。

以上です。

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

ないようですので、第40号議案に対する質疑を終わります。

次に、第41号議案 基山町立基山小学校屋外運動場整備工事請負契約についてに対する質疑を行います。原議員。

11番（原 三夫君）

これ工事内容そのものとは関係ありませんけど、一番裏、見えません。基山町立基山小学校屋外運動場整備工事、資料がありますけど、こんな資料出してもらってもどうしようもないです。これで審議せろというんですか、はっきり言ってから。これだれが見てもわかりませんよ。私たちも大抵目はいいいけど。必ずこのA4であらわさにやいかんということは何もないとでしようもん。これは資料を出し直してください。議長お願いします。

議長（酒井恵明君）

今は、もうきょうこれによって審議しなくちゃいけません、もう時間的、物理的にだめだと思いますが、議員も必ず住民の方には説明しなくちゃいけないんですよ。字が見えなかったから説明できんようじゃ通りません。それをかんがみながら、もう少し大きな字体でこれ差しかえをお願いしたいと思いますが、できますか。

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

資料につきましてはA4で作成をいたしてしまいました。A3のほうに修正をさせていただきたいと思います。

議長（酒井恵明君）

すぐできますか。そんなら指示をしてください。

じゃ、暫時休憩します。

～午後5時12分 休憩～

～午後5時23分 再開～

議長（酒井恵明君）

暫時休憩いたしておりましたので、会議を再開いたします。

原三夫議員より要望がありました図面が、私は目が悪いからやろう、これだけでも余り見えませんが、皆さん方に届いておると思いますので。

後藤議員。

3番（後藤信八君）

確認ですけど、この運動場工事は、いわゆる外構、それから便所とか倉庫とか、そういうグラウンド全体のあれが全部含まれておるのでしょうか。当初の21年度予算では、そういうものも入れて195,000千円の改築工事請負費で計上されておりますけど、それからすると50,000千円くらい違いますが、その辺のことについてちょっとどのようになっているか。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

今回の基山町立基山小学校屋外運動場整備工事につきましては、外構等、運動場の整備等が入っておりますけど、倉庫等につきましてはこの工事の中には入っておりません。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

後藤議員。

3番（後藤信八君）

そしたら、当初の予算の195,000千円で大体予定しておったという中で、この工事の中に入っていないのは倉庫だけですか。倉庫とか便所とか何かいろいろあると思うんですが。それだけで50,000千円もかかるという話にならんと思うんだけど。

議長（酒井恵明君）

教育学習課長。

教育学習課長（毛利俊治君）

今回の契約の中に含まれないのは倉庫と便所等の建築物については、今回の契約とは切り離している契約になります。

議長（酒井恵明君）

後藤議員、よろしゅうございますか。

林議員。

8番（林 博文君）

おかげで見える図面をいただきましたが、確かに倉庫とかなんかについては収納関係で195,000千円の中には入っていないということですが、当初話があったですね。この中で運動場の中に例えば、小さいところで余り見えませんが、ブランコとか周りの施設、それから樹木、外装関係、これはどこまで入った金額がこの140,000千円ですか。ちょっと大体。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

基山小学校屋外運動場整備工事の主な内訳でございますけれども、まず舗装工事、排水工事、それから囲障工事といって囲いとかそういったものの工事、その他工事、撤去工事などがございます。それで、その他工事の中では鉄棒とかすべり台とかブランコ、雲梯等が入っております。植栽工事については別にまたしております。

議長（酒井恵明君）

林議員。

8番（林 博文君）

植栽工事をこういうふうな形で入れれば若干安くなると思いますが、植栽工事は何でけられたんですか。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

この植栽工事につきましては、今まであった植栽を一時ちょっと移設しておりまして、これがまたでき上がったときにまた移植する、また追加で植栽をするというふうなことになりますので、今回の工事からは外しております。（「はい、よかです」と呼ぶ者あり）

議長（酒井恵明君）

ほかにございませんか。平田議員。

12番（平田通男君）

この中のグラウンドの工事の件ですが、グラウンドというのは御存じのように表面が一番大切なわけですが、基山の業者では私はできないだろうと思うんですね。専門的な業者じゃないとグラウンドというのはですね。その辺は契約をした会社と十分話を詰めてあるんでしょうか。

議長（酒井恵明君）

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（平野 勉君）

今回受注した業者は直営でできる分はしていきだろうと思うんですね。ただ、やっぱり下請に出さざるを得ないというか、出したほうがいいという工種については当然、一部下請申請が出されてしていきだろうと思うんです。今、平田議員がおっしゃいましたように、例えば、運動場についてはいわゆる舗装工事というものの中に含まれていきます。だから、その中で例えば、排水の関係とかいろいろ土質もございまして、それとサンドクレイ舗装とかいったものをするだろうと思うんですね。だから、そういうものときに多分そういう専門業者のほうに下請になっていくのじゃないかというふうに思っています。また、そのほか幾つか当然一部下請というのは出てくると思うんです。例えば、ネットのフェンスとか防球ネットとか、いろんな例えばバックネットとか、先ほど言いました遊具とは言えませんが、鉄棒とかそういったものはまたそういう関係の業者のほうに一部下請になっていきだろうと思います。

議長（酒井恵明君）

よろしゅうございますか。

鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

簡単なことですが、資料の2ページ、3ページをちょっと見ていただきたいと思います。仮建設工事請負契約書です。これの5番目に契約保証金があります。3ページのほうには担保を提供、2ページのほうには契約保証金は免除というふうに書いてありますが、小学校のほうは担保を提供させて、何の担保なのか。それと、下水道のほうは免除、これはどういうことで免除になっているのかをお願いします。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

第25条第1項第1号というのは、保険会社との間に町を被保険者とする履行保証保険契約を締結したものを提出していただいております。それと、こっちの3ページの分は金融機関の保証でございます。

以上でございます。

議長（酒井恵明君）

鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

金融機関の保証、工事の完成保証、金融機関の金銭的な保証、それとこっちの2ページのほうは、もしできなかった場合は、この履行保証保険によって別の建設会社が行うということなのか、3ページのほうは金融機関が保証をして、それを金銭的にもってそれをまた違う建設業者にかわって金融機関が工事の履行をさせるのか、その辺のことは、結局もし万が一契約でできなかったということになると担保として取るわけですけど、これは最後まで履行させるための保険ですか。契約保証金、その辺を御説明ください。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

1ページと2ページについては、そのとおりだと思っております。履行保証ですからですね。3ページについては、銀行の契約保証金に対するの保証だと思います。契約保証金に対する。第26条に、「町が确实と認める金融機関の保証」ということでございますので、契約保証金に対する保証でございます。これについては。

議長（酒井恵明君）

鳥飼議員。

4番（鳥飼勝美君）

1ページ、2ページのほうは履行保証だから、もし建設業者あたりが万が一倒産とかした場合は、その人にかわった違う業者をして、その工事代金とかそういうのも含めて最終的にはその保険がする。契約保証金だけの履行保証、これは1割ですかね。1割分だけを履行することで、工事を最後までするというにはならないんじゃないかと思えますけれども、右側もこっち側もですね。契約保証金の1割分だけを普通これは金があったところというか、

普通定期預金とか1割分出しますよね。しかし、今、保険でされておるようですが、これはあくまでも契約保証金の1割分だけを履行させるということで、その後の工事を最後までさせるということとはまた別ですね。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

済みません。私は履行分とちょっと勘違いしておりました。これについてはおっしゃるように契約保証金の履行の保証でございます。それと、この銀行保証も契約保証金に対する銀行の担保といいますか、そういうふうになっております。

議長（酒井恵明君）

鳥飼議員よろしゅうございますか。

ほかに。林議員。

8番（林 博文君）

ちょっと今の3ページのところで、この契約保証金の第26条というのを、済みませんが、ちょっと1回読んでもらえんでしょうか。というのが、1割の保証金を取っておくというのは、銀行の残高証明とか、あるいは例えば農協が指定金融機関として下に入っていますよね。そのときに契約保証金として50,000千円例えば入れておかなきゃいかんとか、そういう契約のときの指定業者というか、そういうのがあるわけですが、これは銀行からの証明書だけで例えば、147,520千円ですから1割というと14,000千円、その分の額にそういうものの保証金、ちょっと説明をお願いします。

議長（酒井恵明君）

済みません。かいつまんでわかりやすく答弁してください。総務課長。

総務課長（大石 実君）

まず、第26条でございますけれども、第10条の規定は、前条第1項、前条というのは第25条でございます。第25条に規定する契約保証金については、これを準用するということでございます。先ほど保険会社との関係とかそういったものでございますね。

議長（酒井恵明君）

その第25条がわかりませんよ。

総務課長（大石 実君）続

第25条は、「契約担当者は、契約者をして契約金額の100分の10以上の契約保証金を納付させなければならない。ただし、次に掲げる場合においては、契約保証金の全部又は一部を納付させることができる。」ということで、1号として、「契約者が、保険会社との間に町を被保険者とする履行保証保険契約を締結したとき。2号、契約者から委託を受けた保険会社と工事履行保証契約を締結したとき。」あと3、4、5、6ということであります。それが第25条ですね。

そして、第26条は、さっき言いましたように「「一般競争入札に参加しようとする者」とあるのは「契約者」と、「入札保証金」とあるのは「契約保証金」と、「町が确实と認める金融機関の保証」とあるのは「町が确实と認める金融機関又は保証事業会社の保証」と、「契約締結前」とあるのは「契約上の義務履行前」と、「当該保証した町が确实と認める金融機関との間」とあるのは「当該保証をした町が确实と認める金融機関又は保証事業会社との間」と読み替えるものとする。」になっておりますから、第25条の分を第26条は準用するということでございます。ちょっと済みません。あれでしたけど、準用するということ。

議長（酒井恵明君）

議員のほうから出ませんが、総務課長、常任委員会もありますので、常任委員会の方だけじゃなくて資料として今の第25条と第26条の今読み上げられたんですが（「今のは例規集ですから」と呼ぶ者あり）

林議員。

8番（林 博文君）

この担保の提供というのは、今回については鳥飼建設から何らかの形でそしたらとってあるわけですか、契約で。証明書。

議長（酒井恵明君）

総務課長。

総務課長（大石 実君）

そのとおりです。銀行から、はい。

議長（酒井恵明君）

じゃ、先ほどの件は、私は勉強不足で、例規集をじっくりお目通しいただきますようお願いしておきます。それでいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

じゃ、ないようですので、第41号議案に対する質疑を終わります。

以上で質疑のすべてを終結いたします。

しばらくお待ちください。付託表を配付します。

〔付託表配付〕

議長（酒井恵明君）

ただいま付託表を配付していただきましたが、配付漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

お諮りします。会議規則第38条の規定により、今期定例会休会中の審査に付するため、別紙付託表記載どおり、これを総務常任委員会、文教厚生常任委員会、産業環境常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（酒井恵明君）

異議なしと認めます。よって、以上のとおり決定いたしました。

なお、第39号、第40号議案については、総務常任委員会と産業環境常任委員会の連合審査会を、また第41号議案については、総務常任委員会と基山小学校改築特別委員会の連合審査会で審査をお願いいたします。

本日の会議は以上をもって散会といたします。

お疲れさまでした。

～午後5時43分 散会～